明治二十七年八月二十五日第三種郵便物認可

September 20th 1906.

Report of the Sericultural Association of Japan.

No. 172

大日本蠶絲會報

第百七拾貳號目錄

論議

●蠶絲業の擴張と本會の擴張　會頭男爵　松平正直

●蠶絲業の所感　丸岡寛三郎

●新蠶病原菌に就て　田村兼蔵

●生繭買の弊害に就て　石居一郎

●蠶絲業と産業組合　男爵　平田東助

●魯桑の價値に就て　池田榮太郎

●滿洲及芝罘に於ける柞蠶製絲業　鹽谷清多郎

說林

●動物の群體（外六件）　理學博士　丘淺次郎

叩門

●東北の蠶絲業　農學博士　大森順造

●佛蘭西土産　峰村喜蔵

●予が見たる夏秋蠶　尾澤琢郎

講筵

●製絲のことども　金厚つた

外報

●大韓婦人會の養蠶　田中尙

TOKYO.
The Association;
No. 2 Mitoshirocho, Sanchome, Kanda, Japan

賜天覽

寄稿を歡迎す

本會は會員諸君より說林幷に蠶界思潮への寄稿(可成短文)を望む殊に蠶絲界に名ある人物の經歷事業言行其家庭に於て世の模範とするに足る家法雇人待遇法及寫眞等を歡迎す尤も原稿〆切は毎月三十日にして一旦寄稿せられたるものは決して返戻せず但し寫眞は此限りにあらず

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報廣告料

	特等 一頁	特等 半頁	特等 四分ノ一頁	並等 一頁	並等 半頁	並等 四分ノ一頁	並等 一行
一圓乃至二圓 會員外	十二圓	七圓	四圓	十圓	六圓	三圓五十錢	廿五錢
會員	十圓	六圓	三圓五十錢	八圓	五圓	三圓	二十錢
三圓乃至六圓 會員外	十圓	六圓	三圓五十錢	八圓	五圓	三圓	二十錢
會員	八圓	五圓	三圓	六圓	四圓	二圓五十錢	十八錢
七圓 會員外	八圓	五圓	三圓	六圓	四圓	二圓五十錢	十八錢
以上 會員	六圓	四圓	二圓五十錢	五圓	三圓	二圓	十六錢

一頁は一行二十七字詰七十二行とす
四分の一頁未滿は行數を以て計算す
特等は四分の一頁未滿を謝絕す
廣告料は前金に限る

●本報定價 一冊金拾五錢 一ヶ年分前金壹圓五拾錢

明治三十九年九月二十日印刷發行

編輯兼發行人 東京市神田區美土代町三丁目二番地 小池市松

印刷人 東京市神田區美土代町二丁目一番地 島連太郎

印刷所 東京市神田區美土代町二丁目一番地 三秀舍活版所

發行所 東京市神田區美土代町三丁目二番地 大日本蠶絲會 (電話本局一四七三番)

Mr. Laurent de l'Arbousset.
Correspondant honoraire de notre Association.

本會名譽通信委員故ローラン、ド、ラルブーセー君

本會評議員故橋本重兵衛君

Mr. J. Hashimoto.
Conseiller de notre Association.

大日本蠶絲會報 第百七拾貳號

目次

論叢

●蠶絲業の發展と本會の擴張　會頭男爵　松平正直
●蠶絲業の所感　丸岡寛三郎
●新蠶病原菌に就て　田村兼藏
●生繭賣買の弊害に就て　石居一郎
●蠶絲業と產業組合　男爵　平田東助
●桑葉の價値に就て　池田榮太郎
●滿州及芝罘に於ける柞蠶製絲業　鹽谷清多郎

說林

●動物の群體（理學博士丘淺次郎）●乾繭の秘訣（山本新安）●世界諸人種の日常作法と學ぶは當世の急務（理學博士坪井正五郎）●蠶種購入上の注意（田中良太郎）●彼我の兒童（文學士三輪田元道）●樂蛆の二化（渡邊英尊）●本邦銀行の大缺典（法學博士天野雲之）

雜錄

●故橋本重兵衛氏の事蹟
●嗚呼「ローラン、ド、ラルブーセー」氏

叩門

●東北の蠶絲業　農學博士　大森順造
●佛國西土產　峰村喜藏
●予が見たる夏秋蠶　尼澤琢郎

講筵

●製絲のことども　金厚つた

問答

●桑に就ての質問並答●共撚式の綾振に就ての質問並答●微粒子病に就ての質問並答●消毒に就ての質問並答

絲況

●橫濱市場●紐育市場●里昂市場●上海市場●米國市場

外報

●大韓婦人會の養蠶　田中尚

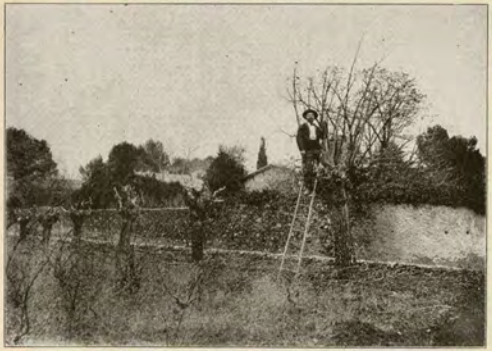
時報

●會報錄事—地方委員長の任記—新潟支會規約改正—由形支會役員の交代—滋賀支會幹事當選—三重支會規約の變更—豊後員當選及協議事項—米國絹業協會と生絲檢査問題—會員動靜●蠶業雜報—フォルマリン檢定講習會—輸出生絲の降落—養蠶奬勵事業會—上海生絲界の狀況—生絲檢査所月報—現今の桑園に就て●讀書思潮—●新刊紹介●雜書目●人事雜報●受物錄●廣告消息

佛國「モンペリー」農學校學業部に於てし屋上の裏は日本風な
取り上りなのもの右方なる建物は學生の寄宿舎

Vue de l'Ecole agricole de Montpellier.
Le tuyau en toit est fait à la japonaise.
Le batiment en droite est la pension des élèves.

同上農學校附近の桑樹裁枝の狀



Coupe des branches au champ des mûriers, près de l'Ecole.

大日本蠶絲會報　第百七拾貳號

論叢

蠶絲業の發展と本會の擴張（承前）

會頭男爵　松平正直

蠶絲業唯一の代表機關

是れより今一つ大日本蠶絲會の事に就てお話を致そう、大日本蠶絲會は今より十五年前の創立に係り、其の當時に於ては學者實業家の研究機關の樣なものであつたが、元來蠶絲業は一面から云へば對外的事業であるが、吾々日用品の賣買とは違つて外國人を對手とするのである、故に製產者たるものは一大團結を圖り協同的働作を爲さゞれば到底彼等と輸贏を爭ひ勝を制することは出來難い、即ち我大日本蠶絲會は其代表機關たらんことを自ら任じ、益其事業を擴張するに力めつゝある、昨年に於ては會の基礎を鞏固ならしむるが爲め法律の下に社團法人となし、次で又　伏見宮殿下を奉戴して總裁に仰ぐの榮を得るに至つた、松平が殿下に御懇請申上たる折殿下には蠶絲業は戰後の經營には大必要であるから喜んで總裁たることを承知すると仰せ聞けられ、後ち理事評議員一同を御殿に召させられ午餐を賜り種々蠶絲業上に就き御奬勵の御言葉を下し賜つた樣な次第である、又本年の總會には親く御台臨あらせられ、蠶絲業の功勞者に親ら賞牌を授與せらるる等、斯業に御熱心の程洵に有難き次第である。

蠶絲會の事業、會報の配付

而して蠶絲會は現今如何なる目的を以て如何なる事業を爲しつゝあるかと云へば、其目的及事業は定款に掲げてあるから會員の方は既に御承知であらうが、此席にはまだ御承知の無い方も多いと思ふから其重なる點を擧てお話をしやう、蠶絲會の事業には內外の二つ、即ち內國に對するものと外國に對するものとの二つがある、今內國に對するものより述ぶれば、蠶絲會は每月會報を發行して會員に配付する、即ち蠶絲業に關する學者實業家の論文其他講義、質問　應答、外報、絲況　本會の錄事等を掲げ約六七十頁以上百頁位の雜誌で、內外斯業に關することは殆ど擧て洩さゞるものはない、自贊ながら蠶絲業に志を寄するものゝ必讀に價ひするものと思ふ、曾

て松平より提れ多くも　陛下の天覽に供し奉ることを願ひ出てたるに直ちに御採納あらせられ、毎月之を獻納し奉ることゝなつた、其他　皇太子殿下を始め奉り各　宮殿下にも又毎月奉呈することゝなつた、又外國にも多數の寄贈を爲し以て本邦蠶業の事情を普く海外に紹介するとを力めつゝある。

蠶絲類の品評會

蠶絲會は又時々繭、生絲、蠶種等の品評會を開き、普く全國に出品を募り、審査の上優等者には金、銀、木杯を授與し以て斯業の改善發達を奬勵して居る、昨年三重縣に開きたる品評會は第八回目の開會で非常の盛會であつて、全國中出品せざる所は沖繩外四縣に過ぎなかつた、而して其最優等の賞を受けたる繭生絲蠶種は　陛下に獻納し奉り、其內蠶種は發生の期に至らば高輪御殿に於て御慰みに御飼育あらんことを願出たるに之亦御嘉納あらせられたやうな次第である。

功勞者の表彰

又蠶絲會は蠶絲業に關し功勞あるものに對して金牌を附與し之を表彰することを行て居る、本邦蠶業は開港以來實に長足の進歩を爲したが、之は突然獨り手に進歩をした譯ではない、官廳の奬勵もあるが有志者の率先之に從事し辛苦經營或は他の模範となり、或は私財を擲ち斯業の改發を圖る等、今日の盛大を來たしたるのに與つて大に力あるに相違ない、蠶絲會が之等の功勞者を世間に表彰するのは最も其當を得たものと云て宜しい、本年の授與式に總裁殿下より金牌を拜受したのは其人々の大なる光榮といふべくして聊か其勞を酬ゆることが出來たと思ふ、又功勞者の外に多年製絲に從事し品行方正技術拔群なる工女に對しても賞狀を與へるので、之も總裁殿下の御前に於て授與式を行ふのであるから本人は非常の名譽である。

授賞工女の一佳話

之に就て一の面白い話がある、或る製絲場に二十箇年以上工女から教婦と勤續して、技術も勝れ品行も至て方正な婦人があつて蠶絲會は之に賞狀を與へた、所が當人は非常に喜て實は是迄は何時まで製絲場通ひをして居ても追々年は取るしつまらないから辭職をしやうと思て居たが、斯く　皇族殿下の御面前で盛大なる式を擧げられ名譽の賞に預るとは夢にも思はなかつた、之が爲めには自分の位置も高まり殆ど學校の女教員と同じ身分にも進んだやうな心地がする、是からは製絲業を終生の職業として一身を以て之れに貢獻致したいと工場主と共に涙を滴ぼして喜んだといふことである、是は松平の耳にした話してあるが、此他こんな佳話は少くないてあらうと思ふ、即ち一般工女に對しては奬勵ともなり本人に對しては慰安ともなるので、社會に及ぼす成績は必ず見るべきものありと信ずる。

建議、翼贊上の疏通を圖る

又一面蠶絲會は蠶絲業者の意見を代表し政府に對して或は建議し、或は上申を爲し、以て上下の間に意思の疏通を圖り、

斯業の利益を増進せしめたことは尠からぬ、彼の繭輸入稅の撤去、生繭輸送運賃の輕減、生絲檢查所の事等に就き上下の間に立て力を盡し其目的を達したことも少からぬのである是は蠶絲會が政府と當業者との外に在るから大に言ひ易いこともあり、又政府も依て以て當業者の意向を知り當業者も之に依て意見を實行することが出來るのである。

蠶絲會の對外事業

以上は內國に於ける本會事業の一斑であるが、外國に對しては本邦蠶絲業の狀況を彼に知らしむるが爲め、本會より發行する會報に若干の歐文を挿入し、前にも申す通り月々數百部を海外各國の蠶絲業團體は勿論之れに關する有力の學者實業者に配布して居る、又彼の狀況を知悉せんが爲には里昂とか米蘭とか紐育とか若くは支那、朝鮮等に於ける知名の外國人及本邦人に通信委員を囑託し、時々蠶絲業に關する事項の通信を託して居る。

外人通信委員たらんことを望む

之れに就てお話がある、伊太利の「パトヴ」蠶業學校の校長に名譽通信委員を囑託した所が、同地の「カジアー」といふ有名な蠶學者が日本の佐々木理學博士の許へ書を寄せて、大日本蠶絲會に於ては余の知人に名譽通信委員を囑託されたが豫て日本の學者とも交際をなし常に日本に多大の同情を寄せて居る自分に何故に該委員を囑託せられぬのか、希くは自分も又其一員たるを得んと申越したといふことで佐々木博士は松平に其事を話した、松平は喜て曰くソンナ知名の士はコチラから頼みたいが本人に取りては隨分迷惑のことであらうと思ふて其運びに爲なかつたのである、然るに本人の希望とあれば洵に滿足の至であるといふて早速囑託の手續をした、然るに彼は大に喜て爾來自分の名刺の肩書に大日本蠶絲會名譽通信委員と記して常に用ゐて居ると云ふことである、是は一場の茶話の樣なことてはあるが、我大日本蠶絲會が漸く海外に重きをなさるるに至つたことが知り得られる。

製絲家名鑑の配布

一昨年米國聖路易に萬國博覽會開設の際には農商務省より主なる製絲家百七十餘名を指定して出品を爲さしめた、其際蠶絲會は其出品製絲の商標を盡く蒐めて同一の形狀色澤に印刷し、加ふるに其製絲場の位置、釜數、產出額等を調査編纂し之を博覽會に出品すると共に歐米各國の蠶絲に關係ある官衙、團體、當業者等に三千部を無代を以て配付し以て本邦生絲の商標及內容を知悉せしむるの勞を執つた、從來製絲家の商標は往々中途に於て剝ぎ去られ勝手な商標を貼て賣込れつゝあつたのが、之が爲めに本邦製絲の內容と商標を熟知せられ、機屋から日本の製絲場へ直接に注文を申込む者も出來た位で頗る好成績を得た、而して此出品に對して博覽會は本會に金賞牌を贈與されたのである。

海外より各種の交渉を受く

伊佛米何れの國に於ても夫れ〱立派な蠶絲業者の團體がある、此の團體から本會に對して種々の事柄を交涉して來ることが漸く多くなつた、既に米國絹業協會の如きは世界蠶絲の精確なる統計を知りたい、之が統計を得ざるは大なる欠點であつて機業家の不便不利とする所である、依て世界蠶絲需給國は相協力して之が調査を爲したい、之が爲めには列國團體より委員を出して御協議を致したいと云ふて來たが、現今の我蠶絲會の如き微力の會に於ては哀い哉彼等と步調を共にして行くことが出來ない、遺憾ながら之に應ずることが出來なかつた、其他同協會から生絲檢査の施行上に就き交涉し來りたるが如き、又は佛國里昂の協會から生絲の欠點に就て改良の希望を陳べ來りたるが如き、斯業上に關して何事に依らず時時我蠶絲會に直接交涉し來ることゝなつて本會に於ても之に對して夫々相當の所置を爲し成るべく彼我事情の疏通を圖り販路の擴張を期し本邦の利益を增進することに勉めつゝある、之れ現在我蠶絲會對外事業の一斑である。

將來の抱負、清國の調査

然れども我蠶絲會は現在の狀態を以て決して滿足するものではない、內外共に尙施すべき事業爲すべき仕事は甚だ多い、只今申述べた米國絹業協會等の交涉に對するもの、如きは少くも彼に滿足を與ふる丈けの實力を有せねばならぬ、又我蠶絲業の爲に一層海外の事情に通曉するの途を講ぜねばならぬ、歐米諸國は兎もあれ我蠶絲業の爲めに最も急務とする所は淸國蠶絲業の調査である、淸國の蠶絲業は未だ十分の調査が屆いて居らない、政府から二人や三人の技術官を派出したとはあれども未だ精確な調査を得たとは云へない、淸國に於ける生絲の產額はドレ丈けあるかそれさへ少しも分らぬ、況や其發展力の如きはドノ位であるか想像もつかないのである、一年數回の養蠶を爲し得て、繭の解舒は良く、生絲の質は美麗である、のみならず現に其輸出額は日本の上に出て居る、幸に彼れ尙飼育に製絲に甚だ幼稚にして未だ改良の何物たるを知らず、昏々として惰眠を貪りつゝありと雖も若し一朝覺醒して大に改善發達を圖るに至らば、本邦蠶業家に取ては由々しき大事である、故に今日に於て充分に彼の實力眞相を視察し以て徐に之に對するの計を爲さねばならぬ、政府に於ても素より其必要は認めて居らうが政府は蠶絲のみの政府ではない、他に一般農業の事もあれば鑛山水產等、百般の調査を要するを以て獨り蠶業にのみ專らにする能はざる事情もあらう、敢て難きを政府に求めずして吾人蠶絲業者自身に於て充分の調査を爲すべきこと、思ふ。

蠶絲業の調査は本會の責務

一箇年一億圓以上の輸出物を製產する我蠶絲業者にして此の如き緊要事項をすら調査することが出來ぬといふ筈はない、尤も個人の力を以て實行するのは或は難いであらうが我大日本蠶絲會は斯業者の團體である、我會須らく之が任に當るべきである、然るに殘念ながら我會は會員の現在數一萬餘一年の收入一萬五千圓內外に過ぎぬ、毎月會報を出版するが爲に費す所其過半に居るを以て餘す所五七千の金に過ぎない、之を以て僅かに現在の活動を爲しつゝあるに過ぎぬ、到底此微力を以て内外各般の調査を遂行することは出來得ないのである。

大に會務の擴張を要す

之は淸國蠶絲業調査に就てのみの事であるが此他之に類する事項、或は蠶病に關する調査、或は森林原野に關する調査等殆ど擧て數ふべからざる程の仕事がある、是等の調査を爲し以て蠶絲業の方針を定め利益を計らんとするには少くも每年五萬や七萬の經費を要する、若し是丈けの經費を支辨するを得ば內外に對し充分の調査實行の任に當り、日本帝國蠶絲業者唯一の機關として辱かしからぬ成蹟を擧げるとが僅かに出來得ることと信ずる、而して此收入を得んとするには現在の組織に於て全國十萬の會員を得れば即ち一箇年十五萬圓を得、會報其他の經費を引き去て七八萬の金を得らるゝのである、故に松平は會運をして速かに此に至らしめ而して是非共是等の抱負を實行するに至らんことを切に望むのである、是を以て茲々諸君に會し我希望目的を述べ以て諸君の同情を得んと欲する所以てある、希くは自ら養蠶に從事せらるゝと否とを問はず、苟くも國家の經濟上及最後經營上に於て蠶業の發展を急務とせらるゝの諸君は相率て我大日本蠶絲會に入會して其擴張を資け其基礎を鞏固ならしむることに御盡力あらんことを切望するのである。

松方伯爵の注意

終りに臨み一言申上ぐることがある、松平が今回東京出發の際、松方伯に暇乞に行て、今回は斯く〱の用務を以て九州各縣に出張するといふことを述べたれば、流石に經濟界の泰斗と呼ばるゝ伯は今日蠶業發展の急務を認めて居らるゝから、大に喜てそれは良い事をして呉れられる、ドーぞ十分にやつて貰ひたい、就ては此に一言君にも注意して置くことがある、それは外ではない、幾等蠶業が宜いと云つてもソンナに生絲許り拵へると販路が無くならうと、コーいふ杞憂を抱て居る者が九州地方に在ると聽て居る、海外需要地の狀況は君も知て居る通て日本の生絲が幾等增殖した所が販路が無くなるといふ憂はない、然るに此樣な誤解をする者があると蠶業發達の上に妨げとなるから君は九州へ行たら此點を充分に話して貰ひたいと言はれた、依て松平は曰く伯の御忠言は有難く拜承致しました、此事は伯の金言として普く人々にお傳へ申すべしと厚く禮を述べて分れたのである、松平は此松方伯の親切なる忠告に從て聊か海外需要地に於ける狀況の一斑を述べやうと思ふ。

海外販路の狀況

抑も現今歐米諸國に於て絹布類を用ゆるのは社會の上流に位する少數の者に過ぎぬ、即ち皇族とか貴顯紳士とか外交社會とかであつて、之も主に婦人の衣服となるのみで男子は殆ど使はぬと云て宜い、男子は僅にネキタイ及帽子に付けるリボン位である、下女の如きは唯之れを羨むのみ到底肌に附けることとは思ひも依らぬ、アチラの下女は一般に白い金巾の服

を着て居る、それて給金は日本の下女の五倍も十倍も取て居るが、日本の下女は一枚や二枚や紬着物を持て居らぬものは無い、加之に紬布を前垂れにして居るといふ贅澤な始末である、現今米國あたりで紬を用ゆる程度は假りに社會を一尺の高さとすれば上から一寸位の部分丈けしか用ひられて居らぬ、之は何が故てあるかといふと紬の鮮麗にして優美なるは誰も好まぬ者はないが、アチラでは非常に高價てあるから未だ日本のやうに上下おしなべて實用的に用ゆるとが出來ぬのてある、若し一寸の部分の需要が今少し擴張して一寸五分となつたならば非常のものである、所謂一寸以下の階級の人間は上の一寸の人員に比して非常に多いのは何れの國も同樣である、故に僅か五分の處を擴張したらば現今の日本生絲が倍になつて追つ付く譯ではない、殊に米國の如きは非常なる速力を以て日に月に發達し、其富は時々刻々に膨脹して行くのてあるから今後の需要倚幾層倍となるやを知るべからずてある、然るに幸に其米國は日本の最大華客て同國に於て需要する生絲の過半は日本絲て、日本の輸出生絲の過半は又此國に需要されつゝあるのてある、思ふに日本の蠶業擴張の速力は或は彼の發達に伴ふことが出來ないかも知れぬ、斯く申述べたならば生絲の前途は實に洋々春海の如して、販路の有無を案ずるのは全く杞憂に過ぎぬといふことが明かになつたことゝ思ふ。

九州は天賦の養蠶地

尙一言申述べたいのは松平は今回の巡回により益九州の蠶業に大に望を屬した、土地は肥沃にして桑園と爲し得べき地は至る所に在り、氣候は溫暖にして關東東北の毎年苦めらるゝ霜害の患は無し、實に天賦の養蠶地である、客年松平は關東東北を巡遊したが、同地方は從來の養蠶地であるから、輙もすれば學者や役人の言ふことは素人衆の言ふことゝして取り合はないが、此九州地方は新開地であるから幼稚な丈けに惡い習慣もなく、先輩の言ふことて善いと信じたならばドシ〳〵實行する、故に其施設誘導宜きを得れば著しき進歩を見るに相違ない。

九州の繭總額は長野縣の四分の一

然るに現今の養蠶は九州全體に於て繭の産額一箇年約十萬石に過ぎぬ、長野縣下一箇年の産繭は四十五萬石で福島縣下では二十三四萬石である、故に九州七縣の産額は長野に比して四分の一福島に比して半額にも達せぬ、之を以て其將來發展すべき餘地の如何に廣大なるかを知るに足るのである、若し夫れ此二縣下と同一程度に進步發達せしめたならば非常な産額となり非常な富を得ること、なる、而して其此に至らしむるには敢て至難の業ではないと信ずる、併し之を爲さゞるとは唯諸君の奮發如何に在り、願くは松平の言ふ所を了解せられて蠶絲業の大發展を圖ると共に本會の擴張に盡力せられんことを此に再び希望を述べ滿場諸君の御同意を希ふのである。(完)

製絲業の所感

(大日本蠶絲會第一回總會に於て)

特別會員　丸岡寬三郎

私は製絲業の所感と云ふ題の下に少しく御話を申上げたいと思ひます、見渡す所此蠶業上に付て充分御經驗のある御方々又は此業に付きましては先輩者たる大家諸君の中に於きましてツマラない御話を申上げるは實に恥入りますけれども數合せの中に一人加はりまして暫くの間前座を勤めることに致したのてございます。

私の申上げる事柄は如何なる事てあるかと言ひますと、敢て嶄新な事でもなければ又珍しい事柄を申上げるのてはないのてございます、畢竟皆樣が御感じになつて居る事柄てあらうと存じます、さりながら私が是より申上げんとする所は製絲業上に於て餘程大切なることゝ思ひます故に一度より二度、二度より三度、一人より二人、二人より三人と云ふやうに成るべく聲を大にしてさうして此大切なる事柄を成就させると云ふことが必要てあると感じます、故に甚だ珍しくないツマラないことを申上げるのてございますが、惡からず御含みを願ひます。

私は十數年來製絲業に從事を致して居りました、それは只賃金を卸してやつたと云ふだけてなく、自分自身に原料の取入れから乾燥貯藏、末は其荷造りに至るまで自ら親く其業務に當つてそれ〳〵の手續きを一通り承知致しました、其間に得たものは何てあるかと申しますると、何も別に取留めて申上げることとは無いのてございます、只其間に製絲と云ふものは斯の如き手續きを經て斯の如きものてあると云ふ概念を得たと云ふ位なものに止つて居るのてあります、其後橫濱に於きまして生絲の貿易に十年間ほど從事致して見たのてございます、是亦何等の得る所もありませぬが、併し生絲の貿易は斯樣なる評合のものてあると云ふ事柄だけを悟つたのてございます、其時に於きまして私は一つの感じを起しました、それはどう云ふ事柄かゝ申しますると、地方に於て製絲をする所の人々の考へと、それから橫濱の貿易市場の事情とが互に疏通して居ないと云ふことの感じを大いに惹起したのてあります、それはどう云ふ事情てあるかと言ひますと、どうも地方の製絲家の多くは此製品の優美なること、又は技術上に於きまして成るべく良品を製出せんとする、一口に申しますと技術上に於て大いに發展をして見やうと云ふ考へが多くの製絲家にあるかのやうに考へるのてあります。

そこて橫濱の市場と云ふものは成るほど品物は良くなければならぬ、製品は優美てなければならぬ、それは論ずるまでもないことてございますが、もう一つ其上に此貿易市場に於て取引きせらるゝ所の商品は貿易的の資格と云ふものを備へなければ如何に其製品が優美でも善良でも其製品自身が持つて居る所の價格だけを充分に取得ると云ふことは甚だムヅカシいことてございます、其貿易市場に於ける商品の資格と云

ふものはドンなものかと申しますと、それは矢張り相當の荷物が纏り相當の數が揃はなければならぬと云ふことでございます、それで地方に於きましては七十人とか五十人とか三十人とか云ふやうな製絲、是は決して小さな製絲でございませぬけれども、それ等の工場が個々分裂して互に幾分づゝ技術の優劣を持つて各々城壁を築いて相下らない、さうして其幾分の技術の優劣を持つて互いに相誇り、若くはそれと競爭して居ると云ふことは是は横濱の貿易市場の上から見ると如何にも横濱の事態を解し得ない仕方であると云ふことを大いに感じたのでございますと、それで薄か三十三年でございましたか、私はそれ等の事情を一通り書きました、それは即ち生絲整理論と云ふ名義でとれ〳〵の方面に進言を致しました、又其當時新聞雜誌にも掲げました、又本會の會報にも掲けて載いたのでございますから、中に或は其趣旨を御一讀下された御方もあるやに思ひます、其趣旨はドンなものかと言ひますと、矢張り前に申しました事柄を敷衍したのでございまして、何分少數の絲を個々に出すと云ふことは其しく不利益である多少技術が進んで居ても其製品が優美でも少數なる生絲は如何にも貿易市場に勢力が無い、技術と云ふ上に付ては誠に有難い製絲でございましても、さて其貿易場裡に於て貿易的の資格を備へて居ない生絲になりますと其賣上げの上に於て價格の上に於て非常なる損失があると云ふことを精しく辯明をしたのでございます、殊に又價格の上のみならず其製品の借用を得やうとするには數回買手に向つて賣らなければ買ひなぢむと云ふことが無い、一年に二回や三回、三回乃ち五回乃も隔てゝ、賣るやうなことでは買う人も其の品物を買ひなぢみが無ければ其製品に向つて借買ひなぢうちひとこと云ふことが無い

横濱生絲檢査所繰糸室

用も乏しく、年の利害を一時に決せねばならぬ、若くは利害の半は之を一度に決せねばならぬと云ふ大變危險な不利がありますす、併し相當に荷物を纏めます時に賣る時の度數が多く、毎回に賣つてさうして年中の平均を取ることになりますから大いに其危險が少いとこゝに云ふのでありますす、されば何に少して其目的を達するかと言ひますと、それは俄かに幾百人取りと云ふものを搾へると云ふことは容易に行はれることでない又幾百人取りと云ふやうな大規模のものが一時に各所に起ると云ふことも一つの疑問である、只は果して利益か不利益かと云ふことは

を行ふことは在來の工場相互の共同の荷造りとして出すのみに途は無いと云ふことを私は當業者に向つて訴へたのでございます、其當時私の思ふには斯樣な事柄は、五年七年の後の今日に於て尚必要として同じ事を唱はねばならぬと云ふ次第であるといふのは、此製絲業が大いに進歩したげに見えゝ又唱へられつゝあるけれども、其實製絲業と云ふもの、情態は甚だ遲々として其總體に進むと云ふ方の歩武が甚だ遲緩であると云ふことを私は大いに嘆くのでございます、成ほど日本の製絲と云ふものはそれは年の慣因もございまして其數の出方が多かつたり少かつたりしますが、年來の總出高と云ふものは比年段々増して來て居りますが、此製糸の増加は即ち進歩である決して不進歩ではない、さりながら是は總體の數の増す譯であつて製絲業それ自身が、ドンな情態に進んで來たか、どれだけ安全の地位に進んだか、どうなつたかと云ふことに至りますと、製絲業の困難と云ふことは相變らず困難であつて毫も進んで居ないと申しても大いに間違つて居らぬ、過言でないと私は思ふのであります、されば何にすればよいかと言へば、どうして互の團結を相變らず相近寄つてさうして隣保相協力して此共同荷造りに依つて共同の作用に當り共同の利益を收めるに途が無い、詰り製品を纏めるとか云ふことが今日に於ても將來に於ても大いに大切なことと思ひます、それで一朝此事が行はれると云ふことになりますと、製絲業と云ふものゝ進歩は著しく目立ち、惚し此事柄が行はれませぬ時には製絲業の進歩は甚だ覺束なく容易に期し得られぬことゝ思ひます、それで此事柄を承知されて居ると居らぬとでは製絲業と云ふものの上に大なる關係を持つものでありますから、農商務省の方に於きましても又各府縣に於きましても此針路を以て大いに鼓舞して貰はねばならぬのみならず、どうか諸君も此方面に歩武を進めるやうに御心配下さることを私は只管諸君に向つて願ひ且つ訴へるのでございます。（未完）

我れを顧みる勿れ

一性急人あり曾て急運の用件を帶び茫所に至る某徒歩するの遑きなく惧み車に駕して駛走爾其運々たるを愛え駕りに車丁を叱咤千遂に濱りて塵上に落ち痛且呻んで曰く用急なり我れを顧みず早々疾走せよ

（大美百話）

新蠶病原菌に就て

通常會員　田村兼藏

新蠶病原菌と稱するは彼の蠶體皮膚面に點々黑斑を生じ又尾角脚等を黑褐色とならしめ又蠶兒を斃死せしめて褐色となし、亞で黑色となし軟化腐爛せしむるところの病原菌を云ふ。

斯く蠶體の皮膚黑色斑點を呈するところの病原菌のものは、從來各種の蠶兒に對し、ところの蠶兒に對して、外觀然るのみに健康に害なきものと認めり、而して活潑なる運動性を有し「アニリン」水「サフラニン」及び「チールス」液にて能く染色す。

該細菌を以て蠶兒の皮膚面に人の任意に書くときは、夫れより拾五時間位を經れば其書きたる如く蠶兒の皮膚面に黑斑を生ずるものなり、又該細菌を蠶兒に添食せしむるときは夫れより二晝夜乃至三晝夜を經て蠶體縮小し胸部のみ膨大し斃死するものなり、斃死したる蠶體は初め褐色を帶び是れより黑褐色となり、軟化腐爛するものなり。

而して普通の場合にありては蠶體濡れたるときは、即ち濕桑を與へたるとき、又は蠶座湿潤なるときは病蠶の糞にによりて傳染するものにして夫れにより黑斑を生じ又蠶兒を斃死せしむるものなり。

斃死する一晝夜位以前に尾角を切斷し、其の血液を採集し之を顕微鏡にて檢する時は、細菌を認むることを得、此等の細菌は直に之を純粹培養し得へきものなり斯の如く尾角を切斷して血液と共に得る細菌類は總て殆んど純粹のものなれば

此等の方法は何れの蠶病を研究するにも應用して一つの便法なるが如し。

以上研究の故績により此病原菌の作用により起る病蠶は、之を黑斑病と命名すべきか、又本病原菌の作用により蠶體の皮膚黑色となり、又其死蠶も軟化腐爛し黑色となるものなれば、本病原菌と眞の軟化腐爛病原菌とは、從來の病菌の區別に明かならざりしものなれば、全く該細菌の發見せられざりしによるなれども、されば本病原菌は恐らく性質性能化病原菌と命名し、其病原菌によりて發起するところの病蠶は之を眞軟化病と稱すべきものならんか。余は本菌最初の分離者として世に本菌の研究を望まるゝあらば、之を分與し研究せられんことを希望するものなり。

スペンサー

最新學説を人は最新の滿足を有す

生繭賣買の弊害に就て

學藝委員　石居一郎

生繭賣買は古來種々の方法行はれ、各地方共其習慣を異にするを見る、是れ主として土地の交通の便否並に養蠶家と製絲家との取引關係より自然に習慣となり、遂に之を改變すること能はざるに至りたるものなりと雖も、其弊害や實に多く近來益〻多きを加へたり、故に今此舊慣を打破して正當なる取引法を立つるは養蠶家と製絲家との最大急務と云はざるへからず、今各地に於ける主なる取引方法を擧くれば、即ち重量を以て賣買するものあり、容量を以て賣買するものあり、而して桝に紙桝あり斗桶あり、又或地方にありては繭掻き取りの際、一枚に壹貫匁或は斗桶に一杯を並べて棚に差し置き其枚數によりて取引を行ふ所ありて、皆各弊害の之に伴ふものあり、何れを以て完全なるものと云ふことを得ず、何となれば繭は米又は酒の如く量り易きものにあらざるが故に、其方法の如何によりて差量多く且つ多數の取引をなすに悉く量り淺すことの容易の業にあらざるを以て、實匁を以て取引するを比較的容易にして正確なりと云ふを得れども、是又多くの弊害あると免れず、其弊害とは何ぞや即ち繭早掻きの弊是れなり、近時繭取引の多くは衡量によりて行はるゝと同時に、之に伴ふ早掻きの弊害實に

甚たしきを致せり、夫れ蠶は老熟して結繭を了るや幾くならずして化蛹するものにして、此際に於ける饉重の減少は實に著しきものとす、爰を以て養蠶家は可成其重量の減少はなんことを欲し、勢ひ早掻きに流るゝに至り、拙て加へて例年に於ける繭相場の先行下落の傾向あり、遂に賣急きをなし、且つ製絲家の競買仲買人の賣あせり、其他の事情により、早掻き繭の市場に表はるゝ事年を逐ふて甚しからんとす殊に本年の如きは上蔟結繭中氣候冷氣にして蠶兒の化蛹に多くの時日を要せし爲、其弊害實に著しくして全く化蛹したるものは殆ど稀に見る處にして、通常二三割多きは六七割甚だしきは繭の全部悉く化蛹せず蠶體の儘朽然たるものありなり。

今是等の弊害を排せんには繭の取引に切て乾繭賣買に改正するを措て他に完成を期するの道なからん。今生繭賣買と乾繭賣買との不利なる點を列記して其何れを可とするやを論ぜんとす。

生繭賣買上不利なる點

(1) 繭相場先行下落の推測上より、養蠶家は繭を賣り急ぎて早掻きをなし、繭質を害するのみならず、化蛹するものを賣り附けて、製絲家に損害を招かしむること。

(2) 若掻繭は製絲するに當り口明き繭多く生ずること。

(3) 若掻繭は製絲となし、額節多く尚絲量減少すること。

(4) 製絲家は原料繭を一時に買入るゝ必要より、勢ひ競買の結果見越買をなし、不當の高價に買入れざるべからざること。

(5) 生繭は運搬中、蒸熱の爲に著く繭質を損傷せらるゝこと。

(6) 一時に多量の繭を殺蛹乾燥せざるべからざるが故に多額の設備費を要するのみならず、稍もすれば此間に繭質を害するの憂あること。

(7) 一時に多量の繭を購入するが故に、流通資本の多額を要すること。

(8) 仲買人の奸策に罹り易きこと。

生繭賣買上養蠶家の利する點

(1) 仲買商人多きが爲め、自ら競買となり價格の勝貴する傾きあること。

(2) 繭を賣却するに居なから、遠に取引をなし得ること。

乾繭賣買不利なる點

(1) 殺蛹乾燥法一定を欠く事

(2) 異種の繭を混合するの憂甚しきこと。(但し仲買人に於て)

(3) 繭の鑑定比較的困難なること。

乾繭賣買上養蠶及製絲家の利する點

(1) 賣買上正確なる取引をなし得ること。

(2) 仲買小商人の減少すること。

(3) 嵩保品として倉庫に預け置かるゝこと。

以上擧げたるが如く生繭賣買により製絲家が蒙る所の不利は實に甚だしくして、乾繭賣買上に於ける際害は之が矯正を期すること決して困難ならず、されば將來繭の取引を正確な

らしめ、繭價の相違を防ぎ、流通資本を減ぜ、稀して安全なる工業組織となし投機の弊を免れしめんには、是非共乾繭取引の方法に依らざるべからず、然りと雖も既に前述の如く乾繭取引にも亦弊害の存するものなきにあらざる故に、之を矯正するの策を講ずるの必要あり、即ち養蠶家に於て完全なる共同乾繭場を設け、其の手經ざらしむるにあり、而して之が完成を期するには、當局の協力を俟ひ、之を取締るが同時に共同乾繭場に向ては、相當の補助金を與へ之を慫慂保護するには、如何に生產の賣却と製絲家との氣脈を通じ、互に相扶けざるべからざるかの問題に帰し、自己の欲する時期に賣却するを得べく、製絲家は原料を要する時期に臨み、自己の滿足の相場を以て自由に購買するを得て決して見越買をなすが如き危險を踏行を要せざるなり、爰を以て製絲業は確固たる安全の工業と稱するを得るに至るならん。

蠶絲業と產業組合

（新潟支會大集會に於ける演說）

特別會員　男爵　平田東助

閣下、諸君、今回支會及び實業大會の開會に付て招待を受けまして來港致しました、只今御紹介に預りましたことですが、私も會員であるから、諸君に此一堂で面目に掛つて所感を述ふるといふことほど私の光榮とする處であります。

養蠶製絲業は我邦に大切なることは申す迄も無い、これを貿易品に見ても生絲織物の高は、優劣上上座つて居る、如此く多種なのは國家生產の命脈といつても宜しい、故に如此く數量も増し品質も改良して益發達を圖らなければならぬ、之を經濟の上から眺ても改良及び普及を計らなければならぬことであります、私は此の改良及び普及を計らないふことに付ては、共同の力に依るといふことが最も必要であらうと思ふ、信濃川の水も岩間の清水や澤々より出る水が相集まて大河と爲るのでこれ等の水が段々集つて一の水溜りと爲り遂には川となつて、流れ顯る多大の水量を以て此の新潟驛下を貫通し日本海に注ぎ、日本に於ても有數の大河と稱せられて居るのである、恰かも此製絲の業に於ても左樣だらうと思ひます、人か一人々々で日夜の苦心に依つて出來た所の此絲が、我が國民の需用を充し、其他海外に盛に輸出して遂には如此き巨額の金を我國に收得させるといふ所のもの

になるのである、さりながら此生繭も亦一個々々としては誠に微々たる物であるが、之を集めて共同に利用すれば、船を浮べ筏を浮べるなどの用に供することになるのである、此の如き相集まりて本邦第一の輸出物産となる、此れを集めて共同に利用すれば、船を浮べ筏を浮べるなどの用に供することになるのである、此の如き相集まりて本邦第一の輸出物産となる、

ならば、折角得た所の此製絲も當然に値ひし得べき所の價ひを得ずして了らなければならぬことになる、然らばこれ等の弊害に向つて此等の不利益に向つて救濟するに如何なる方策を講しなければならぬかといふと、協同團結に依て救濟しなければならぬといふことを此參考までに申上げたいと思ひます。

北の協同團結は如何なる法に依るかと云ふと産業組合に由る方が最も宜かろうと思ひます、乃ち養蠶家に於ても一の協同團結に依つて蠶病消毒器及藥品器械を購入し、蠶室蠶具の消毒を行ひ又は傳染する所の病菌も死滅して恐れをする又繭の乾燥をするというのでもそうである、又乾燥器械を拵ふことは生産家がこれを一己人としては普ねく行きゝ渡らぬから協同して拵ふことゝ拵ふことは出來るけれども、これは普ねく行きゝ渡らぬから協同して拵ふことゝ拵ふことにするとか普及することが出來る、如此き文明の利器を資産に乏しき小農家諸君に於ても利用することが出來るといふことになる、又之を生絲に拵ふことにしても最も其必要を感する、又之を販賣する諸君に於ても此の團結の力に依るといふことになれば、誠に敏速に順序よく、目的を達することが出來る、サア、こうなるといふと、養蠶

韓國駐劄軍司令部

の不利益も無くなり、從來よりも一層の利益を得ることが出來る、又段々と話しをする如く、國家の福利を增進することも出來る、果して此製絲業にして進歩發達した其の暁に至つては恐らくは今日の倍額に爲ることが出來ぬことは無い思ひます、承はる所に依りますと、當縣の養蠶は尚ほ幼稚の域に在るといふことでありますが、私はそれが却て有望のものであらうと思ふ、進んだものといふものは兎角退く傾向があるが、幼稚といふ者は益々これから進むといふ結果になる、尚ほ幼稚の域にあるといふものはこれから生長するといふ要件がチャンと附いて居る、故に當縣の如き養蠶業か、將來に向つて有望で、大に力あるとと斷言するのであります、故に今日此所にて御會合になつて、將來蠶絲の發達及び改良について尚ほ一層御希望になるとふことは大に慶賀すべきことであると思ふ、亦ひにも私は今日此所に列席する光榮を得まして諸君に御會見を得ました好機を利用して一言所感を述べて諸君の御參考に供した次第であります。

魯桑の價値に就て

通常會員　池田榮太郎

蠶絲業の發達と共に一面には桑園の增殖甚だ盛なり、殊に夏秋蠶飼育の盛大となるに從て之に充つる專用桑園の栽植目を逐ふて增進するに至れり、是岡家斯業の前途に對つて慶すべきことなりとす、然るに作物は其氣候風土によつて適否あるを以て各地方に依りて種類の撰擇に注意せざるべからざるは既に當業者の知得せるところなり、概して暖地には大低の種類之に適するも寒地に進むに從て適種の數を減ずると常とす、今本邦に於ける桑樹に就て之を見るに九州の如きは殆んと凡ての桑種發育し東北地方にては僅かに赤木魯桑、高助鶴田、市平の如き數種の他之れが發育を見る能はざるが如し去れば暖地は栽桑容易にして寒地は頗る困難に又種類改良上暖地は容易に寒地は困難なるの傾きあるを知られん、去れば寒地の如き發育期短くして營養氷積せざる地方は特に種類の撰擇に注意するは栽桑上吾蠶業經營上最も肝要なることに屬す。

今日本邦に栽植せらるゝ桑樹の品種は無量百有餘種の多きに上るも一地方に限りて特に良種と稱せらるゝもの數多あるが如き全國を通じて良好の種類と呼ばるゝものの極めて少數なり、予は此少數中魯桑を以て卓然他を拔ぜる秀逸の桑種なりと認むるなり、左に聊か魯桑の特徴を掲げて該種の栽植を奬勵せんと欲するなり。

魯桑は本邦の原產にあらずと雖も發育の區域頗る廣く、即ち西は九州の涯端より北は北海道の島端に至るまで、殆んど栽培に適せざるはなく然かも其繁茂の旺盛なること寒暖共に異ることなし、此一事を以てするも全國各地此種を栽植して利益あること他桑の及ぶところにあらざるなり、彼の赤木の如きも寒暖共に繁茂すと雖も、暖地にては天牛の害に罹り易く而して其葉質善良ならざるを以て、主として雪國にのみ栽培すべきものならん高助又可なりと雖も暖地には其害多きの缺點あり。

魯桑は枝幹葉梢の繁茂著蒼鬱々たるに比し、凡ての虫害に罹ること少きは確かに他桑樹より一頭地を拔くものなり、予は實驗上同地に同一の仕立法に依り天牛の害に罹ること、赤木の十分の二に過ぎさることを確めたり、實驗深き營業者も必ず之を認めたるものあらん。

次に仕立法の適否より見るに、桑は元來叢木なるも鼠返小枚細江の如き高木整枝に適せざるものあり、魯桑は概して高木を最良とす故に東北地方の如きは勿論九州地方又高木として魯桑を栽植すべし、從來暖地は高木に不適なりと稱せしは虫害就中天牛の害を怖れてなり、然るに魯桑は比較的此害少きは有望なる高木仕立及普及上魯桑の栽植を促さざるを得ざるなり、而して魯桑は單に高木仕立にのみ適せりといふ能はず、暖地は根刈として能く繁茂すること日向に於て魯桑の根刈は他桑の遠く及ぶところにあらず、又清國廣東省大良縣の如きは六化蠶を飼育するに、殆んど魯桑の根刈なり、之に依て見れば魯桑は高木に好適する特徴を有するも、暖地にありては高木根刈共に恰適するものといふべし、又近來夏秋蠶專用桑園に魯桑の實播を密植して根刈と爲し、其成績頗る佳良なりといふに於ては魯桑の價値一層昇貴せりといふべし、又秋田仕立に於て魯桑は最も恰適せるのみならず他桑に比し成木に一年を進め得べきこと吾人の實驗上證明するところなり、即ち赤木は五年にあらざれば成木せざるも魯桑は四年にして成木し、五年目には赤木の六年目と同一の夏伐を施すを得るなり、營業者幸に整枝上に注意して實驗あらば予の說の誤らざるを知るべし。

濱江は松花江の第三位にある大河なり其幅廣く水赤濁して滿洲地方の北にあらず本圖は此濱江に於ける東清鐵道の鐵橋なりとす

濱江の鐵橋

魯桑の發芽時期は關東地方にては二三齡以後の蠶兒を飼育するに適するを以て、通常之を中生桑となせども日向の如きは其發芽早生桑と同一時なるを以て初齡より之を飼育することを得、即ち早生桑となし壯蠶

まで之を使用し得るは事實なり、又東北の寒地にありては發芽早生に稍々遲るゝも一度發芽するや早中晩殆んど一時に相並んで發育伸長するを以て、桑脊を以て初めより上簇まで飼育し得るなり、故に九州の如き暖地は勿論東北地方の如きは此桑一種を以て足れりとす。

營養分を永續すること亦魯桑の右に出づるものなし、即ち見よ早春發芽してより其葉蓁々濃綠滴るが如く、蓊蔚繁茂して晩秋に至るも尙ほ黃變せず、初霜に依りて初めて落葉するもの、實に此種の如きなし、魯桑の長所中最も長所とすべきは此點にして、本邦桑種の未た曾て見る能はさるところなり蠶兒の春によし夏によし秋によろしく、滋味濃厚豐軟津々たるもの洵に桑中の君子と稱すべきか。

魯桑の營養分は右の如く多滋にして永續するものなるに世人往々魯桑を以て纖維多く滋養分に乏しく、而して水分過量なる不良の桑葉となして排斥するものあり、固より無經驗の謬說なりと雖も斯業の改良を妨ぐること少なからさるを以て、左に分析の結果を掲げて之を示さんに。

成分	魯桑	山中高助	赤木
水分(新鮮葉百分中)	七〇、八〇	七四、〇〇	七五、八〇
粗蛋白質	三四、八〇	三二、〇〇	二九、四〇
脂油	四、七〇	五、四〇	四、九〇
纖維	一二、三〇	一二、二〇	一四、九〇
可溶無窒素	三六、一〇	三九、〇〇	四一、一〇
純蛋白質窒素	四、二四	三、九〇	三、七二

是に由りて觀るときは普通高木に適する山中高助赤木に比して水分著しく少く、蠶兒の營養上最も有價なる蛋白質多く面かも窒素は蛋白質中蠶兒の消化に必要なる純蛋白質窒素として存在すること他の桑に比して甚た多量なるを知らん、今右三種の滋養價を算出するに、魯桑は一七九、八 山中高助は一四五、八赤木は一三九、一の割合となる。

世の魯桑を給して失敗するものは、思ふに葉肉の厚薄を顧みす重量に依りて之を給せずして單に面積を以て見量給與を行ふの結果、殘桑蠶箔に堆積して蠶兒の衞生を誤るによるべし、今魯桑の葉肉の厚さ及重量を他の二三の桑葉と比較を試むるに左の如し。

	(但一百枚の厚さ)	重量(一寸八分方百枚に付)
魯桑	一寸一分七五	十六匁九分
鶴田	八分一〇	同上 七匁
赤木	八分六五	八匁八分

更に三分方剉一升の重量及百匁の容積を見るに

	一升の重量	百匁の容積
魯桑	九十三匁二分	一升六勺
鶴田	八十一匁六分	一升二合四勺
赤木	六十七匁	一升四合[illegible]勺

即ち魯桑の葉肉著しく厚く從て同重量の容積他桑に比して少きは瞭かなり、之を以て他の薄葉と同容積に給與する失敗を招かざらんと欲するも得べからざるなり、斯の如くして其罪を魯桑に負はしむる其責飼育者に歸せすして何ぞ、之を例へは煎餅を二平方尺食して適量なるものを、之れに代ふるに饅頭を二平方尺食せんとせば、啻に之を食ひ餘すのみならす或は胃病を發し殘食量は又腐敗して惡臭を放つに至らん、是饅頭の罪なりや食せし人の罪なりや、問はすして其罪人にあ

るを知らん。

今桑葉の滋養分の水續を證せんが爲め、暫く先輩者の分析成績をかりて之を示さん。

	成分	水分	乾物	乾物百分中	粗蛋白質	脂肪	纖維	可溶無窒素物	灰分	全窒素	粗白質窒素	非粗白質窒素
桑葉	三八〇・一一	八〇・八九	一九・八九	二九・六五	五・〇四	七・八六	四七・五三	九・九二	四・七四	三・九八	〇・七六	
桑葉	四・一一	七〇・〇二	二一・九八	三三・七四	六・一四	八・〇四	四一・四六	一〇・四四	五・二九	四・二五	一・一四	
桑葉	五・一一	七五・〇六	二四・九四	三二・一三	四・七五	七・五一	四五・一一	一〇・六八	五・一四	三・九三	一・二一	

即ち知る三齡に於ける葉質の營養も五齡に至るも殆んと依然たるのみならず、最も重要なる蛋白質は却て增加せるを加之夏秋蠶に至るも依然として津々たる營養の滋味を有すること、他桑の遠く及ふところにあらさるなり。

（未完）

――――――――――――――――――――

蚕國の話

副業術かなれば朝友多し

滿州及芝罘に於ける柞蠶製絲業（承前）

通常會員　鹽谷清多郎

第八　工場及器具

（一）工場　滿洲に於ける製絲工場は斯業の規模小にして尚ほ家内工業の範圍を脱せざるが故に、特に工場として建設したるものなく、概ね家屋内土間の一部に繰絲器を据付け或は彼等が普通経所又は起居に充つべき室の炕上に繰絲器を配列し、炊事場の火爐を利用して煮繭の用に供し、別に竈を設くるものの少なし、其の規模比較的大なる者に於て始めて繰絲所の入口に當る一隅を區劃し、煮繭蒸繭用の竈を添けりと雖、換手室、括造室、荷造室の如きは一般に之を設けず又主に生繭を繰絲するが故に殺蛹乾繭場の設けあるなし、然るに芝罘にありては滿洲と全く異なり、既に純然たる工業の施を爲せるが故に、設備統ね完備せるもの多し、今これを大別すれば手繰工場と器械工場との二種に分れ、前者は繰絲に足踏器械を用ひ、後者は佛國式直揚器械に蒸汽の動力を使用せり、手繰工場の繰絲場は奥行十五間間口數十間の長方形なる支那風の家屋にして、土臺より鴨居までの高さ約六七尺を有し、兩側に明窓を穿ち室の兩側五尺過りは二尺程の高さに

床を張り、中央四五尺は土間となし通行に便せり、其床下は總て石造の炕にして煖室なる煮繭用の竈に適適し、他方は室外の煙突に開通せり、故に前段に述べたる如く煮繭の爲に竈に火を焚くときは、其の火焔は床下を迂回し室内を温暖ならしめて后煙突に放出するとゝなるなり、斯の如き構造は獨り繰絲工場として特に設備せられたるものにあらず、北清の家屋は總て此の構造なることは吾人の熟知せる處なり、器械工場の繰絲場は奥行間口共に數十間の方形建物にして、其屋根は鋸形となし、鋸歯狀の一面磨子張と爲せり、且つ四壁に廣大なる明窓を開けるを以て、室内光線の透過甚にして明快なること到底前者の比にあらず、而して場内は悉く土間と爲し繰絲器を並行數重に配列せり、義豐繰絲廠は手繰器械なりとも、工場の奥行深く殆と器械製絲工場の如くなるを以て、光線の通過惡しく日中にても尚洋燈を點用せり。

（二）貯繭庫　貯繭庫は殺蛹乾繭と連接して奥行間口とも數十間ある方形の建物なり、其の外壁は四周全面に二三尺毎に五六尺の鎧窓を設け、特に空氣の流通に便し、内部は通路を除く外土間の面より屋根下に至る迄三四尺毎に棚を作り、棚板は繭の漏れざる程度の格子となし、其の周邊に一尺余の板を周らし以て繭の散亂を防ち、約一尺五六寸の高さに繭を直積せり、各棚には小梯を設け、或は階上に登るが如く特に階段を設けたるものあり。

横濱生絲檢査所内檢翻器

（三）殺蛹乾繭場　殺蛹乾繭場は殺蛹乾繭裝置の一部多く繭取扱場又は火夫の休憩場と兼ね裝置は骨面を合せ二個づゝ數個連續したるものと一個づゝ之を連續したるものとあり、何れも奥行三間半間口數十間の長方形建物の内部に配列す、蒸汽は一個の前面約四尺高さの一部は一個の前面約六尺餘にして下の部を石造の熱室となし、上の部を練瓦にて造る繭室より成せり、熱室の前面は火爐を設け、茂に火を焚くときは火焔は熱室の焔道を迂回して二個裝置の間壁に設けたる煙突に出す、繭室は前面四尺に興雪扉を付し内部に棚を設け、長さ三尺幅一尺五寸深さ二寸二分繭二千個を容るべき籠十八個乃至二十個を挿入し得ることとなり、此の室内の空氣は特に変換すべき途なしと雖も、繭の乾燥程度を檢する爲前面の扉に直徑四五寸の圓孔を穿つのみならず且毎室の天井に五六寸角の孔を穿ち、開閉自在の戸を付しあるを以て、之が開閉を爲す毎に幾分の空氣は変換せらるゝものなり。

（四）蒸●繭●熟●繭●場　手繰製絲場にありては各繰絲場に連接せしめ、夫れ〴〵適應せる數個の釜を有する煮繭熟繭場を附屬せしめたりと雖、器械製絲場にありては建物を別にし、特に之が設備を爲せり、而して其の建物は長方形にして長さ二方に數多の竈を配列し、室の中央を繭取扱場と爲し、一隅に燃料小道具等を置けり。

芝罘に於ける製絲場に在りては右の外挽手工場、絲檢査場、括造場、荷作場等を各別に建設せる者あると雖是等には特に記載すべき裝設なきを以て之を省略す。

（五）繰●絲●器●械　滿洲に使用せらるゝ繰絲器に三種あり、一は最も古代の式に屬し極めて簡單なるものなり、即ち長さ一尺の棒一本と長さ九寸五分にて一方漸次細くなりたる火箸樣の繰棒に、其の太き部分に五六父の袋を置き、尚五尺五分程の竹を篏めたるものにして、之を使用して繰絲すること恰も絹紬を製するに異ならず、此の器を尖頭子と稱す、二は足踏器の附屬たるものにして一臺に付繰絲を爲すものと枠を回轉するものとの、人を要するもの多し、三は南國、殷に使用せらるゝ足踏器械にして、芝罘の手繰工場も亦之を用ゆ、其の構造は幅一尺二三寸長さ三尺五寸乃至四尺高さ一方二尺八寸一方二尺六寸位の臺にて、四本の脚を付す、其の傾斜せる臺上の低方にケンネルを備へ、高方に枠を架す、中央に枠に對し一本の桿ありて、三四個の厭手を付せり、此の桿は歯輪と一個の回轉圓盤とに依り枠軸に連絡せり、又臺の下下には一本の棒を石又は三角形枕木上に架し、一端に紐を付して之を又枠軸の他端に連結す、故に今此棒を足にて踏むときは其運動枠に傳り、且つ中央の綾振桿をして往復運動を爲さしむるものなり、一臺の價三圓七八拾錢より四圓四五拾錢なりと云ふ芝罘に於ける器械繰絲器の勝臺は幅一尺五寸五分、高さ二尺八寸、一憲四尺六寸にして三四十憲を連續せり、總て木製にして鐵製の一個のケンネルを備へ、集絡器の前面に一尺に一尺二寸の黑板を直立せり、煮鍋繰鍋水壺等を有せず、只煮繭を入れたる一個の繭盆を右に置けり、甑臺は高さ四尺九寸幅二尺四寸せにして、簡箱の高さ二尺九寸すあり、箱箱は内に直繰甑を裝置し、乾燥用蒸汽管を貫通せり、綾振大擦車小擦車等の裝置は我國に使用せる佛國式繰絲器械と毫も異る所なし。

繰絲器の附屬用具として繭盆あり、煮蒸繭を容るに用ゆ五寸五分乃至七寸三分乃至四方深さ一寸八分乃至二寸五分の木箱なり、又繰盆と稱し繰絲しつゝある繭を載せ置くものなり、長さ一尺三寸内外幅六寸内外深さ一寸内外とす。

（六）釜●及●竈　繭を煮熟する爲一種の釜及竈を用ゆ、其の構造の大體に付ては滿洲と芝罘と異なる處なし、先づ練瓦（セメント）一枚積とし、其の竈を築き、上に鐵製の釜を置き、其の外部は練瓦一枚積とし、竈を築き、上に鐵製の釜を置き、其の外部は外周に厚さ一尺ノンストルを使用し、故に釜の縁邊を越へ更らに二枚積とし、ノンストルを使用す、如斯非常に厚分の釜を築たる以所は煮沸後直に長時間の蒸熱を加ふるに際し、之が冷却を防止するの必要あるに因るなり、釜の口徑は内徑二尺五寸五分外徑三尺五寸深さ二尺一寸五分あり、一憲の築造費は釜共に元と十五兩なりしも、今は十七兩を要すと云ふ、繭を蒸す際は此の上に徑二尺九寸高さ九寸の木の輪を載せ、蒸席を敷き妻を

なすなり、煮繭の附屬用具として口徑一尺三寸深さ一尺九寸の筐（蒸籠）鍋塗子（蒸籠受）盆架子（煮汁を滴下せしひるとき に使用する盆）盆（木鉢）木貧（繭掬）ツアツリヤン（繭掬）繭籠等あり。

（七）捻●造●器　高さ三尺六寸の角柱の頂上に一端は鈎をなし、一端は柄をなしたる鐵製の金具を取付け、錘を鈎に掛け柄を回轉することと爲せり、之に附屬して鐵製の圓筒棒あり其長さ四尺八分とする。

（八）括●造●器　臺上に四本の柱を設け、縱に相對せる柱に横木を備へ、之れに三本つゝの角木を挿入し以て括板を支持せしめ、括の入るべき間は長さ一尺一寸幅五寸七分となせり之に絲を入れ樣を以て壓縮す。（未完）

秋風に折てかなしき蟲の枝　雲雀

動物の群體

理學博士　丘　淺次郎

丘博士は動物の群體と題して曰く、苔蟲の生活の狀態を見るに、一匹づゝ離れて居る普通の動物とは全く趣きを異にする點が甚だ多い、たとへば全群體を同一の血液が循環して居る故、一匹の蟲が食物を食へば其滋養分は全群體に平等に分配せられる、又全群體内の神經系は皆互に相連絡して居る故一匹の蟲が甚だしく驚く時は總ての蟲は皆同時に縮んで仕舞のである、權利も負擔も平等で有て、財産は全く共有の有樣故、若し人間が此蟲の如き狀態にあつたならば如何であらうかと考へながら、今日の法律政治經濟の問題を當て嵌めて見ると餘程面白いとがある、現在或一部の人々が理想として考へて居る社會の狀態が、此等の蟲ではこれに今日實際に行はれて居ることもあらう……群生動物では個體間の競爭はな

いが凡そ生活して居る以上は競爭を免れぬもので、害蟲などに於ても群體と群體との際の無意識的競爭は隨分劇しいやうである、これに就て一寸面白く感じるのは米人某の群生動物の生活に關して行ふた實驗である、一群體を取つて之を二つに切り離し兩半を再び相並べて飼ふて置くと、忽ち塗着して一群體と成つて仕舞ふが、兩半を別々の器に入れて長い間飼ふて置き、後に至つて之れを相觸れしめて飼ふて見ると、此度は少しも相塗着せざるのみならず、反抗して互に相壓し合ひ戰線は次第に延長し勢の盛んな群體が他を包圍しさうになる、初め一群體であつたものも、その兩半が長い間別々に生活し、各自別々の血液が循環して居ると、其間には二者の間に漸々體質の相違が生じて、終には二者相接觸して到底癒合の出來ぬものと成つて仕舞ふのである。此等も一群體を一民族又は一國に比べて見ると、人間の歴史にも全くこれと同樣のことを發見することが多い。（中央公論第九年第九卷所載抄錄）

蠶兒は群棲を好むてふ謬見を抱きて、殊更非常の厚飼ひを爲す者あり、此等の徒宜しく博士の本論を讀め、讀んで而して大に悟る所あれ。

乾繭の秘訣

特別會員　山本祐安

山本氏は乾繭の秘訣と題して曰く余は實驗上斷ぜんと欲するものは製絲器械の夫よりも、又工女の夫よりも先づ殺蛹乾繭の急務なるを以てすると之なりとす、故に余は製絲業改進上劈頭乾繭の改良を絶叫せんと欲するものなり、否絶對的に器械の改良職工の訓練等を忽諸に附して可なりと云ふにあらずと雖も、幾多當業者の多くは殺蛹乾繭法の處理を誤りて原繭の損傷に介意せず、啻に其罪を器械職工に嫁責せるが如し、原料既に損傷す、特り加工を咎む豈苛酷ならずや、夫れ斯の如くして佳良の生絲を得んことを希ふも、木に椽りて魚を需むるの類蓋し爲し能はざるの數ならん、故に吾人は製絲工場を視察するに方り、先づ乾繭と蛹體の如何を鑑識して以て其全般を推測せんとするものなり、世人の所謂乾繭は發蛾出蛆を防ぎ、繭蛹の水分を除去し黴菌を生ぜしめざれば足れりと爲すが如きは、未だ以て乾繭の眞味を談ずるに足らざるなり……從來當業者は殺蛹と乾繭を區別す然れども余が年來の經驗に徵すれば是等は乾繭上何等の必要なきのみならず、却て有害なるを認むるなり、即ち數回に乾繭を施行せば、其間盛夏の候は蛹を腐爛せしむる恐れあると、大氣中の乾濕に繭層を曝露するの害あると、乾燥器中に再三出入せしむれば一旦乾きたる繭層は其都度蒸汽に接觸せしめ、繭の護膜質を屢々溶解又は固着せしめ、後日解舒と光澤不良の最大原因となるのみ、是注意すべき要件なり云々。

雀子の聲も悲むや秋の風　　武之

世界諸人種の日常作法を學ぶは當世の急務

理學博士　坪井正五郎

坪井博士は世界諸人種の日常作法を學ぶは當世の急務と題して曰く、普通吾々同士の間に於ても言葉を離れてある擧動の方を見れば、場合によつて言葉よりも擧動の方が意味を强く感ぜしむることがあります、たとへば人に禮を云ふときに言葉には禮にそむいた、全く反對の意味の事を云ふて居ましても、顏に喜びの意をあらはし笑を含めば、その言葉は戲れと見做されて充分に謝意を認めらるゝことがありますその他の事に於ても、言葉よりも顏により擧動によつて眞意を知られる例は澤山ありまして、「言葉よりも容貌擧動の方に眞の意味がある」と云ふても宜しい位で、言葉には心にもないことを云ふこともあるが、其時には容貌擧動に重きを措て見ればよく其眞意の分るを常とします……すべて擧動と云ふものは他國人や他人種の者には、殆んど意味のない樣に見えることでも、其土地〳〵に於ては深い意味のあることがあるものですから、知らぬ者が無意識に或擧動をして、之れが先方に深い意味に認められる事がありますから、いかなる擧動は某處に於てはいかなる意味であると云ふことを知るは政治家・外國貿易に從事する人、一般航海業者、一般實業家商工業者を始め、苟も外國人なり他人種なりに接する人には甚だ肝要の事と思ひます、我邦も日露戰爭以後は、殊に何事をするにも世界を相手にすると云ふ必要があるやうになつて來まして、世界の諸地方からいろ〳〵の人が參り、こちらからも亦世界の諸地方へ行くと云ふやうになつて來ました……この際吾々が少くも諸邦の會話の初歩を知ると云ふことも必要ですが、夫れに先だつて先づ諸邦に於て、特別の意味を有する擧動容貌の意味を知つて、臨機之に從ふて先方の感情を害せぬ準備をする、即ち彼等の日常作法といふものを學ぶことは、今日この際に處する日本人に取つては須要のことゝ思ひます云々。（活動の日本第四卷第三號所載抄錄）

言語よりも擧動、寔に味ひあることなり、育蠶の術に當る者、須らく蠶兒の擧動に注意して、臨機の處置を誤る勿れ。

蠶種購入上の注意

通常會員　田中貝太郎

田中氏は蠶絲購入上の注意と題して曰く、近頃世の風潮に伴へ新小不良の蠶種家續出し、春蠶種夏秋蠶種販賣の爲め猥りに假裝の廣告をなし、名を戰勝の祝意に藉り、或は創業何百年の紀念等の空名を弄し、福引販賣景品附豫約注文等の不良手段を用ひ、販路の擴張を企て、或は又實直なる養蠶家の射倖心を挑發し、其間に於て巧みに奇利を博せんか爲め、當籤者には國庫債劵若くは金時計勸業債劵等を贈呈する云々等の方法を以て、富籤類似の山師的行爲をなし、甚敷に至りては

廣告のみをなし、編引も抽籤もなさず、又故すとも己れの味方とも稱すべき人々を當籤者と定め、實際上景物又は金品を贈らさるが如き行動をなし、唯販賣上の方便として虚構なる廣告をなすの業者を各地に見るの噂さ頗々たるに至り、大に養蠶家の注意を要する場合となれり、眞に蠶業界の痛事と云ふべし。

元來蠶種は各位の知らるゝ如く、一見其正相、等級を識別し得るものにあらずして、他の商品と決して同一視す可き物に非ざるなり。

故に編引や抽籤等に迷ひ、師匠的不良蠶業家の蠶種を購入するは、全く危險千萬の事と云はざる可らざるなり。

須らく養蠶家は大に戒心留意し以て景品付編引法の蠶種に惑はず、名譽ある蠶種家熟練なる製造者、實直なる販賣者を信頼し、善良なる蠶種を相當價格を以て購入し、決して假裝廣告を迷信せざらん事を切に望む所なり云々。

彼我の兒童

文學士　三輪田元道

三輪田學士は彼我の兒童と題して曰く、西洋は夫婦を以て家庭の中心となし、他はこれに從屬するも、東洋は親子を以て家庭の主位となし、他はこれに從屬す、抑も斯く相異なる家庭の權相を呈する所以のものは他なし、彼は個人主義の國なるも、我は家族主義の國なればなり、吾人は茲に之の兩主義の利害得失を比較研究する暇なきを以て敢て之を論ぜずされど彼我兒童教育の方法に差あり、また兒童氣質に別あるは社會制度の結果なるを以て、その源を知らずして來を爭ふは迂遠なり。

昔管公の母が月の桂もそるばかり家の名をば揚げよと所りたるも去る日清及日露戰役に於て、兵士が單に一身の名譽を重んずるに止まらず、家庭にある父母は更なり妻子の面目を慮りて勇進せしも皆家族制度より來る長所の發揮に外ならず、されど多少個人主義の分子もなくては、生存競爭優勝劣敗の法則に支配せらるゝ社會に立ちて成功すること能はざるは疑なし、況んや世界文明の先驅者たらんと欲せば、是非とも自由競爭を認めざるを得ず云々。（日本の家庭第四卷第一編所載抄錄）

近年一種の偏見に陷ゐりて一も二もなく我忠孝道德主義を罵倒し去り、家族制度の美風を破壞せんとする者漸次多きを加ふるが如し、之れ國家將來の爲め慨に憂ふべきの現象となす、希は兒童教育の任に在る者、個人主義と家族主義とを程良く折衷して、完全なる教育を施し、健全なる國民を造るに努めよや、吾人は三輪田學士の所論に贊す。

蠶蛆の二化

通常會員　渡邊英登

渡邊氏は蠶蛆の二化と題して曰く、養蠶家が蠶蛆の害を被れることと蓋し本年より甚しきはなからん、余が附近の蠶蛆の被害多き分は、例年貳割以下なりしに、本年は殆んど四割の被害ありたり、聞くが如くんば獨り余が地方のみならず全國至る所皆然らざるはなしと、若し此勢を以て蕃殖せんか、實にゆゆしき大事にして斯業の盛衰に關するや大なり豈寒心の至ならずや。

余は本來蠶蛆に二化性のものあるならんと疑念を抱きつゝありしが本年不圖之を確むることを得たり、いでや其事實を陳述し大方識者の教へを請はんと欲す。

余本來蠶種製造に從事す、本年も亦一化性の蠶種を製造せり、然るに製造の終期に至り、蠶蛆も出ず發蛾もせず、振動すればかつ〳〵と鳴り、俗に蝶ねぶりと稱するものを疑すのみ、除りの不審さに、繭十四五個をとりて切斷し、蛹を出して檢したるに、多くは蠶蛆の害を被りたるものにして、或は蠶蛆の死骸を黑色となりたるものあり、或は蠶蛆の死して殼に附着したるものあり、其中最も奇異の感に打たれたるは蠶蛆の中に蛆の化したるものあり、其蛆は蠶蛆の三匹を殺し見せしめ、尤も遺憾に堪へざりしは以て其他の蠶蛆の悉く化蛾

韓人の寺小屋

すべき筈なるに、見ること能はざりし一部なる蠶蛆は外皮を破りて檢したるに、蠶蛆は悉く發育し繭形となり居たれども、若し蛆蛹せざりしならんには、必ずや正に化蛾すべし這は確に蠶蛆に二化性のものあることを證明して餘りあることなられ。近年夏秋蠶に被害のあるを聞くこと屢々なるが、是れ決して虚傳ならざることを信ずるなり云々。

本邦銀行の大缺典

法博士　天野爲之

天野法學博士は本邦銀行の大缺典と題して曰く、吾衆熟る本邦銀行の有樣を見るに、何にも寒めるべき者に便ならず、本邦の銀行は大資本家の金融機關にして無資家の金融機關にしてもあらず、本邦の銀行は法律實直なる擔保品を持參し、金を借出しを常とし、機關とならず、本邦の銀行は法律實直なる擔保品を持參し、金を借出しを常とし、なる要求する場合に限り、金錢を貸出しを常とし、擔保品もなき貧乏人は到底銀行の妙益を享受する能はざるとし、身代もなく擔保品もなき貧乏人は到底銀行の妙益を享受する能はず……是故に世間沿々なる貧窮無産の少壯の士の如きは、其平生に於ける遠大の志を沮喪し、其事業の才を埋沒し、偏へに政府の官吏たるを願ひ、或は大會社の使

用人たるを慕ふに至る、尤も人各能あり不能あり、天性一生を給金生活に送るに適する者極めて多し此輩に就ては銀行が金錢を貸すと貸さゞるとは甚だ痛痒を感せざるべし、然りと雖も事業の精神に富み、事業の才能に富む者に取りては、本邦今日の銀行の有樣に遺憾なき能はず、蓋し本邦今日の銀行が斯の如く獨り長者の機關となりて、廣く貧者の機關とならざるは、是れ貧者其人に對して極めて氣の毒なるは別問題として暫く之を措き、一國の經濟上より見るに頗る缺典なりと謂はざる可からず云々。（東洋經濟新報第三百八十六號所載拔萃錄）

左なり〳〵我邦の銀行が長者の機關となりて、廣く貧者の機關とならざるは一大缺典となす所なり、銀行が思ひ切つて、細農細商に信用貸を爲すにあらざれば、到底實業の繁榮は望む能はざるべし、敢て銀行家の猛省を望む。

暑き日にたかへす賤の汗の玉
すなはち稲の粒となるらん

小杉榲村

雜錄

故橋本重兵衛氏の事蹟（上）

名譽の成功者

世には血もなければ涙もなく、他人の爲には己が一髮だも拔くことを知らずして、只管自家の幸福をのみ目的とし、營々として之れ働きつゝ、遂に一生を終る者がある、之を名けて主我的實業家とでも云ふてあらうか、斯かる實業家が如何に成功の山巓に達したとしても、吾等は擯斥こそすれ、毫末も尊敬を拂ふの價値がないものと信ずる、故に若しも之と反對に地方の爲に鄕黨の爲に將た國家の爲に鞠躬盡瘁して、其間毫末も私利を之れ挾まぬ者が有つたとすれば、假令其人が致富的成功をせなかつたとしても、之れぞ所謂公共的實業家として將又名譽の成功者として、吾等は無限の敬意を表せねばならぬと思ふ、然れども斯かる實業家は當今の世曉天の星たるを如何せんやであるが、我大日本蠶絲會評議員にして我邦の統計家たりし英國生絲鑑定師橋本重兵衛氏の如きは即ち

之れ其人ではあるまいか、嗚呼氏や遂に致富的成功者たること能はざりしと雖も偏に之れ名譽の成功者たるを失はないのである、我等は氏の名譽を長へに傳へ以て後進蠶業家の模範に供したいと思考するのである。

蠶絲業の中堅地に生る

蠶業の群馬か群馬の蠶業か、兎に角其土地と人口とに對する蠶絲產額の割合は本邦中の第一位に居り、流石の長野も一着を輸せねばならぬ群馬は、日本蠶業界の中堅地であると斷言するも敢て過言ではあるまい、而して氏は實に此群馬に生れ、然かも機業を以て天下に鳴る、桐生を距ること程遠からぬ下新田村に、嘉永元年三月を以て呱々の聲を揚げたのである、若夫れ周圍の境遇が人物を作る上に於て偉大なる關係を有するものとせば、氏が蠶絲業に志を立て之に依て一代の經歷を飾るに至りしは豈偶然ならずとせんやである。

氏の性行

氏の父を彌右衛門と稱し長兄を彌作と云ひ次兄を林助と呼ぶ、氏は其三男にして幼名を龍助と稱したのである、幼時は頗る負けず氣の腕白者、常に餓鬼大將となつては群黨を引率しつゝ、到る處に惡戯を試み、龍助さんにも困ると、近郷近在の翁等が呟つことも數々なりしとか然れども其寺小屋に於ける學業の成績は常に最優等であつたので、師は早くも其才能を認め此兒之れ麒麟兒たり、將來必らずや世に知らるゝに至らんとて寵愛殊に深かりしと云ふ、其長ずるに及んでや、豪宕磊落敢て小事に拘泥せず、僞飾を嫌ふて率直を尊び慈愛の情深くして酒色を好まず、強て其嗜好を求むれば小鳥と煙草との二つであらうか、自ら持する質素高廉、一點浮華の心もなければ、又半片脂粉の氣もなく、其人に接するや至誠淡泊、其事に臨むや果斷決行、眞に稀れに見るの性行を有したのである。

横濱生絲檢查所內纖度器

舌を捲きて驚歎す

氏の生家は桐生地方に於ける隨一の富豪にして、世々生絲と綿織物とを業としたのであるが、阿兄彌作氏の代に至りて桐生足利の機業家に生絲賣買を以て主業となし又生絲輸出業をも營むこととなつたので、東京市元木網町に支店を開き福島町に出張所を設け盛んに其取引を行ふたのであるが、一時福島より桐生に至るの間、荷車と云ふ荷車の有丈けが悉く橋本商店の商品なりと謳はれしことありしを見ても、如何に同家が其得意全盛を

極めたるの時代ありしかを想像するに足るであらう、氏十六歳にして學業を廢し其の足利町より皈るや專心阿兄を扶けて商業に從事することゝなつたのである、膽大にして機を見るに敏なるの氏は商ひの仕振り活潑にして往々人の意表に出づ明治七年二兄林助氏の逝去に遇ひ、代はりて福島出張所に至り專ら生絲仕入の衝に當ることゝなり、勤勉七年の星霜を送りたるが、此間一に自信に依りて動き、決して他の掣肘をうけない、假令本店又は支店より「何個買へ」の注文に接するも買て利なしと認むる場合は、如何に矢の如き注文來るも頑として動かず其の愈利益ありと信ずるに於て始めて動き、動けば必ず注文の數量以上三四倍の買入を爲し、爲めに忽ち價格の變動を惹起すこと往々之れ有るを以て、氏は遂に一策を按じ甲店の表口に於て取引を行ひば、乙店にては偸に裏口に廻はりて取引するの方法を取り、可成丈け人の注意を避け瞬間に多大の數量を買收するを常としたのである、而して其頃桐生より福島に往返するには、七日間を要したるに、氏は四日乃至五日を以て往復したと云ふのであるから、隨分健脚で有つたと云はねばならぬ、て、氏の福島に入ると聞くや遂には土地の商人等氏の買ふと買はざるとに論なく、一旦は必ず絲價を引上ぐるやうになつたので止むを得ず氏は殊に夜中を擇んで福島に入りたりと云ふ、夫れ如此き狀態で有つたから、阿兄彌作氏の小心翼々なる氏の思ひ切つたる遣口に膽を冷やすことも多かりしとなん、去れど氏の商略は一々圖に當りて買ひば必ず利するの有樣てあつたから、偸に舌を捲き其商才を驚歎し居つたのである。

村民其德を慕ふ

公共的思想に富めるの氏は、苟も一鄕一村の利害に關するやうな問題があれば、徹頭徹尾袖手傍觀することが出來ないので、已れ部屋住の身分であり乍ら挺身以て之れに當り無事解決させては村民等のホク〳〵喜ぶ狀を見るを何よりの樂みとしたのである、即ち教育の事といひ、土木の事といひ、其地萬般の事、氏の手に依て解決されざるはなく、殊に氏が仁俠の志に富み下を憐むの情に至ては常人の遠く及ばざる處であつたから、今に尙ほ村民等は其德を敬慕して止まないのである、氏の鄕關を辭して橫濱に移住するや、間もなく菩提所たる某寺は融祝の災に罹つた、而して其儘荒廢に屬して居るので、淳朴なる村內の翁媼等は若しも重兵衞さんが居られたなら、直に再建も出來やうものをと溢し居るとの事である事は些細のやうてはあれど、以て氏が如何に村內の者に慕はれ居るかと云ふことが知らるゝてあらう。

天王樣よりは消防組織

今や文運既に天下に普及し寒鄕僻地に至る迄文學の樞要缺ぐ可らざるを認知し、隨て衞生の事と云ひ消防の事と云ひ隅から隅迄痒き處に手の届くが如くに地方自治の制度は能く發達して來たけれども、氏が青年の頃に在つては人智未だ開けずして、衞生の何物たるかを知らず消防の如きも殆んど無頓着に放任されてあつたのである、氏は深く之を遺憾となし先づ以て消防組織の完備を期せんと欲して勸獎大に努むる處

ありしも、村民の暗愚なる容易に出來得べき樣子の見えざるより、潛に機會の到來を待ちつゝありしが、偶々天王樣とて人々の迷信深き神社の毀損頽敗せるありて、之れが再興の議が起つたのである、之れぞ好個の機會と待ち構ひたる氏に寄附金を請求して來たから、氏は一喝の下に之れを斥けたのである、曰く消防の組織すら成らざるに天王の再興とは何事ぞ「マー其寄附金は鐚一文でも御免蒙らう」此一語は如何に彼れ村民等の胸を刺激したりしか、彼等は倉皇氏の言に從て直に消防組織を完備したのである。」

新道の開鑿と並樹の櫻

下新田より桐生に至る道路は崎嶇にして狹隘、磊砢散點して行人甚しく之れを艱み、通れの不便此上なし、氏倩ら以爲く運輸の便否は以て貨物の價格をして增減高下せしむ、工業の進歩するも、農業の發達するも商業の繁盛に赴くも、一に運輸の便にこれ依るのである、果して然らば道路は是非開通せなければならぬと然れども之れを阿兄に談ぜんには事は遂に出來ない相談に終るのであると見て取つた氏は或時阿兄の他行せるを幸ひに、村內有志を集めて之れを謀り土地の寄附出費の承諾を求めたのである、然るに事は一夜にして即決し十町餘の新道は數日を出でずして竣功したのである、斯くて氏また所爲く平々坦々砥の如き新道は出來上れり、此上は並樹に花の王たる櫻樹を植ゑて一段の風致を添へばやと、即ち之れが移植に着手したのである偶々寺院に火災のあるありて、火事よ火事よと呼ぶ聲に村內の大騷動となりたれば、氏心中思ふやう、阿兄の假期既に今明日に迫る、而して此事あらんとは、あゝ折角の企ても遂に成らざるかと、痛く失望の體なりしが、軈て火災は大事に至らずして止みぬ、氏は飛び立つ計りに喜びぬ於是乎氏は聲を勵やして曰く、サー皆の衆、手傳つて御呉れ、銘々が只一本づゝ植ゑて下されや澤山だと、聲に應じて數百の村民等は一擧にして悉く移植し仕舞つたのである、何が仕合になるまいものでもないと、氏は獨り笑壺に入つて其夜を明したのであるが、翌日阿兄彌作氏は歸られたのである、歸つて新道の成れるに一驚を喫し、而も並樹に櫻樹の整然移植せられてあるのを見て、呆然たること數時漸くにして我に歸り憤怒の念愈々抑へ難く龍助來いと近く呼び寄せ、口を極めて專斷の處置を詰り、並樹の如きは虛飾の骨頂なりと痛罵したのである、氏も亦た敢て自己の專斷を思はざるにあらざる

橋本氏未亡人てす子

も、去りとして除りに阿兄の過言多きを憤りの、其夜直に櫻樹の根くを堀り倒して知らざるもの、如く調して居た、彌作氏蠶朝之れを見て更に一層の怒りを買すと共に深く自ら失言の多かりしを悔い、多數の人夫を雇ふて一々之が植直しを爲したのであるが、這は今に尚ほ同地方の人口に膾炙する處の茶話の一つとして有名なものである。

（未完）

嗚呼「ローラン、ド、ラルブーセー」氏

蠶種製造家並製絲家「ローラン、ド、ラルブーセー」氏は、近頃伊太利に旅行中病に罹り、佛國「ツール」縣に於ける同氏の蠶種製造分場へ歸り、推して其本業を了り、醫師の勸告によつて同氏の故園「ラルブーセー」村に於て專ら加養中であつたが、遂に七月十九日を以て永眠せられた、享年六十三歳である、氏資性正直剛毅にして、佛國公共的蠶業上、最も多大の功力し、且つ外國人に對して最も愛國心を有して飽く迄も東京案内の勞を取られたのである、現に紫藤生絲檢査所長本多東京蠶業講習所長、今西生絲檢査所技師、佛國巡回中同氏を訪問せられて、其實際を承知せらるゝのであるが今や此名士を失ふ、實に痛情の至りと言はねばならぬ。

蠶業週報の發刊

氏は「カール」縣「アンヂユーズ」附近の「ラルブーセー」村に於て、千八百四十三年九月三日に生れたのである、氏は幼少より養蠶及製絲に育てられ、千八百六十一年即ち氏が十七歳の時、無毒蠶種を得んとて巴土耳其に赴き「マセトアーマ」國に於て初めて蠶種製造業に從事せられ、後ち千八百六十五年有名なる「パストール」博士の第一の門人となり、「アレース」の附近「ボンドギスケー」に於て、同博士より微粒子毒顯微鏡檢査の教授を受けたが、千八百七十五年に「ビルタン、セリコール、フラセー」と名くる蠶業周報を發刊し、自ら社長となつて本年に至る迄三十三年間一日の如く本業の側ら社務に從事せられたのである。

記念碑の建設

千八百八十二年の頃「パストール」博士の像功を永遠に傳へん爲めに大記念碑を「アレース」町に建設せんことを發起し委員長に撰まれ、數年の後遂に之れを完成せしめたのは氏の與かつて大に力あることであつた。

巴里に派遣せらる

千八百八十八年氏は佛國蠶業家の代表者となり、生絲に對しては三法の輸入稅問題に關して巴里に派遣せられたのである。

保護案と奬勵案

千八百九十一年氏は佛國蠶業家の代表者となり及び「アレース」農業協會々員の資格を以て巴里に出張し、保護關稅問題に關して、銀奬勵案に對して熱心に畫力せられたが、關稅案自體には、其保護案を否決したのである、當時の農務大臣デゥエール氏「ルイナック」氏に托して國會に提出せしめた這は遂に兩院を通過したのであるが、今日莫大なる奬勵金の恩澤に與かるのも、畢竟同氏の偉力と謂はねばならぬ。

桑樹の改良

千八百九十二年氏は農務大臣に請願して初めて支那の桑種を「アレース」の農業協會に試播せしめ、大に佛國の桑樹改良に努められたのである。

養蠶全書の著述

千八百九十五年氏は實用佛國養蠶全書を著述し、已に第五版に達したのであるが、今や之れを獨逸語、「ビルカリ」、伊太利、露西亞、英吉利及日本（今西直次郎氏譯）などの諸外國語に反譯して世界の當業家に公示せられつゝあることである。

東花の献上

氏は常に長男と共に製絲工場一ケ所を運轉し、且つ數多の蠶種製造場（所有）を、內外蠶種の取引は實に盛大なものである、氏は本年種々の編を以て製造した美麗なる東花を伊國女王に献上せられ女王には頗る御感賞あらせられたのである。

嗚呼本會名譽通信委員にして佛國の「ラフイシエ、ヂエメリート、アグリコール」及び「アカデミ」の勲章を有せられたる氏、今や去て他界の人、再び其奬案を見んと欲するも得べからずである悲哀。

御見舞ちょぼくれ（水前）

御見舞もお礼も
出場もふゆ中
蔗にしたくも
身分に却なりは
蠶部はあるとも
蠶居の內へは
これから何でも
お地に却なりの
それゆふべの度
ちょぼくれ申した
無禮の過言か
いないなに愛を
勝負の三子
東都の住人
「さるとしかいふ

どんどんわきだし
御もつひろがり
皆之のあぢはひ
みなもす愛合
鬼はよしんば
決してはいちね
却もいりかせて
却顧み見たいが
お見舞ひかたがた
次第にこざれば
お願ひ申すと
九月の一月
かれてのおなじみ
ほほーいほほい

ずんずんたまつて
林も繁つて
なめてんと見られぬ
この後えん一
その氣で皆さま
少しもおはやく
吾等のれおひだ
ちょつぴりちょんがり
いろいろだんだん
とにもおれ聞きか
申すはめでたい
吉祥百日
榊木の寄さて
（完）

東北の蠶絲業

學藝委員
農學博士　大森順造

左に載する處のものは盛岡高等農林學校教授たる大森順造博士が嘗者に對し物語られたる談話の一節である今既に東北地方蠶繭の想試も世に忘れられやうとする際博士が如何なる意見を吐露せられるかを聞し且之が根本的救濟の方策を講ぜんと欲する人の參考に資する極めて有益なる為眞に題して東北の蠶絲業と題し讀者の一粲に供すること、為せなき微し願くは之に博士及び國會に向謝する次第である。

（原稿の御話ですか君は蠶絲會の學藝委員となつて居ハ、何分私の受持時間が一週二十三時間もあるので、殆んど小學校の教員同樣始終忙殺せられて居ますから何も書くことが出來ないのであります、其内に東北地方の因作地に對し、私の持論とも云ふべきものがあるから夫れを一つ書いて上げませう、實に東北地方に於ける昨年凶作の結果は。

頗る慘狀を極めた

ことであります、して、爲めに内外慈善家の惠まれた金品も多くの人達の救濟に與へた處で元來無智の農民等は滅茶〳〵に消費したものを直に與へた處で元來無智の農民等は法に就ては考究を要する次第であります、先づ彼等の爲めに永遠の利を圖るならば、此機會を利用して蠶絲業の奬勵と爲すの第一策であります、私は此意見を以て東北人士の省顧に陽に陰に蠶絲業の發達を助成つゝあるのですが、岩手縣の如きは此方針に依て本年數萬圓の桑園奬勵費を投ぜられましたから近う將來に於て必ず其面目を改むるであらうと思ひます、て最早今日となりては蠶絲業を捨て他に奬勵すべき良い事業がないのであります、彼の御承知の

南部の馬

てございます、其名は廣く全國に知られて居りますから其産額は頗る大きなものであらうと思ふて居りました、處が初めて彼地へ行つた當時之を調べて驚いたのです、僅に一ケ年の全産額が百萬圓計りに過ぎない、而かも此馬の爲めに農民等の奢侈心を增長せしむることは甚しいものであります、即ち何百頭と云ふ中に稀れに二千圓とか、二千五百圓の値打のある馬の出るのを當てにして贅澤を遣るのですから、片端より貧乏して田地も屋敷も皆人手に渡して仕舞ふ樣な仕末で大きくなるものは益大きくなり、小さくなるものは益小くなるから、土地衆併の際が自然に行はるゝやうになるのであります、去れば馬は決して彼等農民の懷中を富ますものでないと云つても宜しい位である、其上に、有名な林檎もーいけないのでありまして即ち綿虫の爲めに害せられ到頭見込みがないことゝなつて居るから、段々其樹を伐して仕舞ふやうな狀態である、去れば今後鬼も角も一樣の望みを屬するに足るものは蠶絲業許りであります、幸ひ東北地方は、九州地方よりも遙に有望であるのです、九州地方には炭坑と云ふものがあつて、鬼角蠶絲業と衝突を免れないから今日と雖も將來と雖も亦た割合に發達せんであらうと思ひます、けれども東北地方の

廣漠たる原野

は太いしたものです、縱横三四里位の原野は諸所に散在し人家は稀薄にして炭坑は存ずず桑は豐富で空氣は能く乾燥し東京附近のやうな人口稠密の狹き苦しい處から行つて見れば丸で大陸へ出た樣な氣持がするのです、寔然之れ日本内地に於ける朝鮮であるから遠く海を渡つて行くところでなるから、土地衆併の際が自然に行はるゝやうになるのであります、去れば馬は決して彼等農民の懷中を富ますものでないと云つても宜しい位である、其上に、有名な林檎もーいけないのでありまして即ち綿虫の爲めに害せられ到頭見込みがないことゝなつて居るから、段々其樹を伐して仕舞ふやうな狀態である、去れば今後鬼も角も一樣の望みを屬するに足るものは蠶絲業許りであります、幸ひ東北地方は、九州地方よりも遙に有望であるのです、九州地方には炭坑と云ふものがあつて、鬼角蠶絲業と衝突を免れないから今日と雖も將來と雖も亦た割合に發達せんであらうと思ひます、けれども東北地方の

蘭女女子傳習所養蠶實驗場の光景

廣漠たる原野

は太いしたものです、縱横三四里位の原野は諸所に散在し人家は稀薄にして炭坑は存ずず桑は豐富で空氣は能く乾燥し東京附近のやうな人口稠密の狹き苦しい處から行つて見れば丸で大陸へ出た樣な氣持がするのです、寔然之れ日本内地に於ける朝鮮であるから遠く海を渡つて行くところで

宜しく東北地方へ行き原野を開拓して桑園を起し、蠶を飼ふ蠶絲業を興隆すべしであります、私は常に思ふのです、人は何故に信州や上州の樣に開け切つた處にのみ集つて居るのであらう、遂に東北に移住して開利を拾つてはどーであるかと、彼地の農民のやうに經濟思想のないものは假令蠶絲業を遣つても十二分の利益を見ると云ふことが無いけれども、上信地方の人々のやうに經濟思想の發達した者が行いて遣れば必ず甘い利益を掴ることが出來るのであります、私は蠶に彼地へ移住せらるゝことを希望するのであります、パー夫れほど有望の土地であり乍ら何故今日迄

蠶業が振興せざりしか

と云はるゝのですか夫れには斯う云ふ原因があるのです桑園の農民は其の智識の程度が甚だ低い智識の低い者に向つて目前の利に迷ひ永久の利を見ることが出來ない、其間何をするにも投機心に駆らるゝのであります、一時彼等は大養蠶即ち手に餘る蠶を飼ひ一攫千金を夢想したことがあ

るのです處が之れが悉く失敗に終つたものですから養蠶なんぞすべきものでないと云ふやうになりましたので、之が非常に其發達を害した原因となつて居ります、夫れに又彼等には數字の思想がないから、一家擧て漸く取り上げた繭を町へ賣りに出て甘い工合に

商人に瞞着

されど只取り上げらるゝやうなことになると云ふことも大に蠶業の發達を害して居るのであります、即ち澤山に取つたと思ふ繭も町へ出て賣つてみれば商人が桝や秤を胡魔化すものだから全體の賣上高が幾らにもならんので格別養蠶の利益も見えない、ソーして其上遣蠶でもあつたならば何んとも仕樣のないとゝなるものだから自然好んで遣るにも及ばんと云ふ心になり漸次蠶を飼はないやうになつたのであります夫れに蠁蛆も又隨分慘害を呈したことがありました、夫れや之れやの關係で土地や氣候の上から見て非常に有望であり乍ら事實は之と反對に振はなかつたのであります、併し昨年の

凶作が一大動機

となりましたから東北の地は必ず蠶業の一大勃興を見るでありませう、また是非ソーせねばならんのでありますが、先づ私の意見としては一般農家に此際各自の屋敷畑はりに五本なり十本なりの桑樹を植ゑさせ、之に依て少しづゝの蠶を飼はせて、出來た其繭は村內のものを殘らず一個處に集め、所謂共同販賣を遣らするのです、斯くして養蠶の利を覺えた處で桑園を仕立さするやうにするのですが私の考へては新たに桑園を仕立てるものは皆高田式仕立にして夫れが立派のものになる迄は大分に年限もかゝるから、其中間へ魯桑の實生を密植さするのが宜しからうと思ふのであります、高田式にする桑の種類ですか、大抵赤木であつて、市平、高助、魯桑などもあるけれども、尠いのみならず其成績は赤木に及ばんのです、魯桑の實生は枯れはせんかと云はるゝのですか、夫は決して枯れませんが、枯るゝと云ふのは多分苗が惡るいのでせう、而して東北地方は氣候が遲れて居りますから、春蠶の掃立は毎年大抵五月下旬ですが此春蠶の掃立を少しく遲れさせて夏蠶期と秋蠶期との二期に飼育するやうにしたならば宜しからうと思ふのです、氣候の上より見れば東北地方は僅に

秋蠶種製造地

として最も有望であるから、將來は信州の勁敵となるであらうと考へます、故に一面秋蠶種の製造を奬勵して一面には永い冬期に酒を呑み博奕を打つて遊んで暮すと云ふ弊風を矯正するために。

製絲事業を奬勵

するのであります此頃は足踏器械など云ふ便利な製絲器械も流行して來ましたから一般の婦女子に此器械を以て戶內製絲を遣らせ更に進んだならば、今度は村內で二十人繰なり三十人繰の共同製絲場を起し、他より工女を入れずに村內の婦女子丈けが集つて製絲するやうにし、ソーして出來得たならば上州の碓氷社や甘樂社のやうな組織にして、共同揚返の下に其品質の一定を圖り、又た更に機織の業をも盛んに起させたいと思ふ、斯くせば遊惰放逸の惡風も自然改まり今日の農民を貧困の中より救ひ出して富裕の民たらしむることは容易らであうと信んじます。

佛蘭西土產

特別會員　峰村喜藏

永らく佛伊獨の三ヶ國に留學せられたる本會通信委員峰村喜藏氏には佛船ポリネシアン號に乘り七月二十二日に佛國マルセーユ港を解纜し海上無事八月二十七日に神戶へ安着せられ本月二日に上京せられたから記者は氏を日本橋の濱町に訪問しいろ〳〵珍らしい話を聞いたのであるが左に佛蘭西に關する談話の一節を掲げて廣く會員諸氏に紹介することゝした

イヤー失禮しました、大分に御待たせ申しまして、ハヽー何か御土產談を聞きたいとな、格別御話するやうなことも御坐りませんが、併し何なりと御尋ね下されば、夫れに就て御話することに致しませう。

申分なき天惠の氣候

佛蘭西が日本よりも蠶兒の飼育し易いと云ふのは、如何なる關係であるかと云ふのでありますか、左樣、夫れは第一氣候の關係であります、佛蘭西は御承知の通り約六角形の國でありまして、中央に里昂の都が在りますが、東西に線を引きまして、夫れより南部を南佛蘭西北部を北佛蘭西と申します處で北部の方は小麥が主なる產物で、之に亞ぐのが牧畜果樹と云ふ鹽梅である、けれども養蠶は更に出來ません、養蠶の出來るのは南部であります、南佛蘭西の產物は第一が葡萄第二が養蠶第三が牧畜第四が果樹と云ふ順でありますが、南部の葡萄は北部へ北部の小麥は南部へと云ふやうに、相互に交換して需要供給の權衡を甘く保たせてあります、此葡萄と小麥とは殆ど日本に於ける米の如く、佛蘭西の主要物產にして養蠶の如きは南部の農家が僅に一「オンス」か乃至二「オンス」位掃立つるに過ぎないから、眞に副業的に經營されつゝあるのですが、さて其養蠶が氣候の良い爲に至極雜駁な遣方でありながら、ナカ〳〵良く出來るのであります、即ち佛國は北極と赤道との丁度中央であつて溫帶圈中の中程に位置を占めて居りますが、土地の高低並に其性質は極めて錯雜して居りますけれども、幸に到る處海の影響が行き渡つて氣候を平均し溫和にして居ります、のみならず雨量の如きは一年中の平均八百ミリメートルでありまして、一年の降雨日數は百四十日、即ち五日の間で二日の降雨を見ると云ふ割合でありますが、日本のやうに連日霪雨など云ふこともなく又盆を覆すやうに假に襲ひ來る驟雨と云ふやうなものもありませず、サーと降り來る雨は暫時にして晴れ、而かも能く土地を潤ふしつゝ空氣は常に乾燥して居ります故に日本ならば繭を蒸殺して揚はずに置いたならば黴びて仕舞ふのですが、佛國では皆蒸殺にしまして二ヶ月乃至二ヶ月半揚はずに置く間に無水分

となり能く乾燥致します、又私共の靴などは更に黴びたことはありません、尤も仔細に觀察しますれば北部は比較的寒冷で雪なども（多くて四五寸）降りまするのに反して南部は稀れに雪も降りますが更に角温暖にして能く乾燥致します、斯様に氣候は南と北とて多少の相違あるを免れんのですが乍併大體の氣候は前に云つたやうな風てあるから殊に南方の氣候は宜しいて、養蠶を致しまするには至極容易てあるのです、隨つて技術の如きは日本などよりも遙に劣つて居り至極雜駁なる遣方をしつゝ而かも相當の收穫を見ることが出來るのてありまするに依り、養蠶の上より觀察したる佛蘭西の氣候は、先づ申分なき天惠の氣候であると云はねばなりますまい。

養蠶は日本に御任せをする

右様の次第ではあれど、去り乍ら佛蘭西の農家は餘り養蠶に氣乘りがしてない、小麥や葡萄の如きものがイケないとなつたならば、或は以て養蠶に熱心するかは知りませんが、先づ現在の處ては養蠶は僅に其運命を支持されてあると云ふ方が適評であつて最近十年間の統計を見ると增しもせねば減じもせず、居座りの狀態てあるのです、政府より三百八十三萬七千二百三十一法（千九百四年）と云ふ莫大なる補助がありましてすら、如此でありますが、明年あたりは此補助金も無くなるてあらうとのとてあるから愈々無くなつた曉には養蠶其者は如何なる位置に陷ゐるてあらうか這は疑問てあります夫があらぬか、學校の如きも養蠶に對しては更に念を入れません農學校には養蠶の一部を設けて之に關する講義などもありますが、生徒の聽講者五十人の內て三四人位は居眠りをして居る有様てあります、尤も先刻申しましたやうに、氣候の良い爲に掃立から上簇迄に三回も除沙をすれば、モー構はずに置ても宜しいと云ふ位てあつて、雨が尠いから貯桑室の設けも充分ならず乾濕計なども一個も用ひません、去れば飼育法の如きは熱心に研究するの必要がないと云ふ關係も幾らか有りませうけれど、更に角養蠶其者が佛國にては餘り否寧ろ利益が無いと云ふのが主大原因となつて斯くあるのではあるまいか、冗談でもあらうが、彼國の人は私共に向て其內に養蠶の事は悉皆日本に御任せするなど、申して居ります、以て其趨勢を察することが出來ませう。

利用の道もさま〴〵

養蠶の技術は日本よりも劣つて居りますが、栽桑の方法は餘程進歩して居ります、尤も日本のやうに之れが桑園てあると定つてなく、他の作物と桑とが多く輪作になつて居り、且つ植えて直に其翌歲には葉を摘むと云ふやうなことは致しません、移植後六年間、只培養のみを行ひ、葉を摘まないからナカ〳〵立派に成木します、中には二百年や三百年命數を保ち能く榮えて居る老木を見受けるのてありますが、概して彼地の桑樹は永く繁茂するのてあります、其仕立方ですか、支那の拳式仕立みるやうな仕立方てありまして、植えて後每年成木伐採と云ふものを行ひ、夫れより繁盛伐採を爲し、愈々モー樹が衰弱したと云ふときには、斷頭伐採と云ふことを遣

つて、其樹を若返らするのです、土地も無論適して居るに相違ないが、培養の方法も亦巧みてありますから、日本の桑樹のやうに七年や十年て枯木同様になると云ふやうなことはありません、尤も日本に居る鐵砲蟲などは彼國に少しも居りませず、摘桑も二回と云ふ都合になるけれども「モンペリー」の農學校て春夏の二期に育蠶するのみてありまして、一般は春蠶計りてあるから、第二回目の摘葉は多く秋季落葉頃に行はれますので、桑樹の生理を害するやうのことはないのてあります、秋季の摘葉は何にするかと問はるゝのですか、夫れは家畜に與へるのてあります羊や豚が喜んで喰べますから、十月初旬頃より下旬頃迄の間に竿にて上から葉を下へ叩き落し、一日位其儘に放置して翌日頃自宅へ持ち歸つて家畜の飼料に供するのであります、若し家畜を肥させやうと思ひば、夏期マダ葉の青々として元氣の良い時に於て鋏て葉柄を殘すやうにして葉の基部からチギるのであります、恰も日本て夏秋蠶用の葉を摘むやうな風にして、摘み取り家畜に與へるのてりますが、豚などは桑の葉計りてなく、桑葉と蠶糞の混じた即ち蠶沙を喜んで食しますから、私の下宿して居つた宿の主人などは蠶沙を貯へ置きて、時々取り出しては豚に喰はして居りました、利用の道もさま〴〵あるものてあります。

佛國モンペリー農學校の新苗圃內に在る幹のカロになりたる桑樹にして其後に[illegible]せる人は[illegible]

蛆害を避くるの一策

今春は日本の養蠶家も蛆害の爲めに大打擊を受けられたやうに聞えて居りましたが、擬蛆驅除は日本蠶業界の大問題と云はねばならん、併し日進月歩の今日てあるから、早晚面白い方法も發見さるゝてありませう、また發見せねばならんことてすが、私は彼の伊佛に於て專ら行はるゝ溫室て桑樹の發芽を促進せしむると云ふ方法を利用したならばと想ふのてあります、佛蘭西ては溫室の中へ中刈の桑を入れ伊太利ては根刈の桑を入れまして發芽を早めさせて居りますが、固より人工てあるから、一ケ月ても二ケ月ても自由自在に早く芽を出させうるのであります、尤も私はドノ位の設計費を要するか夫れに對する調查をしてありませんから、費用の事は御話が出來ませんけれども、堤防のやうな處を利用して硝子を覆ひ日光を導いて溫暖にし、自然の氣候に放任しても、ズン〳〵葉が伸暢するやうな時節になつたならば、其溫室を取り除けるやうにしますれば、幾らの費用も入るまいと

思ふ、大概な養蠶家は三四十本も溫室へ入れて置けば充分早生桑丈けの準備が出來、而して中晩桑の代りに早稻桑を栽培して壯蠶飼育をするとせば、或は以て蝕害を避くるの一策ならんと考ふることであるから、斯業熱心の方に之が試驗あらんことを切に希望する次第であります。

予が見たる夏秋蠶

特別會員　尾澤琢耶

あゝ暑い〳〵と殘暑の嚴しいので誰れもかも流汗淋の如しと云ひたい頃であつた、本會評議員の尾澤氏が上京せられたから、編者は夏秋蠶に對する氏の意見を叩いたのである、何も別に話すべき事もないがとて、諄々說かれたのが即ち左に收錄した處のものである、今や夏秋蠶飼育は天下の輿論となりて何人も異論なきやうなれど、時に反對論がないでもない、斯かる論者は宜しく之を三讀せられたい、特に附記して置くのである。

窮屈なる制裁を止めよ

本春に於ける殘桑は到處甚だ多かつた、群馬埼玉等の關東地方計りの殘桑でも太いしたものであつて、丸て春蠶に摘まなかつたかと思ふ位の有樣であつた、此殘桑を利用して大分に夏秋蠶を飼育した者が有るやうであるが之は頗る結構なことである、殘桑は或程度迄は之を摘み取て夏秋蠶を飼育しても其敷桑樹の生理を害する譯けてもなし、而かも飼育すれば飼育した丈け夫れ丈け國益を增す道理であります、勿論二重に摘まぬ方が宜き事は分り切つて居るが、養蠶家の經濟上から夏秋蠶を止める事は出來ぬ、近來は秋蠶に摘み取るにも桑業の元の方を少々殘して鋏を以て一々切り採る人もある如此摘み方で而して肥料でも能くやるならば桑樹を害することは僅少なものであらう、尤も世の中には桑園の荒廢から夏秋蠶を喧しく責むる人もあるけれども、併し夏秋蠶の發達は自然の趨勢であつて、又た何れの方面から觀察しても益々之を奬勵せなければならぬ關係があるから、餘り窮屈の制裁を設けて、之が發達を抑止するが如きは甚だ良くないことであると思ひます。

大に鐵道の運賃を低減すべし

現在に於て養蠶は農家の副業中最も利益の多いことは明かであるが、將來も尚ほ果して如此利益を見ることが出來るかドーか、若し出來ないとなつたならば何程國益ぢやなどゝ云つても到底永く其隆盛を見られんのである、現在ですらも昔からの蠶業地と云はれた土地て、有利なる他の事業の發達の爲めに蠶業が著しく衰頽した處もあるてはないが、尤も斯の如き土地はツー餘計に在ると云ふてはないが、現に角利益が若も薄いとか無いとかと云ふことであつたならば、夫を國益とか公益とかと云ふ美名の下に押へ付けやうと云ふことは無理であると云ふことが之れに依て譯るのである、彼の青森秋田岩手の如きは、古い蠶業の歷史を持て居り土地の狀況から見ても、大に發達せねばならんのであるけれども、夫れが今日迄發達せなかつたのは、何故てあるか、歸する處は蠶業が他の仕事よりも利益がなかつたと云ふことになるのです然るに今度鐵道運賃低減の關係から私共を始めとして、信州

地方の製絲家が澤山入込んで從來一貫目三圓か三圓五十錢て買つた繭を四圓なり四圓五十錢なり相當の價格を以て買つて遣つたものですから、丸て彼地の養蠶家の意氣込みが違つて來たのです、年々斯うして買つて下されば大に養蠶を致しますと皆云つて居る有樣である、彼の岩手縣計りでも凶作地救濟の關係からでもあるが本年十數萬圓の蠶業奬勵費を投じた位てあるから、近き將來に於ける東北地方の蠶業は實に目醒しき發達を爲すであらう、從來蠶業などは利益がなくて而かも危ない仕事てあるかの如くに思はれてあつたのが、斯う云ふ關係になつて來ると云ふのは、畢竟鐵道運賃低減の効能と云はねばならんのです、關西地方ではドレ丈けの効能があつたか知らぬが、關東々北の地方では著しい効能のあつたことは、爭はれぬ事實である、故に全國の鐵道を官營にする政

三重郡蠶業講習所正面の圖

府は重要輸出品奬勵の爲めに、大に其運賃を低減し如何なる僻地に居ても蠶業さへ遣れば相當の利益を得らるゝと云ふやうにせられたい、尚ほ蠶業の利益を多からしむる爲めには春蠶の一方に偏せずして、

大に夏秋蠶を飼育すべし

てあるが扨此の夏秋蠶飼育に就て議論の有のが桑園てある、或者は專用桑園にすべしと唱へ、或者は兼用桑園にすべしと稱し、異論紛々として止まる處を知らずてある、私は國家經濟の現狀に鑑み利益をより多く收得するの必要を認めて居るから同一桑園て春夏秋蠶と飼育することを贊成するものである、現に夏秋蠶が旭日昇天の勢ひて發達しつゝある其の原因の如きは、全く茲に在ると言て宜しいのです、成程彼の信州松本平の如きは、殆んど春蠶を飼はない

て夏秋蠶のみを飼育して居るから、其桑園は所謂專用桑園てあつて、ナカ〳〵に立派てある、其繭の品質は至て善事てある、乍併國家經濟の現狀農民經濟の實況に立入てみれば、事情の許す限りは桑園は少し位早く衰頽して、繭質は稍劣ても同一桑園て春夏秋蠶を飼育することにせねばならぬ、之れて有て始て養蠶は他の業よりも割合が良いと云ふことも言へるのてす、尤も桑園の如きは肥料を充分に施して桑葉の二度摘みを濫暴にせず摘み方等にも細々注意してやれば、ツイ假に衰頽するものてはない畢竟程度問題てあるのてす若し衰頽すれば漸次片端より改植するより外はないのてあるが、私の希望を遠慮なく述ぶれば、更に桑園の大增殖を圖ると云ふことてある、桑園さへ澤山あれば春蠶を飼つて其上彼處の桑園此處の桑園と、ドコを摘んだか譯らぬやうに少々づゝ摘んだ其桑でも優に多分の夏秋蠶を飼育することが出來る計りてなく、夏秋蠶の爲めに桑園の荒廢するのを大に防ぎ得る譯けてあります。

製絲業の基礎を安全ならしむ

私は夏秋蠶なるものは國家經濟の現狀と農民經濟の實況とに照し大に其發達を望むと申しましたが尚ほ夏秋蠶は製絲業をして安全の事業とならしむる要素てあると考へます、兎角製絲は危險なる事業て山師仕事のやうに世人に誤解されて嫁は製絲家に與るなかどと云ふ位てある、夫は寔に無理もないことてあつて、從來製絲家は多く春蠶の繭のみに依て、一ケ年の製絲經濟を立てたものてあるから、僅に三十日內外の短時期に於て原料を仕入れ夫れて損益の見込みをつけねばならんて、當るか當らぬか先きの暗い話てある、原料を仕入れた當時の相場がイツまでも繼續されて平々坦々てあるとすれば更に心配はないけれども、劇變極まる絲價は果して自分の見込み通りに儲かるかドーかと思つて製絲家は常に戰々兢々の狀態に在るやうの始末て、ドーしても危險の性質を離るゝことが出來ない、故に世の人に山師仕事てある投機的事業てあると見做さるゝのも止むを得んのてある、乍併之が春蠶計りてなく、夏秋蠶の繭をも仕入れて之に依て一ケ年の製絲經濟を立てやうと云ふことになれば、原料の仕入時期が二期にも三期にも亘るから、たとへ春蠶の時に見込み違ゐをして原料を高く買ひ過ぎたと思ふても夏秋蠶の時期に之を取りかへすと云ふことも出來るから餘程危險の性質を減ずることが出來る、隨て製絲業の基礎が安全になる道理てあります、と申しましても夏秋蠶絲の品性が甚しく劣等てあるとすれば、之れまた大に考慮を要することてあるけれども、實際光澤と云へ纖減と云ひ其他春蠶絲に比して優るとも敢て劣ることはないから、米國等の機業家は織物によりては殊に秋蠶絲を望むと云ふ有樣てあるのてす、去れば何れの方面より觀察しても夏秋蠶の利益あることは事實に於て之を證明されてあるから兎末も其發達を抑制してはならんのてあります。

方今蠶絲業に關する智識の程度、日に月に增進せりと雖も、製絲の技術上に至りては一般の職工に迄未だ普及せられざるの憾あり、記者は各地の製絲工場に於ける一般工女に、此際技術上に關する智識を啓發せしむるの必要を感じ東京蠶業講習所敎婦金厚つた氏に乞ふて最も簡易に理解し易きを旨として製絲に關する講義を叙する事とはなしたり。

製絲のことゝも

通常會員　金厚つた

抑も蠶絲業は遠く神代の頃から始まつたことが古史に見えて居ります、畏くも天照太神は桑を栽え蠶を養ひ繭を含みて糸を紬ぎ之を御召料に供へさせ給へ、雄略天皇の皇后は宮中て親しく養蠶し給へて斯業の御奬勵を遊ばされました、近くは英照皇太后は青山御所にて御養蠶の御催しあり一般臣民に之を勸めさせられました、又一昨々年には高輪の宮居深くおはする常宮周宮兩殿下を始めまつり、一昨年は麻布の御殿にましませす富美宮泰宮兩殿下、昨年は恂れ多くも皇太子妃殿下には、本所へ行啓遊ばされ、親しく養蠶製絲の業を見そなはし給ひたるなど、上は九重深き御邊りより、下はしたなき臣民に至る迄斯の業に從ひて古き昔より遠き將來迄も連綿として行はるゝは誠に喜ばしき次第てあります、殊に麻布の御殿に於かせられましては、每年多數の御養蠶を遊ばされ、いとも美事なる御成繭を何石と云ふ多量に得させ給ひて、本所に製絲すべき樣命ぜられ、吾等は此辱き御思召を拜しまつりて、實地繰絲の業に當る事を得ましたのは誠に願ふてもなき此上の光榮とする處てあります、斯く辱き御方々がこの蠶絲業を御奬勵遊ばされますのは申す迄もなく生絲は我國輸出品中の第一位を占め、是によりて國家の經濟を維持して居るのみてなく、遠き古より婦人唯一の業務として、貴賤となく貧富となく珍重して行はるゝ性質を持て居るからてあります。

さて私は此辱き職業を手にして皆樣と共に苦心研究をして居りますから、此度本會の需めに應じまして、をこがましくも茲に製絲に關する一ふしを述べて、製絲工婦の君達の御參考に供する事となりました、幸ひ皆樣の御非難を受けなければ仕合せてあります。

製絲と云ふことは其仕事の範圍が隨分廣きに亘て居りまするから、之を一々詳しく申述べる事は、到底ある、紙面に於て私の力の及ばぬ處てありますから、單に繭を繰り絲を製すると云ふ事のみに就て極簡單に述べる事としませう、先づ順序として仕事の方法を左の如くに區別致しませう。

一、煮繭につきて
二、索緒につきて
三、製緒につきて
四、繰絲湯につきて
五、漆緒につきて
六、斷緒につきて
七、繳掛の裝置につきて
八、集緒器につきて
九、繰枠の回轉につきて

一、煮繭につきて

繭を煮ると云ふ事は繰絲上最も大切の事でありまして、其宜しきを得ると否らざるとは、仕事の出來高に、又絲量の多少に幷に生絲の品位に頗る重大なる關係を有して居るものであります、如何に原料繭が優等でも、如何に繰絲の技術が長けて居りましても、煮繭の方法を誤つ時は到底良生絲を得る事が出來ないのみならず、絲量を減じ、時間を費し、折角の仕事も遂に空しき不結果を來すのであります、されば煮繭の際は殊更注意に注意を加へて、其適度を誤らない樣にしなければなりません、左に其要項を擧げませう。

（イ）煮繭の溫度　煮繭の溫度は春夏秋蠶の別により、又生繭乾繭の別によりて多少斟酌せねばなりませぬが、要するに溫度は少しく低めにして時間を長く費した方が繭にむら煮ゐがなくて適度の加減を得るに容易い樣であります、先づ二百度から二百五度位を標準として解舒の佳良なる繭又は繭層の薄きもの、及充分乾燥せざる繭は是より低くし、解舒の佳良なる繭又は繭層の厚きもの、及本乾燥をなしたるもの等は是より少しく高くした方がよろしいのであります。

尙煮繭の溫度は同一でありましても、繭の種類蒸氣の强弱氣候の寒暖乾濕等によりて、煮繭の時間に長短を來し程度に過不及を及ぼしますから、能く〳〵是等の點に注意する事が肝要であります。

（ロ）煮繭湯量　煮繭湯量の如何は繭の煮加減の良否に關係のあるものでありますから、其適當の量を得る事が肝要であります、今爰に鍋の上緣まで一ぱいの湯を滿して煮繭を行ひますれば、繭の湯上に浮びたる其半面は冷かなる空氣に解る事が多くして、爲めに其程度が均一にならざるのみならず、徒らに時間を費して其結果繭はぼく〳〵として繰絲する際に甚だ困難を感じ且つ顆節を多く生じます、之に反して湯量少くして湯面と鍋の上緣との距離凡一寸位ありますれば、湯より發する蒸氣は繭の上面を被ひて冷氣に觸るゝ事が少ないから繭の煮ゐ加減が良くて繰絲し易きのみならず、從て生絲の品位も好くなりますから、此點に就ても充分注意せねばなりませぬ。

問答

給桑に就ての質問

埼玉縣通常會員　小林瀧松

給桑量を誤て簇沙の長く乾燥せない場合に於ける蠶兒は食慾が生じないものでせうか、斯かる場合に給桑せなかつたらドーでせう、或は又燒糠のやうなものを撒布して乾燥を促し、更に給桑して强て食桑せしめなければならんものであらうか、右は寒冷の時と溽熱の時とを二樣に分けて明敎を願ひたい。

答　學藝委員　農學博士　外山龜太郎

蘇桑が長く乾燥せんでも、蠶が健全であれば、食慾を生ずるであらう、故に給桑はせなければならん、夫れには除沙が必要である、若し出來なければ乾燥したる薬を蠶體に應じて適宜に切て多く撒布し其上に給桑するが良い燒糠の如きも妙であらう、冷濕も溫熱も其取扱の原理には異なる處がない一言すれば桑下の內へ空氣の流通を自由にするより外はないのである。

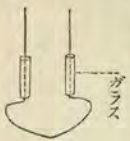
共撚式の綾振に就ての質問

滋賀縣通常會員　若林又右衛門

由來繰絲器械の小枠綾振の多くは、「ケンチル」式は連振を用ひ、共撚式は各自振を使用して居る、こは如何なる理由に基くのでありませうか、共撚式の小枠に連振を用ひる場合には、絲縷の片引けをなし、撚が上りて切斷するの虞がありはせぬかと思います御實驗說を伺ひたい。

答　學藝委員　石居一郎

共撚式に多く銘々振を用ゐ、「ケンチル」式に多く連振を使用するとは、何れの地方に於ける狀況であるか、予は未だ此の如き狀況を辯知しない從て其理由の基づく處を斷定なし難いけれども要するに共撚式は「ケンチル」式の如く數口を以てせず、二條繰にして回轉數は「ケンチル」式に比し、極めて速かだから連振となせば作業上多少困難を感ずるで銘々振を使用したるものであらうか。



共撚式は多く連振にして圖の如く鰯形の綾振器を用ゆるか

ら、回轉數は何程速かでも作業上決して差支はない。又非鹽基性に速擦を使用するときは、絲繊に片引けを生じ切断する云々と云ふことは、絲繊の片引けは酒接せる編粒の不權衡から起るものである。

微粒子病に就ての質問

岐阜縣
通常會員 武藤喜兵衛

（一）微粒子毒の孵も發育に適する溫度は何度ですか。

（二）數年來の實驗に因れば華氏八九十度で飼育する初秋蠶は、曾て微粒子病に罹りしことなきも、七十度内外に於て飼育せし晚秋蠶は常に之に犯された、但し蠶種は共に鏡檢上無毒で微粒子毒は消滅せる筈なりしたのである、以上の實驗によれば「微粒子毒は溫度高き程に從ひ發育佳良なり」と言へる說に反するやうである御高敎を願ひます。

學藝委員
農學士 林驛作

答

（一）微粒子の發育に最も適當なる溫度は何度なるかに就ては別に試驗したのを見ないが、其は特に或る一定の度に限るといふような事はあるまい、普通養蠶を行ふ時期では、低溫度より高溫度の場合に發育が速かであることは、試驗の結果に明かである。

（二）微粒子の發育速度は溫度のみならず、又濕氣に關する事は尙ほ更大である、即ち乾燥の時よりも濕氣多場合に發育が旺盛で傳播も又た速かである。

茶の話

何人も飲む茶を用ひます所の茶の中成分は藥劑學上のものであります、之に依て茶の特有たる劑物作用を論じてもこゝあります。此茶葉の食有量の多少に依て其品位が違ふ事ですが、老茶よりも若葉で製したもの、方が茶葉を餘計に含んで居るものであります、我國では古來茶の代用として、麦冬茶、甘草、枸杞茶、五加茶、遠草茶、夢茶等を用ひましたけれども、之等の中には茶の特有たる茶葉即ち咖啡現はれありません、尤も其間の無なると利尿の効あると云ふ点から、今日も尙ほ用ひて居る点がありま。

消毒に就ての質問

岐阜縣
通常會員 安田壽作

本誌第百五十八號に佐々木博士の簡便なる蠶病消毒法と云ふのがありまして、夫には三分の「フォルマリン」（四十%）一分の硫酸百二十匁の生石灰を混合して「フォルムアルデヒッド」瓦斯を發散する云々とありましたが、八疊一間の蠶室に蠶具百六十枚附屬品數種を收容して消毒するには、分量幾何を要するせう、又此藥品を混合するには堅固にして大なる鐵皿のやうなものに「フォルマリン」硫酸生石灰と順次に混和したものでせうか、或は別に火器など用ゐざるも皆發散して仕終ふものでせうか敎ひて下さい。

學藝委員
理學博士 佐々木忠次郎

答

八疊敷の蠶室又は同室内に蠶具を入置き消毒するも矢張本誌に記載せる分量に了則に差支なく、此消毒法を實行するには可成消毒せんと欲する蠶室は密閉せなければならぬ、又同消毒法を實行せやうと思ふ時は丈夫にして大なる井又は皿の類を取り、先づ此中に生石灰を容れ硫酸を注ぎ入れ、然る后「フォルマリン」液を加入するのであるが所でうすれば火力

絲況

八月中に於ける横濱生絲市場の光景は、其上旬に於て太上一番一千圓以上の安直を示さんとするの趨勢なりしも、歐洲向に續き米國向の買進みとなり、相場は漸次引締りて三圓五圓と奇騰し、中旬に至りて一千三十圓より三十五圓となり、更に下旬に入りては一千四十圓と小堅く持合ひたり、暴騰之れ歐米の各商館が夫々買氣を含み來りて、熱心なる商談を試みたる結果にして、隨て折返し別馬の如きも、初旬に一千圓なりしもの、一千二十圓と飛ぶ、上州南部座繰も亦初旬の一千四十圓より一千七十圓の高直を報じ、細筋十中の如き一千九十圓以上一千百圓溯の價格にて取引せられ、頗る活況を呈し、途に別表の如く二萬六十六個半の賣了と、一萬一千九百三十一俵の輸出を見るに至れり。

而して八月中に最も高價に賣行きたるは、山梨縣矢島組太の一千〇九十七圓五十錢にして、最も低價なりは福島縣共同折返の九百四十圓なりとす、今一月以來の最高價を前年の夫れと比較對照せは左の如し。

生絲最高價月別前年對照表

	明治三十九年			明治三十八年			價格之差
一月	愛媛縣	河野製絲太	一,〇九〇圓	愛媛縣 / 島根縣	三河製絲太 / 雙水社擧	一,〇五〇圓	四〇圓
二月	神奈川縣	兄弟社細	一,〇九〇	島根縣	東雲館太	一,〇一〇	八〇
三月	京都府 / 山梨縣	郡是製絲太 / 風間社細乃	一,一二〇	山梨縣	矢島組太	九八〇	一四〇
四月	山梨縣 / 埼玉縣	風間製絲太 / 埼玉製絲太	一,一二〇	三重縣	度會製絲太	九九〇	一三〇
五月	愛知縣	國寶社細	一,〇八〇	埼玉縣	埼玉製絲太	一,〇一〇	七〇
六月	愛知縣	國寶社新細	一,一〇〇	靜岡縣	宮野製絲新細	一,〇二〇	八〇
七月	愛知縣 / 埼玉縣	國寶社細 / 廣瀬製絲細	一,〇八〇 / 一,〇八〇	山梨縣	草薙社太	一,〇五五	二五
八月	山梨縣	矢島組太	一,〇九七	愛知縣	三榮社細	一,一〇〇	二五〇

今春に於ける蠶作は屢々記載したるが如く、霜害蠁蛆等の爲めに一部の缺陷あるを免れざりしも、大體に於て平年作以上の作柄を得、夏蠶亦た近年稀有の好結果を収め、秋蠶の成績稍面白からざるの地方ありしも、先づ良好と稱するを得べく某外商が本年横濱の輸出高を二十萬個以下に落ちずと報告し、海外取引先を驚かしたる事あるも、無理ならぬ次第なるが、扨歐洲に於ける蠶況如何を顧みれば、西班牙の一部を除くの外、伊佛其他は前年に比し、何れも增收ならんとのことにして、淸國の養蠶も亦た假令廣東の不作あるも、其他は概ね豐作なるを以て、上海よりの輸出額は前年よりも遙に增加するならん、去れは本年の世界生絲の產額は昨年に比し、優に一割以上の增加を見るに至らんか、果して然らば供給過多の爲め絲價の暴落を來すやも未だ知るべからずとは、强ち一派の杞憂觀とのみ目すべからざるものありしに、昨今の狀況を見れば前述の如く新絲以來未だ曾て之れなき活況を現じ、尙ほ前途順調を以て進むもの丶如し、之れ其原因歐米機業界の好況に依ること見易きの理勢なるが、其の主大原因とも云ふべきは、春來世界の在荷到處拂底して新絲の出廻はりを待ちつ丶ありしに、絲價は豐作の割合に高位に在るより、止むを得ず見送りつ丶、當座用原料の外買附けざりしも、愈々原料品の缺乏を告げたるより順次之れを補ふべく買入る丶の必要起り、絕へず生絲の取引を爲すものあるに依ることにして、亦た今一つは銀價騰貴の關係より支那絲の輸出を制肘せること亦た預て我横濱市場に好況を與ふるに至りしこと爭ふべからざるの事實なるが如し。

從來本邦生絲の輸出は米國六割歐洲四割の割合にして市場の振不振は一に米國向に依て左右せらる丶處なりし、然るに本年は未だ歐洲向に比して米國向の氣勢敢て揚らず、春來の景氣は重に歐洲向に依て保たれたる次第なるが、新絲以來八月末迄の輸出高を一瞥すれば、輸出高合計に於て前年よりも五千六百餘俵の增加を示しし中、歐洲向の增加四千三百六十三俵の多數を占むるてふ異觀を呈せり、而して玆に最も注意を要すべきは從來太筋及び座繰は米向き、細絲及び折返は歐洲向きと唱へられしに昨今歐洲商人が細絲折返は勿論米向きと相伯仲するものを切りに買入る丶の奇觀を呈するに至りしよ之れなり。其原因の奈邊に存するかは知るに由なきも、某當業者の語る處によれば歐洲各地とも平和の狀態にあるを以て絹物の需要大に增加すべしとの見越しより、歐洲機業家が格安の織物を製造せんと企てたる上に、米國農業界が依然好望にして、經濟界亦至極順調なるを以て、絹織物の前途愈多望なるべしと見込み、此際同國向絹織物の原料を購入するに至りしならん、斯かる有樣なれば今後に於ける生絲界には、太筋及び座繰の如きは米國獨占の買物ならずして、歐洲向き商人も順次買先きに現はるべく、市場は是が爲めに大に活氣を呈するなるべし、尤も歐洲向きと稱する太筋は「デニール」の制限兎角六かしき觀あれば、製絲家が此點に注意し米向きにも歐洲向きにも適合する「デニール」により繰製するを得策とせんか云々、時節柄製絲家の大に參考と爲すに足るものあらんと信じ特に玆に附記することヽなせり。

今左に本月中の生絲集散月表を揭げて參考となさん。

明治三十九年八月自一日至三十一日生絲集散表

	持越	入荷	賣了	地方積戻	繰越
器械	八,六五五	一八,四〇七	一五,九一八	二九七	一〇,八四六
座繰	七四九	四,一六七	二,八七四	四七	一,九九四
折返	八五	二,三八一	一,二七四	—	一,一九二
雜繰	一五	六七	—	二	八〇
合計	九,五〇四	二五,〇二二	二〇,〇六六	三四六	一四,一一三

備考

一、表中單位個は九貫目を指す

二、持越とは客月より本月に持越したるものにして本月一日の調査

三、繰越とは本月より翌月に繰越すべきものにして本月末日の調査に係る前月分の繰越と本月分の持越と其數一致せざるは商談中のものありしに依る

四、繰越以外に商談中のものありと知るべし

五、賣了中米國に輸出せるものは七千七百七十六俵にして歐洲に輸出せるものは四千百十五俵なりとす

但一俵は拾六貫目なり

尙左に生絲集散日別表を示すべし

明治三十九年八月自一日至三十一日生絲集散日別表

器械太 口　同中 △　同細 ○　座繰 ×　折返 +

日次	入荷	手合	賣了	引戻	輸出	地方積戻	國名	社名	種別	最高値	最低値	摘要
一日	六五四	四九八	二三三	一八	—	一〇	甲斐 / 信濃	甲南社 / 今[illegible]社	○ / 口	一,〇九〇	一,〇〇五	相場は日々安値を告げ千圓へ押落し何分面白からざる成行なりし
二日	八〇七	五六八	七九五	—	—	二二	信濃 / 岩代	天結社 / 共同二馬	○ / +	一,〇六五	九八〇	少しは新注文遣したる向有て相場は變りなく出來せり

三日	一、一九四	六三二	五九一	九	五三八	一六	上野 信濃	甘樂社 信英社	□×	一、〇二五 九九五	引續き兩三館へ商ひ出來ー小堅く保合の成行なりし
四日	一、一六三	二三三	三二三	—	九九一	一三中	下總 信濃	鏑高組 富社	□△	一、〇四五 九九七中	歐洲向の小商談ながら必要ものは弗々買進み相場三圓五圓高に取組ありし
五日	—	—	—	—	—	—	—		—	—	日曜日
六日	五三四	六七二	七六七中	—	—	一〇	三河 岩代	國寶一 共同馬社	+○	一、〇六五 一、〇〇五	座繰其他商ひ出來し相場は品により五圓方高直なりし
七日	一、二九六	六五八中	五六〇	四八	—	九	遠江 岩代	大龍三川 共同馬社	+○	九六〇 一、〇九〇	相場は變りなく續いて當用口へ取組あり一般手堅く保合へり
八日	九三四	六〇六	九九二	四三	五七二	一二	上野 岩代	交水社 共同若松	+×	一、〇二〇 九四〇	ザラ〳〵小捌き賣來を有し五圓乃至七圓高なりし
九日	八五八	四三三	三九六	—	—	一四	信濃 同	信澤館 出厚館	□○	一、〇〇〇 一、〇六〇中	氣配稍々靜かにして薄手合ながら更に異狀なし
十日	九一一	二三三	五七八	三六	五八五	一八	武藏 上野	清水製絲 甘樂社	×○	一、〇七〇 一、〇〇〇	出來直は先つ保合居れと此許少し落付調子なりし
十一日	七六三	四五二	五八六	三六	七九八	九	常陸 上野	石岡製絲 交水社竹	×○	一、〇五〇 一、〇〇〇	前報同樣變りなし
十二日	—	—	—	—	—	—	—		—	—	日曜日
十三日	六四一	一、五〇五中	四一八	—	—	三	甲斐 信濃	甲南社 信得社	□○	一、〇一〇 九〇〇	新規注文の途したる向あり歐洲向を重もとし□談出來前日に比し五圓高直なりし
十四日	二、〇二三	九四七	八四〇	五〇	九五	五	上野 岩代	碓氷社五人組 共同金銀	+×	一、〇五〇 九五五	引續き兩三館買氣ありて商ひ出來し相場も五圓高なりし
十五日	六〇七	三五七	一、四〇〇	一三四	—	二三	甲斐 岩代	矢島組金 共同三馬	+□	一、〇八〇 九六〇	前日程に商ひ出來ざれど品により何分か好直のものあり氣配變りなし
十六日	八六〇	二九九中	一、六八〇中	一一六	—	七	美濃 岩代	村木二 共同馬社	+○	一、〇七〇 九八〇	當用口へ弗々賣行あり相場は變りなく手堅き方なりし
十七日	八八一	二六四	五七六中	九五	—	二六	遠江 信濃	若杉製絲 伊館	□○	一、〇一〇 一、〇〇〇	横切當日の爲め捗々しき商談なく補充口へ取組出來せしに過ぎざりし
十八日	九二四	二八七	三八二	六四	二、八三八	一二	□中 信濃	天民社 精業社	□○	一、〇六〇 一、〇〇五	入電待ちにて商談頗る手薄く而して氣配先つ以て閑靜なりし
十九日	—	—	—	—	—	—	—		—	—	日曜日
二十日	九八七	一、一〇〇中	七九九	六二	—	二六	丹後 信濃	丹後共同社 信英社	□○	一、〇一七 一、〇五〇	ナト染めたる商談纔はれ氣配手堅く擔當品は多少相場を引締めたり

廿一日	九五六	三四二	六六三	—	—	一五	伊豆 岩代	城南二 共同馬社	+○	九九〇 一、〇九〇	前日に比し薄商ひなれど必要品は何分か高直を告ぐ氣配手堅き成行なりし
廿二日	九六一	三一一	八五六中	四一	一、一八三	三二	駿河 岩代	靜友一 共同馬社	+○	一、〇一〇 九〇〇	前日同樣別に變りなく先つ保合の成行なりし
廿三日	九一七	九四八	九〇中	三六	—	一四	武藏 岩代	瀧三製絲 共同馬社	+○	一、〇七〇 九〇〇	米國向の新規買物出動に由り諸氣を添へ五七圓方高直を告げ氣配ザラ〳〵小強し
廿四日	六四〇	四九一	一四二	三一	—	一一	南摩 岩代	櫻島金銀 共同象館	+□	九六二 一、〇七五	歐米とも横切り後にて商談薄く當用口へ弗々商ひ出來相場手堅く保合へり
廿五日	二三	三九九	七七五	九五	一、五六一	四	甲斐 相摸	天島組金矢 漸進社金象	×□	一、〇二〇中 一、〇九七中	氣配前日に變りなし
廿六日	—	—	—	—	—	—	—		—	—	日曜日
廿七日	七八二	二八九	六五五	四三	—	六	遠江 上野	中田製絲 甘樂社宇	×○	一、〇一五 一、〇六七中	大體の氣配前日同樣
廿八日	一、三九一	六九五中	一、〇九五中	四二	二四一	—	伊豆 信濃	兄弟社 松本社	□○	一、〇二五 一、〇二九	前日同樣別に變りなく商ひ出來せしが大抵歐洲向にて米向は一寸商談薄の方なりし
廿九日	一、五三五	六六六	一、四二六中	八二	—	一〇	三河 岩代	三榮三 共同馬社	+○	九八〇 一、〇八五	當用口へ商ひ出來し上州南甕座繰は特に五圓高なりし
三十日	七九〇	七一〇	七四八	三〇	—	一二中	信濃 同	東行社 ⊖組	□○	一、〇三五 一、〇八五	相場別に變りなし歐洲向の細替幾分か調子よき成行なりし
卅一日	九九〇	五三八	八七九中	三五	二、五二九	六	上野 信濃	碓氷社五人組 同谷社	□×	一、〇三五 一、〇七〇	氣配頗る堅く細太共直て可なりの商聲を聞き相場は幾分小締りの方なりし
合計	二五、〇二二	一五、一三四中	二〇、〇六六中	一、一四六	二、九二一	三四六中					

尙左に本年一月以來の生絲集散の狀況を明らかならしめん爲め月別表を示すべし。

生絲集散前年對照表

年月日	持越	入荷	賣了	殘貨	持越	輸出數量	輸出價額
三十九年一月	三四、九五五中	七、六一二中	一四、六二六中	一、二二二中	二六、七二七中	七九一、〇一二中	七、八〇三、〇二〇
三十九年二月	二八、二二四	二、九六三	一四、七五四中	二、一〇七	一三、七〇一	七五〇、六二二	七、三四三、七三七
三十九年三月	一三、七〇一中	五、四九五	九、五八三	一、九〇一	七、七一一中	七九五、七八七	八、二九四、九〇三
三十九年四月	六、四一五	七、一六三	四、三九六中	六九四中	八、四八七中	三七一、四三七	三、七〇八、八六七

三十九年五月	七,〇九二	五,〇六四	七,二一一	一,五三五	三,四〇九	四四四,八五五	四,五三四,五八七
三十九年六月	二,六九八	五,六〇五	二,八〇一	一,〇九一	四,四一一	二一〇,八三六	二,一九〇,七一四
三十九年七月	三,八八六	一九,五一八	一三,一三九	五七七	九,六八九	六六四,〇二五	六,八一七,〇六二
三十九年八月	九,五〇四	二五,〇二二	二〇,〇六六	三四六	一四,一一三	一,一八六,八九六	一二,三三六,四四六
計	―	七八,四四三	八六,五七九	九,四六三	―	五,二一五,四七〇	五三,〇二九,三三六
三十八年同上	―	六九,六九八	六八,七三二	七,八一九	―	四,二四一,〇一三	四一,四一八,一五一

紐育市場

紐育に於ける生絲市況に付同地駐在總領事館事務代理永井氏よりの電報は左の如し。

現物取引相應にありて在荷拂底の姿なると産地相場强氣なるとにて相場手堅し機織一番四弗二十仙より二十五仙(八月十五日發電)

生絲現物拂底短期注文相變らず可なり器械一番四弗廿五仙より四弗三十仙(八月廿九日發電)

里昂市場

亞細亞生絲に對しては前週金曜日に一寸需要現はれ買注文出でしも、其後引續き行はれず、再び沈靜に歸したり、此處思惑筋は出でず、弗機屋の直接需要筋も同樣見送りの姿にして、旣九月に至らざれば買調まざるものゝ如し、先づ夫迄は當用口の需要へ少し宛補充買を爲すに過ぎざるべし、左れば市場も此處例年の通り暑中休場となれり、唯目下の買人は市中に存在する直接寄物若くは短期引渡し現物のみに望を向け、他には更に手を下す鋒見へざるは全く昨年度分の持越殘荷僅小なるが故ならん、されば愈々新絲の輸入ありて市場に現はるゝに至らば、相場は如何なる影響を市場全體に及ぼし、又製絲家は如何なる程度迄自家の直段を維持せん、買人に對し抵抗すべきやの點は目下諸人の注目する問題なり、以上は將來に關するものなるが、目下の市況は市價は概して昌海の爲に底意强氣なれ共前月に比しては買人も幾分の讓歩すべき景況なり。

然れ共亞細亞生絲の弱氣陀な特別の市況とすれば、他の製絲は孰れも歐州及東歐共底意手堅く維持し居れる有樣なり。

亞細亞生絲當地今週の取引は甚た沈靜にして、僅かに市場の商況に就き報道すべきものは廣東より今週入電せし一報なり、其報は該地今年の輸出豫想高は最初七八千俵の見込なりしに、今や減少して五千乃至六千俵に下るならんと云ふの一事なり、(或る說には御夫れより以下のと風評を爲するものあり)然れ共今日の處にては、該地より報する處區々にして孰れを正確と認め難き姿なり、且有輸出減少の風評起りし以來、該地の支那商は歐州より買附注文の夥しく到來せりとの口實を設け、大に强氣となり終には高張りの結果取引は中止さるゝに至れりと云ふ。

日本器械絲は當地及橫濱の兩市場共氣配は弱くなれり、而して本週同市の出來直は左の如し。

一番	九―十一	五十二法
一半	十三―十五	四十七法
一半二	十三―十五	四十六法半

絹絲紡績絲は消費筋の望多くして需要衰盛なり。

瑞西國の絹物製造地(バール及ズーリック)より米國へ向け輸出せる絹織物の本年上半期の輸出高は左の如し。

品名	一九〇五年 法	一九〇六年 法
純絹織物及絹入織物	七,六〇〇,九六三	四,八三五,三五〇
其斷絲	四八二,七二七	六二八,四九五
純絹及絹絲のリボン	二,九三一,六七四	二,四五三,四八一

上海市場

上海に於ける生絲市場は過般來より銀塊騰貴爲替下落の打撃を受け、各製絲場とも何れも苦痛憐惜たる有樣なるが、從來上海には生絲の製造をなす工場三十三四ヶ所の多きに達し、何れも歐米機業家と先約定をなし營業するを常とせしが、本年は新繭取引開始以來銀塊の上騰となり、輸出に不利益の多きより製絲場も開業を見合せしもの多くして、目下の處製絲に從事し居れるもの僅かに二十四ヶ處なるも、今日の處にては銀塊の下落は到底望むべくもあらざるより、各製絲場とも容易に頭を擡ぐるに至らざるべきを以て、製絲家は何れも眉を顰めて長大息を洩らし居るものゝ如しと云ふ。

米蘭市場

伊太利米蘭の市場は繭收穫の豐凶如何に諸人の注目は惹かれ、市場は澁みて取引するものなし、蘭市場にては從來生絲の相場に基きたる直段即一「キロ」を製絲するに、原料の仕入直、乾燥費、製絲費、金利手數料等を算入せるものを基としたる直段に依りて賣買する風次第に行はるゝに至れり、斯は至極必當の方法なるべし米蘭市場に於ては優等四十六七「リラ」同上四十五―四十五法半の出來直ありて孰れも米國の買人なり。

大韓婦人會の養蠶

田中倘

大韓婦人會は光武九年七月開始したり其趣旨とする處は婦女子の淑德を涵養し、其弊習を改善し教育を普及するの目的にして、模範養蠶場を設け續て手藝學校を設置するの順序たり。

韓國皇帝陛下には特に内帑金壹千圓を度壽宮殿下に於ても亦金壹千圓を下賜せられたり、尙韓皇帝陛下には萬里倉にある宮内府所屬織組課の建物間口十七間奥行六間壹尺の瓦葺二階建一棟及び間口十三間半奥行三間の煉瓦建寄宿舍用一棟其他大小附屬家屋四棟と、溫突家十一間の建物附屬品をも下賜せられ、養蠶場の前後に在る桑園三町歩有餘及び荒蕪地其他西氷庫桑園二十町歩、竝に三百有餘町歩の喬木仕立桑園(百年以上のもの)を下賜せられたり恩惠も亦渺しとせず。

同會の役員　には完平君夫人を總裁に、閔泳煥夫人を副總裁に、李址鎔夫人を會長に、閔泳喆夫人を副會長に、李載克

夫人、李夏榮夫人を幹事に、其他協辨夫人、外十八名の評議員を置く、日本人側にては加藤顧問夫人、萩原代理公使夫人、三增領事夫人、渡邊警部夫人評議員となり、萩原代理公使是れが監督の任に當れり。

事業着手 光武九年九月七日萩原監督並に同夫人は自ら其の術に當り、實地調査を遂げ、須田赴夫氏を伴ひ蠶室蠶具建物桑園荒蕪地等實査の上須田氏をして同會の技師擔當に任せられたり、桑園の開墾荒蕪地の開拓等の引繼ぎを了し同年中に完成するに至りたり、初め三町歩餘の開墾地には模範桑園を設置するの順序なりしが苗木の買入れ且つ經濟の都合により、光武十一年に延引し野菜試作場と變更したり。

本會の事業 として最も困難なりしは桑園の整理にして、移植後五六年目のもの多く、且つ一反歩に對し二三千株を移植あり、一回の除草耕耘のみならず、施肥さへもなく、一見林の如く雜草茫々として觀る者其桑園たるかを疑ふも道理なり、然るに之れが整理に着手してより、勞働賃金の高價なるに係はらず二町五六反有餘の桑園整理百圓内外にて、漸く完成し始めて桑園たるに愧ぢざるに至れり。

荒蕪地開墾は一日雇人夫賃金二三圓の高價を以て、整地費一反歩五圓强に當れり、當時勞働賃の高價なりし事驚くの他なし。

蠶業事務開始 本會は婦人三十名を募集し、簡易なる學科と實習とを教授する筈なりしも、應募者僅々一名に過ぎず、止むを得ず農商工部局長に諮り、男生徒を募集せしに毎日非常の申込者にして九十名の多きに至り、内男二十五名女一名を撰拔入場せしめたり。

修業期 は四月より十月迄にして、學期中は食料を支給するの方法にして、四月十日事務開始實習の後學理の教授をなせり。

本年の蠶況 蠶種は各所の寄贈に係る青熟、小石丸、角又、其他數種にして、蟻量五十匁を掃立てたり、本年始めての飼育にて氣候の變遷乾濕の如何も知るを得ず桃李の滿開を過ぎ桑園中早生桑の二錢銅貨大開綻の時に蠶種を貯藏器より取り出し、適當の保護を與へ五月八日より始めて點々發蟻するに至り、十三日掃立を了せり。

大韓宮内府所屬韓國京城大韓婦人會養蠶場

當所の桑園全部に對しては催青發芽の平衡を得たるものゝ如し。

飼育の法は一二三齡中は十分なる保護を與へ、最高七十五六度にして最低六十八度を過ぎず、外氣よりは常に十度以上

の補溫を保持し、飼育中は乾濕の差五六度を保てり、蠶兒は最も强健發育佳良にして、三十五日にして豫定通上簇したり五齡中は(縱二尺六寸横二尺七寸箔大)一箔七百頭の箔數一千枚餘に至れり、病蠶と認むるもの殆んど見當らず、僅かに十箔中四五頭の斃蠶ありしが、蛆害に掛りしものにして上簇後四日目繭層を破りて匍出するを見る、本邦の蛆害と異なる點は、形小にして小豆大なると上簇後四日目頃より匍出すると韓國養蠶の大敵なる吾人の深く注意を拂ふべき事なり。

繭質佳良 なるは當局者も意外の好果にして桑葉の粗惡なるに係らず、實に好適たるを推知するに足る、解舒の宜しき事到底日本の產繭の及ぶ所にあらず、四百回に對し切斷類節無く四百五十回より五百八十回にして四百回に對し、二デニール五位なり、絲質の光澤稍々鮮明ならず、思ふに韓地の水質劣等なるに依るならん。

加奈陀の養蠶計畫

マニトバよりの報によると、加奈陀では大規模に養蠶の計畫があるそうです、多分政府の保護もあるでせうし、又日本の職工を使用することゝなるでせう、大江某なる邦人は地所選定の爲め北四郡を視察せられたそうです

時報

會務錄事

地方委員長の囑託

今回總裁殿下より本會地方委員規程第一條に依り群馬縣知事なる有田義資氏に左の如く地方委員長を囑託せられたり。

特別會員　有田義資

本會地方委員長を囑託す

新潟支會規則改正

新潟支會にては去七月二十八日に開會したる大集會の決議に依り、本會支會設置規則に基き、其規則を左の如く改正したり。

大日本蠶絲會新潟支會規則

第一條　當會は本會定款に準據し大日本蠶絲會新潟支會と稱し新潟縣の區域に依る

第二條　當會事務所は新潟縣中蒲原郡五泉町に設置す

第二章　目的及事業

第三條　當會は本會の趣旨を遵守し蠶絲業の改良進歩を圖る為めに目的とす

第四條　當會の事業左の如し

一、品評會、講習會、講演會等を開設すること

二、蠶絲業に關する共同販賣の斡旋を圖ること

三、蠶絲業に關する教授技術者等の紹介を爲すこと

四、蠶絲業に關係ある功勞者の調査及び表彰すること

五、前各項の外蠶絲業の改良進歩に必要なる事項を調査し建議すること

第五條　當會會員は本會の會員たるに足る資格を有するものとす

第六條　本會の規則に基き役員を定むること左の如し

會長　一名　副會長　一名　幹事　若干名　商議員　若干名

但し任期は滿二ヶ年とす

第七條　會長は當會一切の會務を總理し會議の議長となる

第八條　副會長は會長を補佐し會長事故あるときは其職務を代理す

第九條　幹事は會長の命に依り當會の事務を整理す

第十條　商議員は當會重要の事件に付議決す

第十一條　商議員は總會に於て會員中より互選し會長副會長及幹事は商議員會に於て選擧す

第十二條　會長及副會長は本會の認可を受け其他の役員は本會へ届出つるものとす

第十三條　當會に地方委員を置く但し委員に關する規程は商議員會の決議を以て定む

第十四條　當會は毎年一回次の事項を開き事務の要旨を報告するものとす

第十五條　當會の經費は本會の補助金若干及び之に充つるものとす

第十六條　金品を當會に寄附するものある時は本會に報告し寄附者の姓名を輔藩に登錄し永く之を保存するものとす

第十七條　當會の解散せんとする時は當該機関會員の四分の三以上の同意を得て本會の認可を受くるものとす

山形支會役員の交迭

山形支會にては會長田中貴道副會長齋藤美知熊の二氏辭任に就き同支會規則第十三條に依り商議員會を開き後任の選擧を爲したる處左の二氏當選したり

會長　馬淵銳太郎

副會長　佐柳藤太

滋賀支會幹事當選

滋賀支會にては規則改正の結果幹事の增員を爲し之か選擧を行ひたるに左の三氏當選したり

幹事　村田其太郎　橋本鶴吉　新海謹之助

三重支會規則の變更並役員當選及協議事項

三重支會にては今回評議員會を開き夫々協議事項に就て審議し同時に同會規則中左の如く變更し且つ役員の撰擧を行ひたるか左の諸氏當選したり

規則變更

第六條　本會の規則に基き當支會役員を定むること左の如し

第一項　支會長　一名　幹事　五名　書記　若干名

但任期は滿二ヶ年とし補缺再選することを得

役員氏名

支會長　有松英義　副會長　鶴見左吉雄

幹事長　增子德之助　幹事　水見德五郎

協議事項

一第六回總會決議事項中實行の方法

一本蠶絲業協會に於て勵行すべき問題に關する件

（議に委せて調査委員に今一層奮發し研究を待つこと）

一懇會共會費徴收中大日本蠶絲會員に優先為決議する方法

一本會編纂の大日本蠶絲會員に優先為決議する方法

（可決）

一蠶肉認定を配布すること　（同）

一休息所を設くること　（同）

一茶を供すること　（同）

一會員登錄の件　（蚕に地方委員を嘱託し目的を達する樣努ふ事）

一本蠶絲業蠶の沿革調査の件　（本年中に委員に於て調査すること）

一會費徴收の方法

地方委員に託せんとす（可決）

一地方委員に郵送出を返送すること（可決實行濟）

一支會長副會長各一人を設け他の役員は臨時過とな規則變更を本會に申請し

一會計規程を定むること

米國絹業協會と生絲檢査問題

米國絹業協會長フランクリン、アーレン氏より生絲檢査問題に關し、送付し來れる書面及其報告書抜萃の譯文左の如し。

拝啓御仁慈なる貴國輸出の生絲を檢査に其要望を一致して、之に檢査認定を附せしむるの件義に昨年九月十三日附を以て貴會に對し當會の意見

拝啓仕度候處當會は之に對する貴答を編纂仕本年三月二十七日開會の年會々議に利付し申候處可決其後絲今般會に於け報告書一部御參考の為め謹て閣下に提呈仕候間御査收賜可決次第候絲今般會に當會より意見書を送付致置候通閣下の高名滿體より當會に寄せられたる一切の通信を報絲仕候て疏注並すべき問題の最近情況に關する所見も附記致置候以つて閣下より踐ばり候御意見も希貴致居候間御拔間爭願候

有效果問題に關せる割下の調査要綱は必ずや關係者間互の調和を奏動するの結果を得ること、和政府は相信申候に付て本問題に關し密御意見御設定の御希望も報答在候はゞ年年在候樣致度事希候敬具

千九百六拾年五月十一日

組合アロードクエ及アルーム街角

日本東京市

米國絹業協會書記長　フランクリン、アーレン

大日本蠶絲會々頭男爵　松平正直殿

生絲檢査に關する報告抜萃

農商務大臣閣下に左の保證を與へられたり目く。

生絲の檢査を強行する以本大臣の意見に非ず。此の如き行は當事者間の希望に一任して可なりなり、故に本大臣は從來の慣習に對して、何等の干渉も又何等の慰藉を爲さざるべし、然るに世間新檢査法の意義を誤解する者あるは、本大臣の最も遺憾とする所なり、該法案は勿論本件の生絲を問て既實輸出し、以て日本生絲の名聲を損する者ある於ては此點等を進正せん爲篤に編制せられたるものなり云々。

今や蠶會の蠶業を盛れる新檢査法に對する農商務大臣の保證を、近頃當米國絹業協會に於ては大日本蠶絲會の書面に想らして推考するときは、日本政府の當局者に於ては、米國絹業協會の生絲檢査に關する意見の要點を、之に反對せる批評家よりも一層明瞭に且つ精確に了解せられたるものと謂ふべし、此等の批評家は實際の東京の意見を誤解したる者にして、農商務大臣は多言を費して、彼等が新檢査の意義を誤解せられたりの

一月一日附農商務大臣の書翰の精神は卓越なり、大臣は該書翰中「日本生絲貿易の進歩を謀る」云々との希望を判然と宣言せられたり、去れば該法案は必ずや必要の修正を經て日本生絲貿易の進歩を希望するもの丶首肯する所となるならん所謂「劣等なる生絲を」の輸出を禁ずるは進歩的の行爲に非ずして、需要供給の天則に背反する干渉なり、然れども「劣等生絲を往々爲て優等の生絲なりとして販賣する」弊害を矯正するは、是れ進歩的の行爲に非ずや、松岡大臣は「生絲の檢査を強行する」の意思なき旨を宣言せられたり、去り乍ら檢査の強行は無檢査に優れりと信ずる者あるも敢て惜むべきに非ざるべし。

然れども玆に困難なるは横濱に於ける現行の生絲檢査法に依れば、檢査の結果は私有に屬し公有に屬せざるに在り、米國の生絲需用者は從來の經驗上、遂に日本より輸入する生絲の重量及太さに關し、實際の事實を知らざる可からずと決心したり、されば個人の證明は今日までの成蹟を以てすれば、米國需用家の滿足を買ふに足らざるものなり、玆に於て乎日本政府の當局者に之を許ふることゝなりしなり、米國の製絹業者は、績議の諸點に關し日本帝國の印章の下に發行せられたる公文を要求するものなり、私人の書面若くは私人の報告は有ゆる場合に於て何人も同樣に取扱ふものに非ずとして、最早彼の要求する所に非ず、彼は其仕拂ふ代價に對して、總て現實なる物品を得んことを要求し、而して此要求の爲には欣て其代價を仕拂はんと欲する者なり、若し夫れ過去に於て日本人の利益を占有したりとせば、彼は今や欣て之を放棄せんと欲するものなり、是れ實に我生絲檢査委員會報告の要旨の存する所なり。

日本人の聰明なる能く米國需用者と公平無私の取引を爲すの緊要なるを悟れり米國の需用者は日本生絲の最大顧客にして、日本より輸出する生絲の七割は米國の輸入する所に係り米國總需用額の一半を占めり。

我意見書に對する反對論は、主として横濱生絲檢査所の現今の規模は狹小なるが故に、適當に且つ公平に其檢査を行ふに不充分なりと云ふにあり、然るに一方に於て日本の當局者は、充分有效なる檢査を行ふ目的を以て、其設備を擴張すべしと宣言せられたるを以て之を觀れば、其反對論の丸離なるを知るべし、新檢査法實施の期日に關する反對も亦餘り重要なりと云ふべからず、我が意見書は千九百六年一月一日より之を實施しては如何と建議し、日本の議會に於ける議案經過の形勢を以てすれば、千九百六年四月一日なるが如し、之を要するに日本の生絲商人等が、小異を棄てゝ大同に就き、此計畫に反對を罷めて、欣て其實行の助成に努むる時は、則ち此改革の贊否兩論者が、誤解なく又意義の解釋を異にすることなく、相互に滿足なる實際の評價を完ふし得るの時なるべし。

例之へば我絹業協會は、日本の檢査濟生絲は生絲檢査所官吏の監督の下に荷造を爲すべきの日を提議したるに、横濱の生絲輸出外商等は之を以て、彼等を侮辱ぜるものと爲せり其一方に於ては、大日本蠶絲會は能く其要點を了得して、其書證に明記せる如く檢査證書に依り、檢査濟の包裝に封印を施すべしと爲せるが如し。

我協會は檢査所監督の下に荷造を爲すべき旨を提議したりと雖も、未だ嘗て如何なる手續を以て如何なる場所に於て監督を爲すべしと提議したることなし、生絲購買者の倉庫に於てすべしとも、生絲檢査所々在の日本人住居地に於てすべしとも又は火災保險率の法外なる土地に於てすべしとも云ひたることなし、吾人は賢くも此の如き些末の案件は、須らく協會の必要に應じて定むべきものとなせり大日本蠶絲會は其實際的方法を、案出して此問題を解釋したり、然るに他は徹して數萬言を費やして其不可能なることを論議したるに過ぎず。

當初横濱生絲外商組合と日本農務大臣間の往復文書が生絲新檢査法の議案に對する、反對論を掲載せる日本刊行の諸新聞と共に始めて本會に達するや、會員中生絲檢査に關する本會の意見書中に記載せる問題に付き、本會の態度を多少變更すべしとの意見を懷抱せる者ありしが、目下審査の結果閣下日本帝國議會の討議中に關する、生絲檢査法案の可否に對する本會の意見を發表するは得策に非らず又時宜を得たるものにあらずと決定したり、大臣と外商との往復文書に徵するに日本政府の當局者は能く生絲商人の事態に通曉せられたり、されば若し本期議會を通過すべき新檢査法案にして、果して過激なるものありとせば、次回の議會に於て適宜の修正を經ること難からざるべく、實行上有害なる條項を發見することあらば一般の許諾を以て其實施を停止するも可ならん、此點に關しては本會は深く松岡大臣が、千九百六年二月一日附を以て、横濱生絲外商組合に發せられたる聰明なる公約に信賴するものなり云々。

右に對し本會々頭松平男爵は、松岡農商務大臣へ左の書面に右報告書の拔萃を添へ提出せられたり。

拜啓今般米國絹業協會より生絲檢査制度に關する報告書を本會へ送付致し來り候處右は該協會の意向を窺知し得べく且つ生絲檢査所の擴張を切に必要とせることを認め得べきもの有之候に付御參考の爲め該報告書拔萃御送付申上候間御劉覽相煩し度候然るに本會に於ても生絲檢査所の擴張は最も必要と相考候間本年に於て更に該擴張に關する豫算を帝國議會へ提出せられ內外當業者の希望を充たし生絲貿易の發展を期せられ候樣御配慮相成度右米國絹業協會の報告拔萃を併せ此段卑見開陳仕り敬具

明治三十九年七月廿六日

大日本蠶絲會會頭　男爵　松平正直

農商務大臣松岡康毅殿

又絹業協會に對しては松平會頭より左の回答を發せられたり。

一千九百六年五月十一日付御書面及貴會報告書拜見仕候陳は客年に於ける生絲檢査に關する貴會の御意見に對しては農商務大臣は其大體を採用せられ法律案として議會に提出相成候へ共遂に否決と相成候は洵に止むを得ざる儀と相考へ候而して本會に於ても本邦生絲檢査所の擴張は最も必要と相認め候に付今回農商務大臣に對て本年の帝國議會に更に豫算を提出し擴張の目的を貫徹する樣御盡力相成度旨希望致し置き候間御了知相成度御回報旁此段得貴意候　敬具

明治三十九年七月三十一日

大日本蠶絲會會頭　男爵　松平正直

米國絹業協會

書記長　フランクリン、アルレン殿

會員動靜

本年八月中本會に入會せられし者左の如し

○特別會員

	入會者	紹介者
佐賀	香川輝	直接入會
鹿兒島	前野長成	川村常三郎

○通常會員

東京	町田悅太郎	本多角次郎
同	三上新平	同
同	中野宗治	島田久次郎
同	平野龜次郎	同
同	青木角次郎	同
同	高橋信太郎	同
同	高村勘次郎	井上惣助
同	青木茂助	青木金太郎
京都	森口甚吉	京都支會
同	坂根喜平	同
同	天田郡蠶絲同業組合	同
同	高橋俊太郎	同
同	中井房吉	同
同	朝倉盛治郎	直接入會
同	引野米藏	同
同	石間定吉	同
兵庫	大藤理一郎	同
新潟	小田清五郎	同
埼玉	鈴木定五郎	新井藤松
同	圓城寺輕太郎	山下長松
埼玉	白井貫憲	村田昌晋
群馬	塚田石二	荒樣格太郎
同	岩崎平七	直接入會
同	高橋和三郎	飯島彌次郎
群馬	齋藤龜五郎	佐藤孝一
同	矢島忠次郎	同
同	堀込鋼作	同
同	清水醒次郎	中島龜太郎
同	松浦定吉	落合卯之助
同	橋本春三郎	宮崎有斐
同	相眞　歩	鈴木良太郎
同	渡邊信治	直接入會
同	宮崎律守	同
茨城	大槻定之助	茨城委員部
同	東茨城郡農會	同
同	池田序介	同
同	木村富助	同
同	永井久吉	立花薫
同	吉田德太郎	直接入會
栃木	鷲見顯道	服部昌松
三重	小林繁太郎	小森周太郎
同	羽橋治郎市	同
同	駒井義信	同
同	北畠稔	山邊豊次郎
同	村島與三郎	同
同	內藤石之助	同
同	千種政之助	伊東吉次郎
同	內山治右衛門	大竹作之助

三重 長井鐵治郎 大作作之助
同 林 慧 吉
同 堀内 信郎
同 四日市 信郎
同 植木 新吉 大弁 定吉
同 竹澤 嘉十郎
同 田村 岩男
同 竹澤 新吉
同 曾原 孫吉 度會郡役所
同 森合 三郎 直接入會
愛知 杉江 碧蔵 近藤 篤平
同 城田 碧蔵 太田 米吉
同 宮本 林九 同
同 鈴木 多郎忠郎 直接入會
同 大杉 陽平 同
静岡 田口 鶴吉 同
同 造谷 敬作 武弁 重樹
山梨 芳島 郁三 山梨支會
同 小林 清治 同
同 長田 寧 同
同 深見 雄 同
同 堀島 篤 同
同 堀武 島次郎 同
同 小林 勝 同
同 松下 賢之進 同
同 飯島 富雄 同
同 曾根崎左衛門 同
同 大島 正諒 同
同 成島 傳太郎 早川 文太郎
同 天野 一行 通 同
古都 文家郎 鈴木 壁作

山梨 厚芝 柴太郎 鈴木 壁作
同 鹽澤 藏太郎 同
同 星野 惣三郎 同
同 星野 文太郎 同
同 穂川 佐重 同
同 穂川 好信 同
同 武弁 光右衛門 中島 菊平
同 平塚 種助 同
同 三科 寫吉 同
同 鹽澤 政喜 同
同 飯塚 理三郎 同
同 宮本 政忠 同
同 中村 守武 同
同 田邊 柴太郎 同
同 橋田 喜太郎 同
同 手川 柳兵衛 同
同 武弁 雲刀 同
同 降矢 敬之 同
同 古屋 柴信 同
鈴木 晴俊 田中 良吉
奥石 長次郎 古屋 永昌
熊内 柴 同
田中 森吉 同
同 林 貞 寅吉 木 寛
同 古屋 政治 高部 善太郎
同 田中 喜 同
同 林 貞 寅吉 木 寛
同 村山 貞雄 同
同 熊谷 幾人 同
同 内空閑 擴入 同
同 山田 理一 同
同 林田 忠治 同
同 保田 昌治 同
同 宮崎 勇記 同
同 高橋 熊次 同
同 桑原 二雄 福島 三五郎
同 松井 彌三太 同
同 桑田 源蔵 同
同 内野 三郎 野村 基一
同 荒木 さち 直接入會
同 高野 猿次郎 直接入會
同 矢田 源蔵 三浦 齊
同 城井 直太郎 同
同 足立 豊 同
同 後藤 善三郎 同
佐賀 伊東 甚三 直接入會
熊本 佐部 敬信 福田 寅吉
同 押方 嘉市 同
同 松田 宇太郎 同
同 大石 敬太郎 同

岐阜 高木 重次郎 田畑 宇市
同 奥田 小太郎 同
同 宮崎 庄作 同
同 長松 文吉 同
同 岩田 重之 同
同 日比野 幸七 同
同 大島 柴次郎 板津 柴太郎
同 曾我 金吾 直接入會
同 村瀬 市郎 同
同 奥村 信之助 四川 砂
同 長野 佐々木 伊策 藤木 定一
同 大澤 清十 藤澤 藏次郎
同 羽鳥 弘 同
同 野坂 村貴 同
同 東 昇三 吉 来館
同 田中 喜作 信造 支會
同 田中 市之助 同
同 田中 市治 同
同 柳澤 德蔵 同
同 本田 與四郎 同
同 櫻庄 柴左衛門 同
同 宮原 庄衛 同
同 尾和 勝十郎 同
同 多田 謙 同
同 有矢 森太郎 同
同 若林 原治郎 同
同 井口 寅太郎 同
同 小松 岡南 同
同 木山 鶴一郎 同
同 西牧 長太郎 同

長野 吉村 慶入 信造 支會
同 五十嵐 文人 直接入會
同 宮崎 庄蔵 宮城 支會
同 宮城 伊東 庄蔵 宮城 支會
同 永澤 弘治 同
同 武山 芳助 同
同 今野 忠兵衛 同
同 小倉 正直 直接入會
福島 佐々木 孝太郎 福島 支會
同 大竹 哲兵衛 直接入會
同 岩手 遠藤 庄吉 同
同 井上 彌七 遠田 柴太郎
同 高橋 鶴七 直接入會
山形 青森 工藤 徳蔵 青木 彌七
同 尾崎 謹一郎 同
同 石澤 重司 白田 留七
同 高橋 周太郎 山形 支會
渡部 文吉 同
同 伊藤 豊治 同
福井 鶴山 英太郎 宮澤 謹次郎
同 杉本 宗蔵 直接入會
同 櫻井 鶴三郎 岸本 邦市
同 西村 彌三郎 岸本 邦市
同 川原 柳太郎 直接入會
唐島 加藤 英太郎 直接入會
愛媛 小倉 米三郎 同
高知 横山 元次 浜木 定敏
大分 梅木 勝吉 大分 支會
同 小田 照 大 同
同 三重 長吉 同
同 横木 眞勉 同
熊本 宇太郎 同

大分 熊川 鶴平 大分 支會
同 出納 嘉治 同
同 切畑 村長 會 同
同 高治 峯太郎 同
同 柴谷 耳助 同
同 小野 廣吉 同
同 山本 鶴平 同
同 猪俣 初郎 同
同 矢野 英一 同
同 森 三作 同
同 池田 繁夫 同
同 南藤 小一郎 同
同 羽田野 耳平 同
同 南藤 次之 同
同 宮永 一次 同
同 工藤 芳蔵 同
同 井上 豊二郎 同
同 小幡 誠 同
同 矢野 鹿次郎 同
同 野上 藤次郎 直接入會
同 矢田 源蔵 三浦 齊
同 城井 直次郎 同
同 足立 豊 同
同 後藤 善三郎 同
佐賀 伊東 甚三 直接入會
熊本 佐部 敬信 福田 寅吉
同 押方 嘉市 同
同 松田 宇太郎 同
同 大石 敬太郎 同

熊本 吉田 見二郎 御谷 久一郎
同 中田 陽蔵 友田 新八
松島 宇一郎 同
同 鳥村 乙熊 古 莊 之
同 伊藤 武男 白瀬 喜治
同 奥田 貫嘉 同
同 曾吉 信人 同
同 林田 彦彌太 荒尾 森太郎
同 菊池 貫蔵 同
同 村山 貞雄 同
熊谷 幾人 同
同 内空閑 擴入 同
同 山田 理一 同
同 林田 忠治 同
同 保田 昌治 同
同 宮崎 勇記 同
同 高橋 熊次 同
同 桑原 二雄 福島 三五郎
同 松井 彌三太 同
同 桑田 源蔵 同
同 内野 三郎 野村 基一
同 荒木 さち 直接入會
同 高野 猿次郎 直接入會
同 矢田 源蔵 三浦 齊
鹿兒島 伊藤 鶴 鮮 同
同 嘉納 鶴 鮮 上田 義 高
同 四村 正治 同
同 平島 周介 同
同 樺山 吉二 同
同 川内 製絲 鶴 同
同 溜生 製絲 鶴 同
同 永吉 製絲 鶴 同

鹿兒島 市來 政雄 古 莊 之
同 相馬 信 製絲 川村 清三郎 計 二百三十二名

又同月中通常會より特別會員に變更せし者左の如し

東京 佐藤 彌十郎

又前號に深川氏を通常會員中に掲げたるは特別會員の誤記なりし

熊本 深川 德三郎

又同月中死亡せられし者左の如し

○通常會員

三重 藤合 潤平 ― 山梨 小泉 彌門
― 宮城 早坂 豊太夫

本會々員現在數

（明治三十九年八月末日調）

會員總數 一萬〇八百十一名

名譽會員 十三名
内譽 三百六十七名
特別會員 三百四十三名
通常會員 一萬四百三十一名

蠶桑雜觀

「フォルマリン」檢定講習會

東西蠶業講習所に於ては、各府縣當該技術官一名づゝを集めて、去五日より「フォルマリン」檢定講習會を開催せられすに二日を以て無事終了したるが其講習生は左の如し。

東京蠶業講習所講習生

北海道廳	武野他太郎	東京府	吉沼善勝
神奈川縣	蒔田勝三郎	新潟縣	河田勝三郎
埼玉縣	露木清司	群馬縣	佐藤長太郎
千葉縣	新井郁松	茨城縣	板間虎吉
栃木縣	石田誠之助	福島縣	横山賢
群馬縣	齋藤五郎八	靜岡縣	鈴木富三郎
靜岡縣	高村源次郎	山梨縣	蓬田吉太郎
長野縣	小泉直俊	山形縣	若月長次郎
青森縣	菅野忠左衛門		

京都蠶業講習所講習生

京都府	芳賀蕭	奈良縣	和角誠之
三重縣	水見徳五郎	愛知縣	玉木弘三郎
滋賀縣	中川樹三	岐阜縣	町田弘
福井縣	大崎荒作	石川縣	山本久雄
富山縣	清水勢治	鳥取縣	波當根武藏
島根縣	山口彌太郎	岡山縣	坪田勇吉
山口縣	栗田義三郎	山口縣	田中歌郎
鹿兒島縣	前島牛次郎	德島縣	工藤政壹
和歌山縣	谷田部吉郎	高知縣	下元鹿之助
愛媛縣	須藤義之助	大分縣	伊藤瀧
福岡縣	鎌田誠一	熊本縣	毛利正雄
佐賀縣	脇田誠一		

宮崎縣　本部宣敏　鹿兒島縣　平藤一雄

輸出生絲の陸運

下村房次郎氏は浦潮斯德の露國官憲に對し、我生絲及び絹織物等の欧洲輸出品を西伯利亞鐵道に依りて陸送せんことを申込み、露國當局者は該品に向て特に運賃及び保險料を低廉にし出來得る丈けの便宜と安全とを與ふる旨承諾したりと云ム。

養蠶奬勵審査會（下田査一氏報）

本年東京府北豊島郡大泉村に於ては、養蠶奬勵審査會を開催したるが、其の施設は從來各地に行はるゝ品評會、共進會等と全く其の趣を異にし、其の審査方法は稚蠶壯蠶、收繭後の三期に分ちて、飼育現場に臨み、前二期にありては專ら蠶兒發育の良否幷に飼育方法の適否を考察し、收繭後の審査にありては、收量の多寡及成繭の品質を調査して其の優劣を判せり。

要するに該會の施設は毫も形式に流れず、專ら各自の實力及精勵の程度を審判したるものにして、他に多く其の類例を見ざる所なるべし、左に該會の規程及審査規程を掲げて、聊か斯業界の參考に資せん。

大泉村養蠶奬勵審査會規程

第一條　本會は養蠶技術の進歩發達を謀るを以て目的とす

第二條　本會は大泉村養蠶奬勵審査會と稱し事務所を本員會事務所内に置く

第三條　本村の居住者にして養蠶に從事するものは何人と雖も本會に加入することを得

第四條　本會に左の役員を置く

一名　會長
一名　審査長
一名　事務長
五名　審査員
二名　事務員

第五條　會長は本村農會長を以て之に充て本會一切の事務を處理す

第六條　審査長は審査規程を定め審査員を指揮して審査に他人其の責に任ず

第七條　事務長は會長の命を受け事務員を指揮して本會一切の庶務に從ひ其責に任ず

第八條　審査員は蠶場より技術員の派遣を申請するものとす

第九條　事務長、審査員及事務員は各員之を選任す

第十條　選挙を受くべき議員は選立日數の二日以上に渉るものは其内數日數の最も多きもの丈を以て標準とす

第十一條　本會々員として當見の選立を了したるとき又は即日模式第一號の選立通知書を本會事務所に送付すべし

第十二條　選擧審査の方法は稚蠶期、壯蠶期、及收繭後の三回とし各飼育現場に就て之を行ふ但し審査の方法に定めた審査規程による

第十三條　通知書記載の事項にして事實に相違したるものあるときは虚偽の事項を記入せしものは審査を行はず

第十四條　本會々員は審査員の職務審査を拒み又は再審査を請求することを得す

第十五條　審査の結果技術の進歩編製なりと認むるものに許しては賞品の授與を請ふものとす

様式第一號　選立通知書

一、蠶の名稱（小石丸又は又書）

一、選立の月日（何月何日）

一、選立の數量（普通飼何枚、若くは繭量何匁）

右の通選立候に付此段及通知候也

年　月　日　　村　字　番　地

姓　　名

様式第二號　上飼通知書

一、蠶の名稱

一、上飼育の箔數

一、上飼の月日

右の通上飼致候に付此段及通知候也

年　月　日　　村　字　番　地

姓　　名

審査規程

第一條　審査は稚蠶期、壯蠶期及收繭後に各一回之を行ふ

第二條　審査は第四條の定むる審査員の指揮に依り之を行ひ二百點を以て滿點とす

第三條　審査の成績は各審査員の附點を平均して之を定む

第四條　審査の方法左の如し

一、稚蠶期審査　六十點

一、壯蠶期審査　六十點

一、發育の良否

蠶繭の發育佳良にして斉一なるものを最良とし之れに三十點を附し最も不良なるものに〇點を附す

一、飼育

温度乾湿の調和、蠶座の廣狭、給桑、剪桑其他の狀況を考慮し能く蠶兒の成育に適當せるものと認めたるものに三拾點を附し最も不適當と認めたるものに〇點を附す

二、壯蠶期考査　六十點

一、發育の良否

發育佳良にして蠶病の徴なきものを最良とし之れに三十點を附し最も不良なるものに〇點を附す

一、飼育の適否

氣候の作用、室內換氣の處置及蠶座の狀況其他一般飼育上の注意如何を考察し適當と認めたるものに三十點を附し最も不適當なるものに〇點を附す

三、收繭檢査　八十點

一、收繭額の多寡

掃立數量に對し收繭額適當と認めたるたるものに四十點を附し收繭量著しく寡少なるものに〇點を附す

一、成繭の品質

成繭の形狀、色澤、繭層、縮緻、其他繭質の佳良なるものに四十點を附し最も劣等なるものに〇點を附す

上海製絲界の悲境

銀價相場の騰貴は近古未曾有の有樣となり、爲めに淸國より金貨國に對する輸出貿易は何種を問はず、多大の影響を受け居る由は前號屢記述する如くなるが、尙ほ上海に於ける製絲界の如きも此厄に遭遇し、三十有餘ヶ所の製絲場本年業務を繼承し居るは僅かに二十六ヶ所にて是とて餘命嚼々焉たる觀ありて、見るも氣の毒なる程なるが、此程に至りて同地屈指の製絲場倫華は悲境に抵抗するの氣力なくして、遂に閉場の止むなきに至れりと云ふ、同場は器械八百臺を備へジャーデンマゼソンと並稱されて上海の二大製絲場たりしものなれば、器械の如きも一臺百五十餘兩を投して備付けたる程なりしも、競賣の結果は僅かに一臺八兩を出でざりし有樣にて如何に上海に於ける製絲界か昨今の打擊にて逆境にあるかの一斑を推知するに足るべし。

生絲檢査所月報（八月分）

檢査件數

檢査年月	原量	正量	品位	鑑識	計
本月	—	五、六三〇	四、四五四	一	一〇、〇八五
前月	—	三、六七八	三、二九四	四五	七、〇一七
昨年當月	—	四、九七八	三、四七五	二四	八、四七七
本年累計	—	二二、七六〇	一八、〇二六	五一	四〇、八三七
昨年當月迄累計	—	一八、二〇一	一六、二八一	四二	三四、五二四

正量檢査

一檢査件數　五、六三〇件
一總全量　四四三、八〇六斤
一總風袋量　八、六四四斤
一總皮量　四三五、一六二斤
一總無水量　三八四、二七五斤
一正量　四二六、五四五斤

食水量百分比例
平均　一一、七一
最多數　一三、八六
最少數　九、五六

品位檢査

絲別	檢査件數	再繰中切斷數	纎度 平均	纎度 細太の差	類節 大類	類節 小類	強力及伸度 纎度	強力及伸度 強力	強力及伸度 伸度
細絲器械	[illegible]	八	一〇・四一	[illegible]	一	[illegible]	一〇・四一	[illegible]	[illegible]
同座繰撚造	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同　折返	一	一〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
中繊器械	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同座繰撚造	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同　折返	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同濱付及雜	一	〇	[illegible]	[illegible]	一	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
太絲器械	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同座繰撚造	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同　折返	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
特太器械	八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同座繰撚造	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同　折返	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
玉　絲	二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	—	—	—

蠶界思潮

現今の桑園に就て

（夏秋蠶桑園を如何にすべき乎）

鳥羽久吾氏　曰く桑園衰頽に關する論議愈々出て益々喧しく之か斷案に苦しむやうであるけれども、要するに桑樹を觀賞的に愛用するは桑園を拓殖する目的ではない、旣に蠶兒の飼料として桑梢を伐採し、摘葉すれば、夫だけ樹力を殺ぐは勢ひ脫かれざる所である、然れども厚生利用人生に稗益する所あればこそ春蠶も秋蠶も養ふのである、世人の唱導する專用桑園と言ひ速成桑園と言ふ皆經濟算數の問題である春蠶に專用して二十年の繁茂を得る桑園は、秋蠶に兼用して十年乃至十五年目に植替へをなせば、即ち足る二十年に獲得すべき利益を十年乃至十五年間に得るは、之れ厚生利用の目的に步一步を進めたるものである、現今秋蠶飼育の增加は一時の流行ではない、算數上明かに春秋二回の飼育は一回の養蠶に優る利益を認むるのである。

秋蠶の利害に就ては今や論するの必要がない、只夫れ農家の事業は着實で有つて間斷があつてはならぬ、桑畑植替への爲めに完く養蠶を廢し又は減少するが如きは不經濟である出來得べくんば年々同額の養蠶をなし收益をあぐるの計を爲さなければならぬ、予は之に就て年來實驗上の二三を述へ桑園救濟の資に供へやうと思ふ。

第一　桑樹植替へをなすには、先づ之にかはるべき新桑園を設けをき、收葉量に大差なき程植替へをなすのである、畑は冬季全地面を一尺以上に堀返へし樹根を拔き土塊を碎き寒凍雪雨にさらして、翌春整地し腐熟せる堆積肥を地下尺餘に埋め施し、其上に桑苗を植栽するのであるが、種類は前年に植附ありし桑種と異なるもの、植付ありし后へは魯桑市平の如き樹根の長大なるものを、晚生十文字の跡へは早生峑早生の如きを宜しとするのである。

第二　前項の新桑園を豫備する能はさる場合は、一畝をきに植替へをする、即ち冬季植替への桑樹を堀取りて、二尺巾に深さ尺五寸以上の溝を作り、之に雜草藁稈等を五寸厚さ位いに入れ土を埋めて整地し、翌春其中間に植付く苗木の撰擇は前項と同一の注意を要するのである。

第三　仕立方を變更して從來根刈であつたものを、中刈仕立とするときは、一二年は收葉量を增すものであるから、植替へをなすに當つて豫備桑園の繁茂せざるとき行ふて利益てある。

第四　桑株が老大して芽梢の伸長あしき根刈桑にあつては其地際の膨大部を打かき枯木を取り除くときは其切斷面より新芽を出すを以て、夏秋蠶に專用すれば數年間相當の收葉あるものである。

松田昌德氏　曰く荒廢桑園の救濟に關する意見ですか、夫れは頗る難問題ですねー、口にはいくらでも立派に云へるが、さて其實行となると甚だ難いのには困るのです。

現に角私が一つの理想として考へて居るのは、現に荒廢せ

る桑園の畦間へ新苗を植ゑ込み二三年位春切りとして株を作り十分に株が出來たらば其後は反對に從來の古株を皆春切に遣るのです、併し之れに就ては未だ確實な試驗を行つてないのだから公表する譯には參らん……左樣古株を引拔いて植代へよと云つてもナカ〳〵容易に遣るものではない、また新苗を畦の間へ植ゑよと云つても其新苗を求むることが容易でないと遣らないから、無代下附とか何んとかソコは甘い方法を考へて樂に遣れるやうにせなければなるまい。

畦の間に苗を植ゐるのは普通の植ゑ方で宜しい、そうして二三年の後古株を春切る樣に成つたならば、其新梢の葉は摘まれる丈け摘んで夏蠶でも秋蠶でも遣れる丈け遣つたが良からう、夫れてイケなくなつたら引拔く迄の話さ、ソーしてどんな仕立法を行ても肥料に不足すれば、荒廢を防ぐわけに行かんよ。

また自分が考へて至極面白からうと思ひ或人にも噺たことのあるのは、共同して桑園を作ることである、霜害地のやうなまて一村十人なり二十人なりの熱心家が相集て、早生の共同桑園を作り降霜の恐ある時は揃て覆の出來る樣に遣つてみたならば、面白い成蹟があがるであらう……なに夫れは早生桑のみと限らんよ、早中晩何れても宜しい、新開地は猶ほ更らのこと、從來の養蠶地ても之れから桑園を仕立つる場合には、是非共同桑園を設けさせたいね－。

只茲に六ヶ敷いのは其方法てある、規約を甘く結んで共同者が互に德義を重し、相勵精して肥培耕耘を行ひ何んとしても怠ることの出來ないやうなことにせなければならん、マードー云ふ風に遣つたら良いてあらう、君等も一つ考へて呉れ賜へ、其方法さへ甘く出來れば桑園改良の効果は乾度上るよ。ソコで應急の救濟策としてはマー速成桑園だね－、夫れは土地に依て出來ん處もあらうがそんな處は尠い、……なんてすと魯桑の實生……サーに魯桑の實生とは限らん、近來世間て切りに魯桑の實生々々と言つて居るが、僕はなにも桑の實生に限らんと思ふ、之れ以外にも隨分良い種類が澤山あるよ、また其目的は要するに淺く密植にするのだ、之れ迄のやうに一反五百本だの七百本だのと疎植して置くのは實に損の話で、千でも二千でも枯死する株の出來ぬ程度に密植して、之と同時に其畦の間へ高刈又は中刈仕立を遣るのです、密植で一時の急を救ひ、高刈なり中刈なりで永久の備へをすると云ふ鹽梅だから至極良からうと考へる。

春夏秋蠶の桑園の兼用と專用……サー何れが將して利益か蠶業講習所ても試驗しつゝあるから遠からず其の解決もつく譯けてあるが彼の愛知縣の或地方のやうに三葉でも四葉でも出さへすれば摘んで何回ても蠶を飼ふ方が利益かも知れぬ聞けば同地方ては一反の桑園て三百圓も收獲があると云ふことてあるからね－云々。

蠶海涓滴

▲露國オデッサの露國太人團體は市中に掲示を貼して云ふ愛國者は宜しく猶太人を殲滅すべしと何ぞ夫れ彼人道の甚しき蔚内狼貪の驕行憎むべき哉。

▲電貸引上問題出て群議囂々而かも長力強藉りて强行す是れ營私也横暴也營私横暴と知て而して其弊害を保げ一む内務當局の處置不可解の極なる哉。

▲坪内博士自邸内に師弟無禮講とも云ふべき園遊會を開催せんとし其他の學者亦毎週兩三回の面會日を定めて篤志學生の來訪を促し以て一家團欒的。

▲交際を開始ぜんとすと傳ふ眞に是れ教育界の美學なるかな如此して師長教導寛仁の態度を寂るあらば弟子焉ぞ恭順謹愼の道を盡さずして止まん哉。

▲久邇宮殿下去八月二十三日親しく御台臨あらせられ、無上の光榮に浴したるは是れ上州碓氷社なり、萩原社長以下社員一同此上もなき名譽なる哉。

▲本邦生絲の産出を盛大ならしめんには其原料たる桑葉の豊富に俟たざる可らず桑園增殖の奬勵目下の急務たり本會之が建議を爲す寔に所以ある哉。

▲政府當局之を容れ議會亦之に協贊を與へば期年ならずして到處桑樹の簇々叢茂たるものあるを見茲に到て扶桑國の名實を全うするを得ん嬉しい哉。

▲一村七十餘の養蠶家の飼育せる夏蠶の悉くが白殭病に罹て斃れたるの慘狀長野縣諏訪郡玉川村に在り蠶病豫防を怠慢に附したるの報亦恐ろしい哉。

▲愛媛縣人宇都宮鹿伯氏飼蠶所擾法に就て深く研究を重ぬるの結果遂に座繰綱の特効機を發明したりと云ふ果して眞ならば其裨益大なれども如何に哉。

▲北海道上川郡農會オサリラペ養蠶實習傳習所燒失し累々たる美繭と床挂用製造蠶種とは悉皆烏有に歸したり飯塚氏胡爲ぞ夫れ無情なるの甚しき哉。

▲夏期降雨少く晴暖亦最も多き北海道には柞蠶事業有望なりとて馬越氏主唱の下に資金三十萬圓の柞蠶株式會社を設立すと健全なる發達を望むや切。

▲征露紀念蠶業講習所今春福島縣石城郡長岡田氏の熱心に依て設立せらる而して其生徒募集の成蹟殊に良好なりしとは聞くだに寔と嬉れしからず哉。

新刊批評

絹絲論　德田實也著

本書は德田氏が多年研究の餘に成れる最近の著書にして、其の大體の項目を十八節に區別し、縷々纏述せられたるもの、積り積つて四百頁の多きに達し頗る廣汎のものである、けれども其内容を約言してみれば、蠶絲の性質を理化學上より論ぜられたものであつて、汗牛充棟も啻ならざる蠶業書中、未だ本書の如く特色を有するものは眞に尠い、本多蠶業講習所長が之が序文を讀すに當り、若夫れ本書に就て其性を知り其質を究めなば、所謂其體をして益豐に其美をして愈美ならしめ、以て社會文明の華をして長へに光彩陸離たらしむるを得んかと賛せられたのを見ても、略ぼ本書の價値が知らるゝのである、學者之を繙かば絹絲に關する微妙の眞珠を味ふことが出來、技術者之を讀まば製絲改良上一段の歩武を進むることが出來るであらう、吾人は彼の空理空論の一方に偏して何等の趣味と實益とを有せざるものと全く其選を異にする本書を歡迎するに吝ならざるものである。

（發兌元東京市本郷區一丁目育成會發兌定價壹圓參拾錢）

實驗應用 梨樹栽培新書　松戸覺之助著

著者が其緒言に述べたる如く、社會と人智との進歩發達に伴ひて、肉食の盛なると同時に淡泊滋味なる果物の需用の增加するのは必然の勢ひで有つて、戰勝後の日本が歐米人の來往頻繁となるに從ひ、益果物の需用を喚起し來るのは爭ふべからざるの事實である、此際に當て果實中の王とも云はるゝ梨樹の改良蕃殖を圖るは頗る時宜に適するものと云ばればならぬ、併し乍ら世間には梨樹の栽培に熱心して、而かも失敗する者多く、從來梨の本場として知られたる土地ですら、近年兎角其成蹟の不良なるものありて、漸頽の風運に向ひつゝあるの土地も少からざるは讀者の稔知する處であるが畢竟是等は其栽培手入の方法を知らざるに依るであらう、果して然らんには本書の世に公にせられたのは、實に梨樹栽培に苦心せらるゝの士は一讀せられて然るべしである。（發行所東京市赤阪區溜池町五番地東京興農園定價金四拾錢）

實驗論 フォルマリン鑑定法　坪井磬作著

本書は廣經なる有機化合體の「フォルマリン」が、一見其眞實を判するに難くして、當業者をして誤入せしめ、延て新業の出鋒を挫するに至るのは、全く能定法の不備なるに基くであるあち、其檢査法の種類分析化學の一般なる、其の機械には能定法の種類多年實驗の結果を蒐錄して上梓せられめてやもれば なるも云ふ迄も老婆心より、著者が多年實驗の結果を蒐錄して上梓せられめてやもれば なるも云ふ迄も老婆心より、著者が多年實驗の結果を蒐錄して上梓せられめてやもれば 用法書に分類操作、第二章には「フォルマリン」の性質及一般アルデヒードの 鑑識法、第三章には化學的能定法、第四章には理學的能定法等を叙述し、附錄と して、光業法及鹽島氏名家引合附せられてある、職に當局防疫員として勤務せ ちるこの方は勿論、當業者一本々座右の友として備へられなば、雲と其特益 は勝ちんであろう。（發兌元東京市神田区美土代町三丁目明文堂定價弗十錢）

第八回京都府蠶絲同業組合聯合會業務成績報告書並事蹟報告書

京都府蠶絲同業組合聯合會刊行

本報は全國蠶絲同業組合中の模範組合として知られたる、京都府蠶絲同業組合聯合會が、時三十八年度に於て施行せる業務並事蹟報告である、之に依て同組合が如何に活動しつゝあるかを直に知り知ることが出來るのであるが、吾人は 嘱せ組合經營組織を其にするの今日斯かる好個の報告に接するのを深く喜ぶのである。（非賣品）

明治三十八年度事蹟報告　城丹蠶業講習所刊行

本報は所習提鏡組合たる京都府蠶絲同業組合聯合會立城丹蠶業講習所の三十八年度事蹟報告である、之には無報酬法人制蠶見左解説を加めとし、種々有益な なる解説及説が載せられてあるから、當業者の爲めには蓋に其き參考と云はれば なるべし。（非賣品）

明治三十七年　長野縣第一二一統計書　長野縣第一部刊行

本書は長野縣に於ける三十七年度の統計調査であつて、四六二億飯五百二十 七貫の中に、土地、森林、人口、教育、農業、蠶絲業、商業等の二十五門三百廿八 項を收められ、一覽の下に同縣の見て於如何なる消長増減の跡を示しつゝあるか を知ることが出來る、大抵の統計表が見得社摂を見れぬのであるが、本書を編纂

綿木實三百
山梨蠶友會
東京蠶友會
郡馬縣蠶種同業組合聯合會
滋賀縣蠶種病防事務所
東京與農園
山口縣
青森蠶友會
四ヶ原蠶友會
長野縣
大日本農會　第一五號
長野縣第二十二統計　明治三十七年度
大日本水産會　第三〇二號
大日本山林會　第二八五號
動物學雜誌　第二一四號
中央農事報　第七七號
植物學雜誌　第二三五號
蠶業新報　第一六一號
東洋學藝雜誌　第一九九號
教育分報　第三一〇號
染織時報　第三八號
工業化學雜誌　第一〇四號
大日本私立衛生會雜誌　第二七九號

寄贈書目

女子蠶業教科書
蠶絲病
雨多郡郡加住村農事調査
第一水産報
蠶業病防事務成績
賀茂郡郡用梨樹栽培書
蠶種檢査蠶業病防成績
紺藍論
四ヶ原蠶友會報
長野縣第二十二統計
大日本農會報　第三〇二號
大日本山林會報　第二八五號
動物學雜誌　第二一四號
中央農事報　第七七號
植物學雜誌　第二三五號
東京植物學會報　第一六一號
蠶業新報　第一九九號
東洋學藝雜誌　第三一〇號
教育分報　第三八號
染織時報　第一〇四號
工業化學會報　第二七九號
大日本私立衛生會雜誌

兵庫縣蠶業會報　第六五號
通商彙纂　第四七一四八號
統計彙報　第一〇五號
農事報　第一〇〇號
學士會報　第三二二號
工業雜誌　第三四五一三四六號
新潟縣蠶絲會報　第五號
殖民　第一〇號
山梨蠶絲時報　第一〇號
農業教育　第六二號
京都府農會報　第一六一號
岐阜縣農會報　第二三四號
新潟縣農事報　第三二號
福岡縣農事報　第八八號
埼玉蠶業月刊誌　第八月分
月報　第一一八號
田園生活　第三〇四號
會報　第一號
何農業月報　第九〇號
農業雜誌　第一四〇號
中外農業新報　第八月分
生絲月報　第一三號
防長農業界　第三四號
北海道農會報　第六七一六八號
國內之蠶業　第一六號
土佐蠶絲同志會　第四五號
愛國婦人會　第一〇九—一一二號
島根縣農會報　第九八—一〇〇號

島根縣農會

Bulletin Du et Des Sericiteries, No. 1522-1515
Brevet, bakomsbuiten Levensmiddelen Industriebladen
Bollettino di Sericiteria Nos. 14-17 Pubblicato a cura dell' Associazione dell' Industria e del Commercio della Seta in Italia.

人事彙報

▲合志修敬氏　本會通常會員にして靜岡縣濱名郡立蠶業學校長なる同氏には高等官六等に陞叙せられたり。

▲本間正行氏　本會通常會員にして茨城縣東茨城郡長なる同氏には從六位に叙せられたり。

▲鈴木梅太郎氏　本會學藝委員にして盛岡高等農林學校教授なる同氏には正七位に叙せられたり。

▲中塚庄藏氏　本會通常會員にして宮城縣技師なる同氏には從七位に叙せられたり。

▲菅野半右衛門氏　本會特別會員なる同氏には正八位に叙せられたり。

▲足立丈次郎氏　本會特別會員にして三重縣技師なる同氏には高等官三等に陞叙せられ五級俸を下賜せられたり。

▲小倉久氏　本會大分支會長にして大分縣知事なる同氏は岐阜縣知事に任せられ高等官二等に叙せられ二級俸下賜せられたり。

▲川路利恭氏　本會岐阜縣地方委員長にして岐阜縣知事なる同氏には奈良縣知事に任せられ高等官二等に叙せられ二級俸

下賜せられたり。

▲有田義資氏　本會福島縣支會長にして福島縣知事なる同氏には群馬縣知事に任せられ高等官二等に敍せられ二級俸下賜せられたり。

▲佐柳藤太氏　本會通常會員にして新潟縣事務官なる同氏には山形縣事務官に任せられ高等官四等に敍せられ第一部長兼第三部長に補せられたり。

▲大城戸宗重氏　本會特別會員にして東京府事務官なる同氏には埼玉縣事務官に任せられ高等官五等に敍せられ第二部長に補せられ三級俸を下賜せられたり。

▲中村猝治氏　本會特別會員にして埼玉縣事務官なる同氏には岡山縣事務官に任せられ高等官五等に敍せられ第二部長に補せられ五級俸下賜せられたり。

▲勝部國臣氏　本會特別會員にして群馬縣事務官なる同氏には福井縣事務官に任せられ高等官六等に敍せられ第四部長に補せられ五級俸下賜せられたり。

▲齋藤美知彥氏　本會特別會員にして山形縣事務官なる同氏には福島縣事務官に任せられ高等官七等に敍せられ第四部長に補せられ六級俸下賜せられたり。

▲吉見輝氏　本會群馬縣地方委員長にして群馬縣知事なりし同氏には二級俸下賜せられたり。

▲高橋諸隨氏　本會通常會員にして茨城縣事務官なりし同氏には三級級下賜せられたり。

▲吉田金作氏　本會特別會員にして岐阜縣事務官なりし同氏には三級俸下賜せられたり。

▲館三之吉氏　本會特別會員にして山形縣技師なる同氏には從七位に敍せられたり。

▲白仁武氏　本會特別會員にして栃木縣知事なる同氏には文部省普通學務局長に任せられ高等官二等に敍せられたり。

▲十時雄次郎氏　本會特別會員にして福島縣立蠶業學校長なる同氏には熊本縣立農學校長兼同縣技師に任せられ七級俸下賜せられたり。

▲土居伊太郎氏　本會通常會員にして高知縣技師なる同氏には高等官七等に陞敍せられたり。

▲和田松次郎氏　本會通常會員なる同氏には群馬縣碓氷郡細野組共蠶會員の爲めに昨年及本年の春蠶に巡回教授を爲し良好の成蹟を擧げたりとて同會員より三組銀杯の贈與を受けられたり。

▲小西文之進氏　本會通常會員にして秋田縣技師なる同氏には五級俸下賜せられたり。

▲前野長成氏　本會通常會員にして鹿兒島縣農事試驗場技師なる同氏には年俸貳百圓下賜せられたり。

▲敢　忍氏　本會通常會にして茨城縣立農學校敎諭なる同氏には九級俸を下賜せられたり。

▲山本小源太氏　本會通常會員にして埼玉縣技師なる同氏には高等官六等に陞敍せられたり。

交詢餘錄

○望交換　蠶業に關する書籍雜誌及印刷物の交換を望む。

岐阜縣武儀郡大矢田村　井上粂一

實驗 養蠶法　東京蠶業講習所技師 土屋泰先生著　全一冊 正價金七十錢　總クロース金文字入石版數葉入洋裝美本

實驗 フォルマリン鑑定法　東京蠶業講習所講師 坪井啓作先生著　全一冊 正價金三十錢　洋裝西洋木版數十個入

實驗 蠶體生理　農科大學教授理學博士 佐々木忠次郎先生校閲　全一冊 正價金一圓　洋裝クロース金文字入彩色石版、寫眞銅版、西洋木版等入拾有餘圖入

蠶體病理　前東京蠶業講習所技師 農學士 廣瀬次郎先生著　全一冊 正價金卅五錢　洋裝彩色石版、寫眞銅版、西洋木版等五十有餘圖入

養蠶示教　廣瀬次郎先生 金成金斎先生 合著　全一冊 正價金卅五錢　洋裝假綴背クロース寫眞銅版及西洋木版等十數個入

蠶兒 軟化病之研究　農科大學助教授農學博士 眞村貫先生 農科大學助手 山崎德吉先生 合著　全一冊 正價金五十錢　洋裝極彩色石版二十九版及西洋木版數個入

蠶生理化學　農學博士 澤村眞先生著　全一冊 正價金三十錢　洋裝假綴

通俗 蠶病豫防法　東京蠶業講習所技手 岩淵平介 長岡哲三 先生合著　全一冊 正價金五十錢　洋裝クロース背金文字入西洋木版十數個入

實驗 桑樹栽培改良法　老農桑樹栽培家 高田富右衛門先生口述 金成金斎先生編　全一冊 正價金六十錢　洋裝總クロース背金文字入寫眞銅版一、密畫石版六、西洋木版十數個入

袖珍 蠶絲寶典　京都蠶業講習所長 松永伍作先生 京都蠶業講習所技師 今西直次郎先生編　全一冊 正價金七十五錢　附和、佛、伊、英、獨、蠶業專門語集釘裝頗最上優美ポケット入

顯微鏡使用法　高野與祖次郎先生著　全一冊 正價金五十錢　洋裝總クロース背金文字入西裝木版三十有餘個入

製絲法　前山梨縣検査所技師 高橋信貞先生著　全一冊 正價金一圓　洋裝總クロース背金文字入密畫石版四十有餘圖入

養蠶術原論　福島縣蠶業大家 高橋久右衛門先生著　全一冊 正價金二圓　洋裝美本總クロース背金文字入密畫石版西洋木版等入

高橋養蠶談　同 高橋久右衛門先生講述　全一冊 正價金五十錢　洋裝總クロース背金文字入密畫石版西洋木版等入

發兌元　東京市神田區美土代町三丁目十四番地　明文堂

賜空前之光榮

●本器は今回宮内省を經由高輪御殿に献納し繰絲運轉の實況を畏くも常宮周宮兩殿下の御高覽を辱ふし空前の光榮を賜たり

新案製絲器械

●今回暹羅國政府より東京蠶業講習所へ完全なる製絲器械の購入を委囑し來れるに本器は其撰定する所となり七十臺製作の注文を蒙りたり

前東京蠶業講習所教官岩淵修三氏發明

●專賣特許 **新案製絲器械**

足踏式にして「ゲンネル」式共撚式に兼用構造簡易輕便最も其要を得且經濟的なり繰糸量一日一人二口繰にて五升乃至一斗三口繰にて七升乃至一斗五升

各一臺の定價

木製(甲)三口操金八圓

木製(乙)二口操金六圓五拾錢

全部鐵製三口操金貳拾圓

詳細は往復葉書にて御申越次第印刷物御送呈可申上候

東京市日本橋區元大工町四番地
製造發賣元(電話本局七六一番)
蠶器商會

東京市下谷區同朋町四番地
實驗繰糸工場
蠶器商會工場

岩淵修三氏發明

●專賣特許 **接緒器** 付屬品付 壹個金壹圓五拾錢

從來の製絲器械及足踏器械にも適用す接緒器中の最進歩せるものにして「デニール」よく揃ひ付節甚少し

海外之發展

(前號廣告中割引ノ項ハ誤リニ付取消ス)

東京蠶業講習所講師三谷徹先生
東京蠶業講習所講師松下憲三朗先生鑑査訂正

●特許 **佐藤式乾燥器**

●火熱乾燥式にして金具以外の建設費は僅少にて足る

●四石入以上は四石入を數多く設備するを可とす

定價 一石入金具代金八拾圓 二石入金具代金百八拾圓 四石入金具代金參百圓

本器の特色

一、室内に於ける熱の分布佳良なる事
二、室内の溫度は極めて均一に保ち得る事
三、給氣作用及排氣完全に行はるゝ事
四、生繭を八時間に乾了し爾も乾燥に過不及なき事
五、乾燥せる繭は其色澤を損せず解舒極めて佳良なる事
六、器械の構造最完全なると材料の精選製作の精巧とにより大に耐久性に富み毫も火災の危險なき事
七、器械の構造複雜せるにも拘はらず其價額は非常に低廉なる事
八、建設後生繭を乾燥するに際し室内空氣を攪拌し又は運轉等を要する事なきを以て此等に要する動力は一切不用なる事

本器の實驗證明

●本年七月二石入を埼玉縣北足立郡大和田町細沼政吉方に建設し秋繭を實驗して其乾燥成績最良好なるは同氏之を證明せり

●本年八月二石入を東京府豐多摩郡千駄ヶ谷村竹村政吉方に建設し秋繭を乾燥して其實驗成績最佳良なるは同氏之を證明せり

發賣所 東京市下谷區金杉上町一番地 佐藤商會

發明者 佐藤龜治

専賣特許第五六七四號

林式生繭乾燥裝置

農商務省專賣特許　焚口接合裝置

農商務省專賣特許　焰管伸縮裝置

農商務省專賣特許　加熱板裝置

農商務省特許出願中　防濕裝置

農商務省特許出願中　平均乾燥攪拌裝置

拾ヶ年實際經驗

農商務省蠶業講習所ヲ始メ各縣各郡ノ模範用農學校農林學校ノ採用ノ榮ヲ得タリ

東京市芝區三田豊岡町壹番地

林工場　林庫次郎

電話新橋一九五四番

●受領　大日本蠶絲會第八回品評會　銀杯●

●有効銀牌●進歩銅牌●二等褒狀●有効銀牌●

◉嶄新河村式消毒用噴霧器販賣廣告◉

本器は如何に構造堅牢使用輕便價廉にして而も其成蹟佳良なるかは大方の公評認知せらるゝ處なり從て曩日農商務省に開設せられし各府縣勸業主任會に於てすら當局大家の講話にも目下我邦にありて蠶病消毒器中其首位を占むるものは河村式强力噴霧器なりとの事口頭に上り以來聲價倍揚がり需用頓に加はり既に昨春の如きは高評の餘り注文過多にして遂に製品に缺乏を告げ遺憾ながら十に對する四五の比例を以て漸く需用者に詫ぶるの悲を來せり是皆諸彥の御愛顧優渥なるに外ならずと信す、然るに目今に至り模造者續々現はれ製品の實否如何に論なく只に其形式を竊用し種々の姦手段を以て華客を瞞着し暴利を貪るものありと聞く豈に悲嘆の至りならずや。今回弊場は此機に際し多年の眷顧に酬ひんが爲め層一層改良に改良を加へ前途益々宏大なる規模を以て嚴密なる選擇をなし專心御便益に供せん覺悟を以て汎く御高需に應せんとす希くは倍舊の御愛顧を賜はらんことを

特許　實用新案　實用丸形噴霧器

其他

●改良二ツ口自働噴霧器　金六圓八拾錢

●普通製　金五圓五拾錢

●布入ゴムホース六尺金具附　金壹圓貳拾錢

●消毒用フォルマリン各種　（相場時々變動あり御照會を乞ふ）

以上各品共一時に多數御購用の向は特別大割引可仕候也

明細書は御申越次第直ちに送呈す

備後國福山新町裏通り

製絲機械器具並　蠶業用器具一式　其他諸機械製作

河村工場

發電略號（カワコ）

◉**蠶絲之友**（本場製品細大漏さず六十餘種の美版を挿さみ委しく說明代價を記入す）御入用の御方は往復はがきにて御申込を乞ふ

●進壹等賞金牌 日本農民會第九回全國物産共進會に於て會頭從三位前田正名君より贈與の榮を荷ふ

良精蠶種豫約販賣廣告

◎春蠶種

赤	又	青
長巣	小	石
改良	加巣	丸
又	昔	熟
龍	白	昔
一升	二百三十粒	一升
一升	二百四十粒	一升
一升	二百二十粒	二百五十粒
一升	二百粒	二百粒
一升	二百粒	二百粒
一升	二百四十粒	二百粒

◎夏秋蠶種

白	又	龍
長巣	改良	昔
白	龍	昔
一升	二百三十粒	一升
一升	二百四十粒	二百粒
一升	二百二十粒	二百粒
一升	二百粒	二百粒
一升	二百粒	二百粒
一升	二百四十粒	二百粒

（發生は何時にても隨意溫泉岳風穴貯藏）

◎代價

一枚	金六拾五錢
一枚	金壹圓五拾錢

（桠製原種用 全面附 多數共同購入は割引あり）

本場製蠶種は各種共場主右田直三郎 **帝國農科大學に農蠶學を專攻せし時** 撰拔せし種類にして **農科大學卒業** 以來茲に拾有貳年間新進の學理と熟練なる技術とを以て生物界に於ける遺傳の原則に鑑み淘汰を加へたるものなれば蠶質強健にして飼育最も容易 **絲量饒多纖度均齊解舒佳良光澤優美** にして形狀好適なり多少に拘らず豫約御申込み御飼育の上壹圓を得て邦家富力の充實を計られんことを戰後實業の責務として茲に奉希望候

熊本縣鹿本郡菱形村

右田農場

〔肥後國植木電信局區內〕

健全 発育性蠶種實費分讓廣告

◎春蠶種

赤	又	青
大形	長巣	小
熟	改良	石
又	昔	丸
龍	昔	熟
一升	二百粒	一升
一升	二百粒	一升
一升	二百二十粒	二百五十粒
一升	二百三十粒	二百三十粒
一升	二百四十粒	二百四十粒
一升	二百四十粒	二百四十粒

◎夏秋蠶種

白	又	龍
長巣	改良	昔
白	龍	昔
一升	二百粒	一升
一升	二百二十粒	二百三十粒
一升	二百四十粒	二百四十粒

（發生は何時にても隨意溫泉岳風穴貯藏）

●實費

一枚	金六拾錢
一枚	金壹圓五拾錢

（桠製原種用 全面附）

本社製蠶種は各種共多年系統的壹蠶飼育の撰擇により特撰せし純粹種にして蠶質健全飼育容易成繭優美にして繭絲細かに絲量多く光澤解舒共に佳良なり多少に拘らず豫約御申込み御試育あらんことを

熊本縣鹿本郡山本村

弘盛社蠶業講習所

〔名譽金銀賞牌拜受〕 所長 細谷久一郎

〔肥後植木郵便電信局區內〕

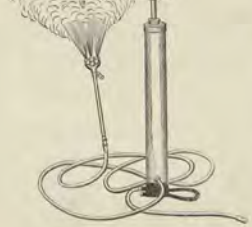
●壹等賞金牌 丸州沖縄八郡聯合共進會に於て農商務大臣從二位勳一等松岡康毅君より授與の榮を荷ふ

●進木式實用噴霧器大改良廣告●

進木式實用噴霧器の堅牢完全にして實用に適切たるは既に天下の公認せらるゝ處たり加ふるに昨三拾八年八月以降外筒氣室ピストン脚部其他各局部の大改良を加へ益々完全無欠實用無比の良器となるに至れり

今や季節に際し機遇するなく御購入あらんことを昨春の如きは實用適切にして成蹟佳良價廉なるの高評を以て實に過多の注文に接し遂に製品に欠乏を告げ其だしきに至りては三十に對し僅々六七の割を以て漸く需めを詫ぶるの不得止の遺憾を來せり當春は大に之れに鑑み如斯遺憾なからんことを期す希くは倍舊の愛顧あらんことを

詳細說明書一報次第呈す



●進木式實用噴霧器 三方噴出口 害虫防除用 附着 一臺金七圓五拾錢
同上 四方噴出口 一ケ金壹圓五拾錢
中壓用布ゾルホース接入 一筋六尺 金壹圓
小包郵料參拾五錢 但州倉吉金附
多數御購入の向へは割引可申特に大日本蠶絲會員諸君へは特別割引可申候

價格

伯州倉吉町

進木工場

（發電報號 シンキ）

（廣告七）

◉特許◉

新案百木式噴霧器ハ卅九年七月以後其噴霧口ニ特徴ヲ有スル等大改良ヲナシタルヲ以テ實ニ輕便且堅牢無比トナレリ

現今蠶業界農業界ニ於テ輕便且ツ堅牢無比ヲ以テ大ニ賞揚セラレツヽアル噴霧器ハ改良百木式踏噴霧器ナリ

特許 百木式噴霧器改良謹告

◉消毒用 フォルマリン液

◉百木式農業撰種用比重計

(目録進呈)

百木製作所

各農蠶學校及蠶業講習所の備書

各府縣蠶病豫防事務所の必要書

府縣廳郡役所及府縣郡村農會の備付書

蠶種家養蠶家の寶典 ◉ 製絲家貿易家の伴侶

大日本蠶種家名鑑

發行の旨趣

◉體裁の概要

◉記載の體裁

◉蠶種家特別廣告登載方法

廣告料

發行所

東京市日本橋區

蠶業新報社

◉精良春蠶種販賣廣告

●良白(一名島村)長大巣　一升二百二三十顆
●大巣白龍　大巣　一升二百顆内外
●大　又　中巣　一升二百五六十顆
●丸　志　保　中巣　一升二百六七十顆
●改良又昔　長中巣　一升二百五六十顆
●白玉(一名白姫蠶)中巣　一升二百五十顆

前掲蠶種は天理の原則に法り自然の道理に基き大氣の清通を旨として四十餘日間利根川沿岸の良桑を以て飼育し殊に精巧の顯微鏡撰種法とトリラー式消毒法とを以て專ら日進の學術を應用し病毒を除き抗疫性に富む完全純良の蠶種に御座候猶種類の義は多年の經驗を以て飼育し易く繭質善良纖維均一絲量最も多きものを改良撰擇せしものに御座候間多少に不拘御試育相願度此段養蠶家諸君へ拜告仕候

代價全面平附壹枚　金壹圓四拾錢　●框製壹蛾生金貳錢五厘

割引●平附拾枚原種用壹千蛾以上壹割引●農會其の他團體等に於て一手に多數御購求の節は特別に御相談可仕候

●郵便爲替は上野國佐波郡島村局へ御振込みのこと

●蠶種郵送料箱代は弊園の負擔に候也

桑柘園　田島彌平蠶事部
群馬縣佐波郡島村勸業社

專賣特許 蠶上簇藁折疊機

一個定價金六圓
(五個以上割引あり)

右器械を用ゆれば藁三たけを接續し得て一個となし一日に四百個以上五百個を製作し得るなり之を從來の手折に比すれば四人前以上の手間を省き蠶箔一枚は一個にて足り藁を冗費せず能く筋目の正しく整然たるか故箔上に布列するに倒るゝの患なく手數殆ど三倍を減じ特に玉汚繭等至て少し且つ器械の重量僅か二貫五六百目なれば運搬自在にして婦女子と雖も容易に使用し得べき輕便堅牢の器にして實に方今に於ける養蠶上一大好發明たることを疑はず其效用に至ては片紙の能く盡し得べきにあらざれば各位速に需められ浪費を省きて經濟上の利得を計られん事を奉賞上候謹具

信州下伊那郡下川路村
製造發賣本舖　國益社
電信略號〇ユキ

製絲器械專賣

●農商務省蠶業講習所模範器械ハ自分ノ製造ニ係ル

●佛國製器械ヲ模造セシ御法川鐵製器械ヲ改造セリ

●暹羅國政府ノ模範製絲器械モ亦自分ノ製造ニ係ル

●今ヤ戰後經營ニ對スル經濟的永久施設ノ爲メ鑄鐵製繰臺(膳臺)ヲ主唱シテ各地方ニ供給シ居レリ

東京市京橋區炭町九番地
宮澤文吉
製機部　製鑵部　特設鑄造部

桑苗製造販賣專業

弊社ハ桑樹改良ノ卒先者也數十年間ノ久シキ視ル處アリテ養蠶ノ改良發達進歩ニ連レ其第一ノ根元タル桑樹ノ改良增殖ニ着目シ内外各地原産ノ良種ヲアラン限リ取集メ之レガ試植ヲ為シ其適否ヲ鑑査シ利害得失ヲ講究シテ其結果成績ヲ詳カニセンガ為メ百方苦慮奔走シテ片時モ怠タラズ研究ヲ重ネタル折柄漸ク方今官民共大ニ擧シテ栽桑ノ一大急務ナルコトニ決シ夫ガ為メ續々需用者ノ顯ハレタル實況ニ及ベリ且ツ兩三年以前ヨリ海外各國ヘ數百萬本以上ノ苗木ヲ輸出セシメタルハ是亦弊社嚆矢タリ然ルニ其結果最良好ノ成績ヲ得テ好評ヲ博シタルヲ為メ尚又本年ハ淸韓兩國ヨリ大多數注文セラレタルハ恰モ怒濤ノ寄セ來ルガ如ク國家ノ為メ欣賀スベケンヤ希クハ本邦當業者諸君ニ於テモ此機ニ乘ジ早クモ無病健全ノ良種良苗ヲ撰擇シテ栽桑ニ着手セラレンコトヲ懇望ス

御注意 價格ハ廉ニシテ品質ノ強實ナルヲ好ムハ人情ナリ殊ニ桑苗ノ如キ價格ハ撰拔上ノ品位次第ニアリテ精撰ニモ限リナシ異ニ然リデス精撰ニシテ壽良ナルモノ程廉價デアリマス假ニ定價ヲ表面上安クシテ需用者ヲ導キ種類品位ノ不正粗製品等ヲ混入シテ發送スルガ如キ奸商人ノ買入ハ多少安價ニシテモ終ニハ失敗ニ至リ非常ノ損害ヲ招キ所謂一文惜ミノ百知ラズト云フ譬ナリ弊社ハ飽迄代價ノ安キヲ競爭セズ無病健全ノ良種良苗ヲ特ニ撰拔シテ御需用ニ應ズルノ主眼ナリトス

◉販賣種目左ノ如シ

苗木仕立ノ種類ハ●接木苗●二年苗●木蒔代出苗●一年苗●傘取苗●一年生撞木取苗

●大早生桑ノ良種●早中晩之各種●喬木仕立高田刈大葉ノ適桑各種●模範桑園仕立用特撰崇新改良桑各種●山間瘠土開墾地に適桑各種●夏秋蠶育専用適桑大中小葉桑各種●速成桑園立用魯桑九文龍實生各種●田畑屋敷ノ境界ニ植付クル適桑各種●水害地ニ適桑各種●寒地雪國ニ適桑各種●委縮病ニ罹ルコト少ナキモノ各種●細害ニ罹ルコト少ナキモノ各種●柘桑ノ代出シ原料●早中晩代出原料各種●春夏蒔魯桑其他ノ種子

但定價表及桑樹ノ種類性質効用苗木ノ鑑別法其他詳細之說明ヲ付シタル桑苗便覽ハ從前之分尚又訂正ヲ加ヘタルモノ御入用ニ有之候ハバ御照會次第直ニ發送仕候

東京府豐多摩郡淀橋町新宿停車場前角筈一番地

帝國農科大學。東京蠶業講習所
京都蠶業講習所清韓暹羅各政府

御用達桑蠶社

社長 桑原宏

春蠶亦昔

通稱 鹽原亦 佐平亦 佐亦

豫約代價

●原種用種 壹蛾代金參錢五厘壹千蛾以上壹蛾金參錢
●製絲用種 參枚ニ付金五圓同五拾枚以上參枚ニ付金四圓五拾錢同百枚以上參枚ニ付金四圓 送費自弁

鹽原亦或は佐平亦或は伯州亦或は山陰亦と稱する物は鹽原佐平の選擇に係る種類にして彼の名古屋製絲所に於て製絲改良の原種として伯州蠶種家に依頼せられし改良蠶種は則此佐平又と稱する原種よりなるものなり又山陰京都或は上州製絲の優等品は重に此種の製出する所なり鳥取縣島根縣に於て種類一定を期する為原種製造所を開設して各製絲家に依託せられし種類は則ち之なり本種の特色なる世既に定評あり茲に贅するの用なしと雖も最近購入の栄を得し官衙及公立團體を擧くれば左の如し

鳥取縣因幡蠶絲同業組合
鳥取縣岩美郡浦富村農會
鳥取縣氣高郡逢坂南部蠶業改良組合
鳥取縣西伯郡名和村農會
鳥取縣西伯郡中濱村農會
鳥取縣岩美郡東村農會
鹿兒島縣鳥居町蠶業講習所
鹿兒島市蠶業講習所
鹿兒島縣囎唹郡岩川村農會
鹿兒島縣伊佐郡西太郎村曾木
蠶業講習所
鹿兒島縣肝屬郡百引村農會
鹿兒島縣出水郡東長島村農會
鹿兒島縣肝屬郡大根占村農會
鹿兒島縣農會
鹿兒島縣肝屬郡小根占村農會

鹿兒島縣揖宿郡山川村農會
鹿兒島縣農事試驗場
鹿兒島縣肝屬郡高山村農會
宮崎縣都城町
宮崎縣北諸縣郡庄內製絲所
宮崎縣北諸縣郡製絲永進社
島根縣廳
岐阜縣立農學校
三重縣立農學校
滋賀縣淺井郡農會
長野縣松代町北信蠶絲懇話會
德島縣板野郡東村養蠶傳習所
岡山縣兩備郡蠶絲同業組合
岡山縣農事試驗場
石川縣農會
石川縣能美郡蠶絲同業組合
埼玉縣秩父郡原合名會社製絲部

埼玉縣北埼玉郡豊野村利根川
蠶業傳習所
埼玉縣大里郡幡羅村農會
栃木縣那須郡荒川村養蠶改良
組合
栃木縣鹿沼製絲所
茨城縣立農學校
山口縣岩國大日本蠶絲會山口
支會
山口縣農會
山口縣佐波郡小野村吉富養蠶
傳習所
山口縣熊毛郡農會
山口縣豊浦郡蠶業組合
京都府城丹蠶業講習所
福島縣石城郡立蠶業講習所
岩手縣稗貫郡役所

群馬縣勢多郡南橘村大字田口村拾壹番地

鹽原佐平蠶種部

蠶業新報

八月廿五日發行第百六拾壹號目次大要左の如し

▲口繪　故英國生絲鑑定師橋本重兵衛君肖像
▽松平正直男に訴ゆ……社說
▲製絲業と文明開化……侍待名譽協贊員　速水堅曹
▽伊達蠶種の種類及名稱の由來……福島縣員　久保田桂次郎
▲農學校に於ける養蠶……農學士　廣瀬次郎
▽肥後製絲界の改善策……農學士　紫藤章
▲卒倒病菌……生絲檢查所長農學士　石渡繁胤
▽渡米の準備……日本力行會長　島貫兵太夫
▲蠶業新報第百六十號を評す……池田榮太郎
▽秋蠶川桑園……相馬愛藏
▲米國蠶業の現在及將來　マスタ、ラフ、アーツ……飯島立峯
▽蠶業談……男爵　澁澤榮一
▲博覽會と蠶業館……大博覽會委員　田中芳男
▽米國生絲談……新[illegible]潟者　荒川新太郎
▲本年繭の出來と世界の養蠶……生絲檢查所技師　今西直次郎
▽女子蠶業教育普及の一策……岐阜縣　生駒涙花
▲戰後の養蠶家は如何に處すべきや……同　大橋慧逸
▽秋蠶種の善惡鑑定法を論し需用者の注意を促す
▲共同貯桑場の設置……新潟縣　高橋傳榮
▽蠶種購入團體に望む……京都府　本田佐候
▲算當新秘訣(昔の寒暖計)……信濃　執中　中村善右衛門翁

其他蔬薦欄の蠶界名士洋行奇談は愈々出て倍々奇なり本誌雜報は蠶界の新出來事を蒐集して他の新聞雜誌の企て及ばざるものあり其社說の直言横議筆鋒の鋭利なるは己に世の定評あり其れ官威に恐れず權勢に諛ひず只正義あるを知つて他を知らざるなり、其議論其一種の覇氣ある所優に蠶界の消毒劑にして又興奮劑たるを得べし、凡そ蠶業の事を談ずるものは必ず先づ蠶業新報を讀まざる可らず敢て御一讀の榮を給へ

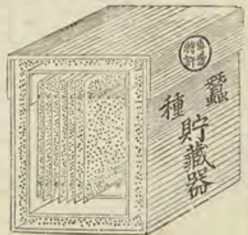
每月一回二十五日發行　壹部送料共拾貳錢　十二冊前金送料共壹圓貳拾錢　二十四冊前金貳圓卅錢

發行所　東京日本橋區箔屋町十四番地　**蠶業新報社**

●蠶種貯藏器

季節に迫らざる内至急御注文を乞

本器は**蠶種**をして冬期間**不時の寒暖冷濕**は勿論鼠害其他の**害を防**ぎ蠶種を**安全**に無事**越冬**し**健全の發生**を爲さしむべき樣**構造**したる**蠶種貯藏器**なり



●並式　代價　五枚入　金三圓　十枚入　三圓五十錢
十五枚入　四圓　廿枚入　五圓

●別式　代價　卅枚入　二十圓　五十枚入　三十圓
百枚入　四十圓

但別式製は別に荷造費壹臺に付三圓宛を申受候●運送は小包便にては送れず通運其他各便宜に隨ひ發送可仕候

蠶具問屋　東京市日本橋區箔屋町十四番地　**丸山舍蠶具部**

◎養蠶の好結果を得るは蠶種にあり

精良無比 理想の春蠶種

◎春蠶　長巣　又昔　一升二百六七十粒
長大巣　又昔　一升二百四五十粒

何をか理想の蠶種と云ふ哉繭絲量百分の拾五以上貳割の層絲を出すも優に生繭百匁に對し拾貳匁以上の生絲を繰絲する事を得纎度均一細太の差少く縮皺密にして中縊れ淺く解舒佳良にして光澤美繭形長巣にして大に過ぎず小に失せず平均纎度二デニール八能く拾四中の生絲を繰絲する製絲家の原繭に適す加之も飼育容易是余輩の精良無比理想の春蠶種と云を憚らざる所以となす宜なる哉我縣農會郡農會は此種を扱し蠶種製造上監督の任に當り法律蠶病豫防法の外檢査規程を設けられ縣郡技術官及著名製絲家に囑托して檢査を成さしめ其檢査に合格せしものを需用に應じ不合格の者は製造を禁せらる實に此種の眞價を知るに足るべし乞大方諸彦探りて以て改良の資に供せられん事を切望す

◎原種用枠製檢查濟貳拾八蛾壹枚六十錢(多數の注文なれば御相談に應ず)
◎平附製絲用種檢查濟　壹枚壹圓四拾錢
◎爲替但馬廣谷局受取人は館主宛御指定の事

但馬特產接木立木桑

仲磨木(中生桑の晩)　**平次郎**(中生桑の早)
伊豆早生(早生桑の大早)　實生苗　魯桑實生苗

桑葉は絲素てある絲素其物にして缺くる處あらば優美の繭を得る事は至難の業て有故に桑苗も適當の良種を撰び且つ適當の栽培法に依らねばならむ弊館天稟絶無の好土を利用し加ふるに接木の方法接穗の撰擇育苗の方法を研究し接木桑苗の育苗に從事する多年幸に純良にして强健なりとて年一年販路を擴張し尚一層努めて止まざれば普く蠶業勢地に弊館桑苗の跡を見ざる處無きに至るは期する處なりとの好評を得ました希くは蠶業界知名の士試作して其實利の存する所を知られよ

前記の三種は立木仕立とするも葉形豊大養分に富み收獲多くして長壽を保ち他に類の無き良種て有ります弊館の接木立木桑は普通商人の取扱品とは相違し幾萬の御注文にても不接は一切無之萬一一本にても有之時は代價返金可致又虫付虫蝕芽無等其他雜種を撰別し館主及主任者は之を調查し一本も混ぜざる樣注意をなす若し誤て混合し有れば早速引換可致を保證す代價荷造費運賃等は御照會を乞ふ

兵庫縣但馬國養父郡廣谷村(電信略號ヲノ)
養父郡蠶種改良社員

蠶業桃林館　館主　**小野山眞一郎**
主任　**小野山純三**

◎將來の桑は立木ならざるべからず

蠶絲業家の絶好伴侶

田路寅造先生著
袖珍蠶桑寶典（正價八十五錢 送料六錢）

東京蠶業講習所御編纂
蠶事報告第廿七號（正價二十五錢 送料二錢）

農學博士 大森順造先生著（正價八十五錢 小包料十錢）
蠶病學講義（正價六十五錢 小包料十錢）

三谷 徹先生著
製絲秘術

東京蠶業講習所御編纂
●**蠶事要報**（養蠶之部）正價四拾錢 郵稅四錢
●**蠶事要報**（製絲之部）正價貳拾錢 郵稅貳錢
高山社分教場高橋清七先生著
●**蠶兒飼育法** 正價六拾錢 郵稅六錢
出野信慶先生著
●**蠶病豫防法解釋** 正價三十錢 郵稅四錢
京都蠶業講習所長松永伍作先生著十三版
●**蠶桑實驗說** 正價五拾錢 郵稅六錢
同 先生著
●**再訂增補養蠶術講義**（十八版）正價四拾錢 郵稅四錢
信陽 田村兵司君著
●**二化蠶業全書** 正價貳拾錢 郵稅貳錢
秋蠶專攻上條銀一郎君著
●**最近秋蠶全書** 正價四十五錢 郵稅六錢
信陽 油井彌一郎君著
●**夏秋蠶の燈** 正價五十五錢 郵稅四錢
山梨縣永田辨次郎君著
●**東理原應用栽桑新書** 正價七十五錢 郵稅八錢

發行所 東京市京橋區南傳馬町二丁目 振替貯金口座六九六六番 電話本局千五十五番 有隣堂書店

將來之東北

後藤新平君 題詞
田中義一君 原敬君 三浦梧樓君 序文
新渡戸稻造君 牛谷清藏君 齋藤實君 著

序論（最新刊製本既成）

世界は金穀を以て時東北を欲へ東北を欲へ東北人の弱點短所を指摘し東北の振興策は精神を以て永久東北を濟はんと東北人は人ぜ己む能わざるも獨り立獨步北方の一大教科書也若夫東北人は以て東北に殖せざるべからず本書を買はんと欲せば先づ本書を讀まざるべからず也務に東京橫濱に對しては其の商業範圍なる東北の開發を忽略にした頂門の一大長針 元

菊版全紙數二百五十餘頁
正價 金五十錢
郵稅 金十錢
（總目次御用の方は往復はがきにて申込あれ）

東京市日本橋區舊屋町十四番地 丸山舍書籍部

蠶業講義錄

賛助員 正三位勳一等子爵渡邊千冬君 東京蠶業講習所長本多岩次郎君 長野縣立蠶業學校長三吉米熊君 農商務省蠶絲試驗場長加賀山辰四郎君 農務局長農學博士酒勾常明君 伍作君

第壹期會員募集
自宅講習
學科 講師（正科）
講習期十ヶ月 書籍授與證 入會者は入會金及會費五ヶ月分を郵券代用 信濃南安曇郡穂高村 長野縣 入會者は月以上遠へ申込べし 南安曇郡穂高村 入會 次第會員章及講義錄第一ヶ月分は一割增 編輯所東京西五五番 發行所 中央蠶業學會

（後附）

土佐特産魯桑實生苗の正確な供給

我土佐國が魯桑種子並に其實生苗の特産地たることは既に全國各府縣の等しく認識せらるゝ所にして近爾各府縣に在りて戰後の經營上桑園增殖に關し頻々其施設を見るに至りたると共に急激なる需用は忽ち本縣下に向つて集注し來り現に本年夏季に於て本商會に於て販賣の取扱をなせる魯桑種子のみを以てするも實に十石以上に上り尚引續き多額の注文に接したるも本商會に於て賣れと懇切種子の全く拂底となれるがため爾後總て之れを謝絶するの已むを得ざるに至りたるは特に遺憾とせる所なりき而して本商會の紹介販賣せる魯桑種子が洗れも品質精良系統純粹にして且其生育の模樣頗ふる他に優絶せるものありたるは之れを試播せられたる各位の共に實驗せられたる所にして本商會に對し特に謝狀を寄せられたるものも亦尠からず是れ主として本縣產魯桑種子の特性に基けるは勿論なるも亦た本商會の撰擇宜に其宜しきを得たるに由らずんばあらず而かも其價格の亦極めて低廉なりしは偏に本商會の公益を重んじ薄利に甘するの主義に出でたるものにて亦江湖各位の特に注目せられたる事實たるべしと信ずや今や更らに本縣產魯桑實生苗に向つて各府縣より多數の需用あらんとするの時機に際し本商會は既に之れに對し應分の準備をなし其の直營の苗圃は勿論其他特約結介に係る苗圃に就き其仕立中に在りて時に嚴密なる查察を遂げ熟れも目下順る良好なる生育を遂げつゝあるを以て過般魯桑種子の取扱をなせると同しく充分の責任を負ひ『確實と廉價』なる本商會の主義に基き決して江湖需用各位の深厚なる信賴に負からざらんことを期す希くは益々高需を賜はらんことを

一年生苗木　一尺以上二尺迄　一千本　貳圓
同　上　二尺以上三尺迄　同　貳圓五十錢
同　上　三尺以上四尺迄　同　四圓

荷造費は本商會負擔運送賃實費金は別に申受く

（注意）需用御申込期限本年十二月末日限り

但し優良品拂底となりたるときは期限内にても謝絶することあるべきにより可成早く御申込を乞ふ需用御申込は同時に保證金として代價五分の一の金員を申受け現品引渡の際其殘額を申受く但し官廳、學校、試驗場、農會其地公共團體より御申込に限り保證金を要せず

土佐國佐町二丁目　土本高知北側

主發行　土佐蠶業商會

幹事　明神武雄

略電語『シナ』

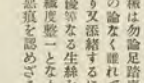
專賣特許第一〇五六四號

無回轉式接緒器

壹個金四十五錢
百個以上特別割引

見本二個入九十錢御送金次第使用法共御送仕り候

但切手は一割增



本器は上圖の如く無回轉式裝置なれば極めて簡單にして在來の機械と勿論足踏廉綿の利なく又ケンネル式共撚式の論なく雖ても鉗二本にて備付得らるの便あり又漏緒するに使用簡便なれは初智の工女能く優等な生絲を多量に製絲せられ處理易け れは機度整一となり故に漏緒よりなる寢跡は少しも惡寢を認めざる等實に無比の良器なり

簡單足踏製絲器械

定價金五圓五拾錢
但接絲器付

本器は構造堅く使用簡便にして實用に適し在來の笠を其儘使用する便あり

右兩器共主として地方に一手販賣を許し吝ねく當業者の利益を計るの目的に候得者御望の方は至急御申込被下度候

横濱本町　今井商店　器械部

春蠶

健全無病
発疫性

蠶種販賣廣告

種類　又昔　銀白　白龍　大巢又昔なり

普通製壹枚代價壹圓四拾錢　框製壹錢代金參錢　但し普通製五拾枚以上は一割引　百枚以上は一割五分引箱代郵送料は本館の支拂とす

本館が蠶種改良の要旨は蠶性强壯にして飼育最も容易絲量多く纖度均齊なる良種なるは勿論なるも亦た本商會の撰擇宜に其宜しきを得たるに由らずんばあらず而かも其價格の亦極めて低廉なりしは偏に本商會の公益を重んじ薄利に甘するの主義に出でたるものにて亦江湖各位の特に注目せられたる事實たるべしと信ずや今や更らに本縣產魯桑實生苗に向つて各府縣より多數の需用あらんとするの時機に際し本商會は既に之れに對し應分の準備をなし其の直營の苗圃は勿論其他特約結介に係る苗圃に就き其仕立中に在りて時に嚴密なる查察を遂げ熟れも目下順る良好なる生育を遂げつゝあるを以て過般魯桑種子の取扱をなせると同しく充分の責任を負ひ『確實と廉價』なる本商會の主義に基き決して江湖需用各位の深厚なる信賴に負からざらんことを期す希くは益々高需を賜はらんことを

一年生苗木　一尺以上二尺迄　一千本　貳圓
同　上　二尺以上三尺迄　同　貳圓五十錢
同　上　三尺以上四尺迄　同　四圓

荷造費は本商會負擔運送賃實費金は別に申受く

（注意）需用御申込期限本年十二月末日限り

但し優良品拂底となりたるときは期限内にても謝絶することあるべきにより可成早く御申込を乞ふ需用御申込は同時に保證金として代價五分の一の金員を申受け現品引渡の際其殘額を申受く但し官廳、學校、試驗場、農會其地公共團體より御申込に限り保證金を要せず

明治三十九年八月

群馬縣佐波郡玉村町大字角淵
高山社分教場良育館

大日本蠶絲會特別會員地方委員　野村要藏蠶事部

天下獨特の設備

春蠶種

夏蠶風穴種
春蠶風穴種
秋蠶風穴種
晩秋蠶種
送框製金種

本社原蠶の飼育は常に社長技師技手一同一意專心蠶の爲めには蹴れて後ちも止まんと云ふ決心を以て飼育に從事し飽迄も殺健無毒の飼育は蠶種を製出し豫約者各位の意向を充たさんことを期すると共に社員は蠶業の爲め誠心誠意を以て蠶飼育せる國家の爲め蠶繭は充分銷路とし且設備せる高度の點は蠶業の爲めに蠶飼育に至る迄一々檢査を執行し無毒の蠶繭は完全なる蠶種を供し豫作を得る所以なり尚本社に於て本社供給蠶種の常に成績良好にして無毒の蠶種を供へあれは蠶育本社に於て蠶繭は蠶種の爲めに蠶飼育せる桑樹に青葉ある限り何時にても飼育せる樣各種の蠶種を供へあれは蠶育後桑等のは蠶繭は蠶種の爲めに蠶飼育せる桑樹に青葉ある限り何時に發送すべき設備あり是れ本社は天下獨特の設備と自稱する所なり

名稱大又、又昔、小石丸、青熟、白龍、銀白、白銀
金両付卵量凡八匁　定價金壹圓五拾錢　製造期　一號口六月二十五日より
白龍、千代簡、飛白、國富　定價八拾錢付金一圓二十五錢　二號口七月　十日頃迄
普通春蠶種を風穴へ貯藏し發生期を遲らしめ豫備晩蒔用　定價金壹圓五拾錢
夏蠶風穴種は夏蠶より製出せし物にして普通夏蠶に代用出來る好適なり秋蠶風穴種は早秋蠶代用として尤も蠶性强壯良品繭を得らる全面付金壹圓貳拾錢
改良白龍、日本錦、千代鶴、糸錦、飛白、中巢八十蛾付一枚金壹圓貳十五錢
製造期七月貳拾日より順次八月三十日迄製造の晩秋除霜の爲に測常すべき桑葉を貴金化する巨利鴻益ある蠶なり而も蠶性强健にして克く多の優美なる繭を收め得べし
一名霜の下とも稱し早秋蠶上蔟後に於て彼の晩秋除霜の爲に測常すべき桑葉を貴金化
各種原種用框製無毒一蛾金貳錢五厘　製糸用框製一蛾金壹錢五厘
代金は總て申込と同時に郵便爲替は信濃國松本郵便局へ銀行爲替は松本各銀行の内何れにても御隨意受取人村山喜久永郎宛て御拂込を乞ふ
蠶種は來社せらるゝ者の外は總て郵便にて送附す荷造は適いれにて途中被害の憂いなき樣充分の注意をなす送料面代は本社にて負擔す

秋蠶飼育新書
村山社々長村山喜久永郎著
從六位農學士鶏卷恒太郎著
長野縣東筑摩郡松本村三六八二
村山社技師　農學士　鶏卷　恒太
從六位農學士
村山社技師　農學士　笠原　十司
村山社技師　長野縣技手　河西　大彌
本書は極めて解し安き樣叮嚀親切に記述したる最新の秋蠶飼育術なり秋蠶業者は是非共一本を供へられんことを秋蠶失敗者は必ず一讀せられ定價金拾貳錢
村山社技師　長野縣技手　村山喜久永郎
信州村山社蠶種部
社長

●秋蠶飼育者の名を拾も天上の星の如し其中其に能く其業に忠なる者果して幾何かあるか（蠶業相に忠職して精良蠶種を）

改良春蠶種販賣廣告

一春蠶又昔

種類は一限り通稱（佐平又）
代價は一枚白蛾付金貳圓五拾錢
普通製品は卵付金拾錢
送金は郵便局は鳥取市灰町局とす
荷造料は手前にて自弗す
右ハ本縣原蠶種種繭審査會ニ於テ合格セルモノヲ原料トシ製造セリ飼育平易ニシテ解舒圓滑纖度整齊類節寡少ナルハ本種ノ特長ニシテ世既ニ定評アリ

鳥取縣鳥取市東品治村
山内虎藏

無毒鮮全春蠶種
白龍元蠶種業
白龍館
長野縣小縣郡長瀬村　館主　久保田宇右衛門

白龍、中巢、小石丸、又昔、青熟、姫蠶、

蠶種購入廣告

長巣又昔（原種用十萬蛾）（普通製二千枚）
右岡東地方ノ製品買入タル樣合ノ方ハ見本種一枚ニ出發
但馬國　出石町
池田孝之助

秋蠶種青熟

定價百蛾付金壹圓五拾錢
原種用豐蛾金貳錢五厘
豫約金壹枚に付金參拾錢
精撰無毒强健蠶兒齎正强壯飼育容易糸量豊富にして眞に無比の良種なり

福島縣伊達郡梁川町
大竹卯兵衛

春蠶種純粹
熊本縣鹿本郡出東村
蠶友社

●第三回四回五回博覽會有功賞牌受領
春蠶種中巢又昔小石丸白龍御需に應ず
代價其他の事項は御一報次第詳細御回答致候
長野縣小縣郡上田町常盤城　蠶種業報國館
振替貯金口座貳九〇六番、館主田中吉右衛門

●原種用四枚金貳圓五十錢
●普通製一枚金壹圓五十錢

土佐特産桑苗

今般高知縣蠶絲同業組合技手ノ職ヲ辭シ專心桑苗生育販賣ニ從事致候間多少ニ不拘御購求之上他ト比較御試培アランヿヲ希上候

純粹 **魯桑實生苗** 一年生純粹魯桑實生苗ニシテ速成密殖桑園用ニ生育セルモノナリ

早生 **四方吠接苗** 發芽ノ早キヿ早生中第一位ヲ占メ樹勢旺盛ニシテ萎縮病ニ罹ルヿ殆ド稀ニシテ收葉豊富ノ良種ナリ

純粹 **魯桑接苗** 丸葉青木ニシテ葉ハ密着シ樹性强盛ニシテ高木作ニ適ス多收ノ良種ナリ

其他各種生育致居候間御一報次第種類及代價等御通知可申上候

土佐國香美郡明治村

上島永治

（農商務省蠶業講習所出身）

東京蠶業講習所試驗飼育の標準

春夏秋蠶蟻量 壹匁飼育標準表

壹枚金壹錢 郵税貳拾枚迄毎に金貳錢

右は本會々報第百四拾五號附錄として會員に頒ちたるに大に好評を博し爾來再販に再販を重ね數十萬枚を印刷せり爲に往々印刷不鮮明のものありしが今回更に**鮮明なる寫眞版**となし數萬枚を印刷し汎く當業者に頒たんとす要望の方は此際至急申込あれ

大日本蠶絲會

本會第二回繭外二品々評會左記の通擧行致候間此段廣告候也

三十九年九月 **大日本蠶絲會島根支會**

開會 十月十日
褒賞授與式 同月十日
閉會 同月十三日
總集會 同月同日

風穴種製造豫告

八月廿五日より九月十日迄

養蠶の豊凶は蠶種の良否にあり能全無毒本社保險の蠶種は一枚壹錢五厘に付壹枚金壹圓七拾錢に付壹枚金壹圓七拾錢にて試育せられよ

春蠶種 製絲用全面產特別一蛾繭壹枚金壹圓七十錢五厘以上割引原種用一枚金七拾錢 ◎數割引 ◎繭又背中暴白繭青熟

風穴種 本社製造の風穴種は既に年々歲々幾多實驗家の定評あるを以て今茲に贊せず品切豫約以外一枚もなし三十年度製造の分三十八年度製造の分品切豫約以外一枚もなし三十年度製造の分一八月二日五十錢より發蛾す至急豫約申込を希望す全面產原種用一枚金七十錢多數は割引す 一圓二十錢二十枚以上一圓十錢產原種用一枚金七十錢多數は割引す

晩秋蠶種 例年の通り本社第二事務所に於て八月十五日より製造す種類白龍大白華千代鶴雲白代金壹枚壹圓卅五錢委細營業案内を一讀せられよ

紀念品 養蠶靈神掛物（古樣幽の筆）功勞紀念杯等贈品に關する規定各種繭寫眞地方委員撰任蠶種割引等に附隨する詳細の社報御申込次第直に發送

名譽顧問 從三位前田正名君（貴族院議員 農商務省前大臣 正五位勳六等 農學士）
松永伍作君（貴族院議員 農學士 從四位勳六等）
加賀山辰四郎君（長野縣知事 從四位勳六等）
三吉米熊君（長野縣小諸郡川邊村 創業二百六年）

信濃蠶業社

社長 山浦善右工門

（振替貯金口座第壹參參六番）

AVIS.

1°. Le bulletin de l'Association sericicole du Japon est l'organe des membres de cette societé qui compte actuellement plus de 10.811 membres.

2°. Cette Association a pour but de développer toutes les industries de la soie en publiant un rapport mensuel, dans lequel il sera mentionné tous les faits et études sur la soie émanant de savants et intéressés.

3°. Dans ce rapport sera inscrit dans les langues européennes le mouvement mensuel de la Condition des soies de Yokohama, lequel sera distribué aux intéressés étrangers.

4°. L'Association recueillera et publiera les essais et études faits par les interessés étrangers en matière des soies.

La Direction de l'Association Sericicole du Japon.

NOTICE.

1) The report of the sericultural Association of Japan are intended to serve the interest of the members of the association, whose number is over 10.811

2) This association has for its object the development of all silk industries by publishing a monthly report containing the facts and studies on silk by specialists and persons interested in silk.

3) In this report the monthly statement of the Yokohama Silk Conditioning House will be published in a European language for distribution among foreigners interested in silk.

4) The association will collect and publish articles and studies foreigners of topics concerning silk.

The Direction of the Sericultural Association of Japan.

大日本蠶絲會支會及地方委員部設置し ある地區内の會員及有志諸君に稟告

本會會員及有志者にして左記地區内に住居せらるゝ方は會費の納入、會員の紹介、入退會は必ず其地支會又は委員部を經て本會に申込相成度此段稟告致候也

但居所の變更は本會及支會、委員部へ同時に御通知相成度候

明治三十九年九月

大日本蠶絲會

東京支會（東京府一圓）東京府北多摩郡立川村
京都支會（京都府一圓）京都市丸太町通烏丸西入
新潟支會（新潟縣一圓）新潟縣中蒲原郡五泉町
茨城縣委員部（茨城縣一圓）茨城縣廳構内
三重縣委員部（三重縣一圓）三重縣廳構内
山梨支會（山梨縣一圓）山梨縣廳構内
滋賀支會（滋賀縣一圓）滋賀縣阪田郡長濱町
信濃支會（長野縣一圓）長野市縣町一二
宮城支會（宮城縣一圓）宮城縣廳構内
山形支會（山形縣一圓）山形縣廳構内

（後付八）

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI PAR JOURS.

DIAGRAM SHOWING DAILY MOVEMENT OF RAW SILK

ours. Days.	Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée Sent back.	Exportée. Exported.	Noms des filateurs. Names of filaturs.	Prix. Prices.
	Soie. Silk.					Maximum du prix. Highest prices.
	Piculs.	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*		*Yen*
1	362	131	10	—	Kōnansha.	
2	454	447	—	—	Tenyusha	1.090
3	672	332	5	538	Kanrasha	1.095
4	634	182	—	991	Yatamigumi	1.025
5	—	—	—	—		
6	300	432	—	—	Kokuhōsha	1.095
7	729	316	27	—	Tenriugawasha	1.090
8	525	558	24	572	Kōsuisha	1.020
9	475	223	—	—	Shinkōkan.	1.067 1/2
10	542	325	20	585	Shimizuseishijō	1.040
11	429	330	20	798	Ishi-oka seishijō	1.090
12	—	—	—	—		
13	361	235	—	—	Kōnansha	1.090
14	1.139	473	28	95	Usuisha.	1.050
15	341	788	75	—	Yajimagumi	1.080
16	484	945	65	—	Murakisha	1.070
17	496	324	53	—	Wakosugiseishijō	1.070
18	52	215	36	2.838	Teuminsha	1.065
19	—	—	—	—		
20	555	449	35	—	Tengokiodōshi.	1.070
21	537	345	—	—	Jōnansha.	1.090
22	540	432	23	1.183	Seiyusha	1.090
23	516	510	20	—	Hirosseseishijō	1.090
24	360	80	17	—	Sakurashimakan	1.075
25	13	436	53	1.561	Yajimagumi	1.067 1/2
26	—	—	—	—		
27	440	368	25	—	Tanakaseishijō	1.067 1/2
28	582	616	24	241	Keiteisha.	1.095
29	863	802	46	—	Sanyeisha.	1.080
30	444	421	17	—	Tōkōsha	1.085
31	557	494	20	2.529	U-uisha.	1.070
Total	14.075	8.513	11.287	11.931		

1 yen want environ fr. 2.50. 1 Picul = 60 kilg environ.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI EN DIVERSES INDUSTRIES.

(Aout 1906)

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

(August 1906)

		Report. Brought over.	Arrivé. Arrived.	Vendu. Sold.	Exporté. Export.	Renvoyé. Sent back	Ensporter. Brought forward.
Filature.	Filature.	*Picul.* 4.430	*Picul.* 10.314	*Picul.* 8.954	*Picul.* —	*Picul.* 167	*Picul.* 6.241
Zugori.	Bereel.	421	2.743	1.617	—	24	1.121
Kakoin.	Orihayshi.	48	1.616	717	—	—	671
Autres.	Other.	9	38	—	—	—	43
Total.		4.900	14.311	11.288	11.931	191	8.078
1905.		4.412	12.916	10.794	9.401	175	6.613

CONTENTS.

Contributions:

Development of sericultural industry and the extension of our Association,............ Baron N. Mrtsudaira.
My thoughts and opinions about the sericultural industry, ...K. Maruoka.
On the newly-discovered bacterium of silk-worm disease,......................K. Tamura.
On the evil effects of transaction in fresh cocoons,..................................I. Ishii.
Sericultural industry and manufacturing guilds,.......................Baron T. Hirata.
On the value of "Road",..Y. Ikeda.
Tussah-rearing industry in Manchuria and Chefoo,...............................S. Shionoya.

Opinions:

Gregarious body of animals,..A. Oka. *Rigakuhakushi.*
Secret of drying cocoons...S. Yamamoto.
Necessity of knowing the habits of various races in the world,..S. Tsuboi, *Rigakuhakushi.*
Some caution for buying silk-worm eggs, ...R. Tanaka.
Our children and theirs,...M. Miwata, *Bungakushi.*
Bivoltini of *agyang sericaria*,..Y. Watanabe.
Serious defects in our banking system,.....................T. Amano, *Hogakuhakushi.*

General News:

Out of the life of J. Hashimoto.
The much-lamented M. Laurent de l'Arbousset.

Conversations:

Sericultural industry in our north-eastern provinces,..........J. Omori, *Nogakuhakushi*
Out of France, ...K. Minemura.
Summer and autumn silk-worms as seen by me, ...T. Ozawa.

Lectures:

On spinning...T. Kanetsu.

Queries and Answers:

On the feeding of silk-worms.
On the chambon system of spinning.
On the corpuscle disease of silk-worm.
On the disinfection.

Condition of Raw-silk Markets:

Yokohama market.
New York market.
Lyons market.
Shanghai market.
Milan market.

Foreign News:

Silk-worm rearing among Koroan women, ...S. Tanaka

Miscellaneous News:

Reports of the Japan Sericultural Association, etc.

MARCHÉ DES SOIES.

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Voici la situation de notre marché au mois d'Août dernier.

P ndant les dix premiers jours, le titre ferme extra No. 1 a montré une tendance de tomber au dessous de 1.000 yen. Mais les demandes étant venues tant de la part de l'Europe que de l'Amérique, les prix sont devenues fermes et ils ont accusé une hausse tantôt de 3 yen tantôt de 5. Dans la dizaine suivante, les prix ont de nouveau progressé de yen 1.030 à 1.035 pour monter enfin à 1.040 dans la dernière dizaine. Aussi, le marché devient-il très actif; d'importantes transactions ont été enregistré s. *Orikayeshi* de *Itto-Uma*, *Zaguri* de *Nambu*, ainsi que le titre fin de *Juaoka*, qui étaient de 1.000 yen, de 1.040 et de 1.090 au commencement de ce mois, ont fait un brusque progrès de yen 20, de 30 et de 10 respectivement. Le nombre de balles traitées pendant ce mois a été de 15.134 1/2, celui de balles vendues, de 20.066 1/2 et celui de balles exportées, de 11.931.

Les tableaux suivants indiquent d'ailleurs le mouvement des soies durant la même période.

RAW SILK MARKET.

MARKET OF YOKOHAMA.

Condition of our raw-silk market of Yokohama in the month of August is as follows.

During the first ten days the brand extra No. 1 showed a tendency to fall in quotation even under yen 1,000. But orders being received both from Europe and America, the quotation gradually came to be settled, and indeed to gain by 3 or 5 yen at one time. In the next ten days, however, the quotation made an advance from yen 1,030 to yen 1,035, which became subsequently yen 1,040. As it was, the market became very active and brisk, many a big transaction being conducted. *Origayeshi* of *Ittouma*, *Zaguri* of *Nambu*, *(Joshu)* as well as the fine-size silk of *Junaka*, which commanded each, at the beginning of the month under review, yen 1,000 yen, 1,040 and yen 1,090, came to show an increase, in quotation, of yen 20, yen 30 and yen 10 respectively. The number of the bales treated during this month was 15,134 1/2, that of the bales sold, 20,066 1/2, and that of the bales exported, 11,931. Altogether, the condition of the market in August was very bright and satisfactory.

Following tables show the movement of the raw-silk market during the same period.

BULLETIN

DE

L'ASSOCIATION SÉRICICOLE DU JAPON.

No 172.

20 Septembre 1906.

SOMMAIRE.

Articles de fond:

Le développement de l'industrie séricicole et celui de notre Association..... .....Baron M. Matsudaira.
Mon opinion sur l'industrie séricicole..... ..... K. Maruoka.
Sur la nouvelle maladie bactrienne des vers..... .....K. Tamura
Sur les abus de la transaction des cocons frais..... I. Ishii.
L'industrie séricicole et le syndicat professionnel... ..... Baron T. Hirata.
Sur les prix de Roso (une sorte de mûrier) .....Y. Ikeda.
Sur la filature de tussah à Mandchourie et à Chefoo.....S. Shionoya.

Opinions diverses:

Sur le corps des animaux.....*Rigakuhakushi* A. Oka.—Une manière secrète de sécher des cocons..... S. Yamamoto.—Nécessité urgente d'apprendre les moeurs de toutes les races humaines du monde.....*Rigakuhakushi* S. Tsubo'.—Attentions à faire sur l'achat des graines.....R. Tanaka.—Les enfants de notre pays et des étrangers.....*Bungakushi* M. Miwata.—Le bivoltin de *Ugyay sericary*.....Y. Watanabe.—Grand Défaut de nos banques..... *Hogakuhakushi* T. Amano.

Essais et Faits divers:

Récits historiques de Monsieur Jubei Hashimoto.
Regrettons la mort de M. Laurent de l'Arbousset.

Visite et Entretien:

L'industrie séricicole au Nord-Est du Japon.....*Nogakuhakushi* J. Omori.
Quelques récits sur mon voyage en France.....K. Minemura.
Mon opinion sur les vers d'été et d'automne.....T. Ozawa.

Cours:

Sur la filature..... .....Tsuta Kaneatsu.

Questions et Réponses:

Sur l'alimentation des feuilles de mûrier.—Sur la filature à la Chambon.—sur le corpuscule.—Sur la desinfection.

Marché des Soies:

Marché de Yokohama.—Marché de New York.—Marché de Lyon.—Marché de Shanghai.—Marché de Milan.—

Nouvelles étrangères:

La séricicuiture de l'Association des femmes en Corée.....S. Tanaka.

Nouvelles diverses:

Notes sur le service de notre Association.

TOKYO.

Association Séricicole du Japan.
(Dai Nippon Sanshi Kwai)
No 2. Mitoshirocho, Sanchome, Kanda, Japon.

明治二十五年四月七日内務省認可（明治三十九年九月二十日發行）